

2027年度 専門演習Ⅰ 講義要項



政治経済学部

政治学演習Ⅰ

整理番号	科目名	副題
101	政治学演習Ⅰ(浅野豊美)	国民概念の探究—世界の紛争原因としてのナショナリズム理解と国際和解の考察と合わせて
102	政治学演習Ⅰ(稲継裕昭)	行政の諸活動を分析する
103	政治学演習Ⅰ(稲村一隆)	政治哲学・思想史
104	政治学演習Ⅰ(梅森直之)	紛争解決学への思想史的アプローチ An intellectual historical approach to conflict resolution studies
105	政治学演習Ⅰ(尾野嘉邦)	選挙と投票行動
106	政治学演習Ⅰ(粕谷祐子)	アジアと民主主義/ Asia and Democracy
107	政治学演習Ⅰ(国吉知樹)	現代日本外交の分析
108	政治学演習Ⅰ(栗崎周平)	国際政治の理論研究・実証研究 Scientific Study of International Relations
109	政治学演習Ⅰ(小林哲郎)	メディアと世論の関係について学ぶゼミ
110	政治学演習Ⅰ(小原隆治)	自治・分権を考える
111	政治学演習Ⅰ(清水潤)	法と憲法を学ぶ
112	政治学演習Ⅰ(シュラトフヤロスラブ)	ロシア近現代史
113	政治学演習Ⅰ(白糸裕輝)	現代数理統計学基礎演習 / Exercises in Modern Mathematical Statistics
114	政治学演習Ⅰ(ソジェ内田恵美)	政治言語学—ディスコース分析の理論と実践
115	政治学演習Ⅰ(田中孝彦)	冷戦期および冷戦後国際政治の歴史的過程と国際秩序の変容—1945年-2025年
117	政治学演習Ⅰ(仲内英三)	近現代西欧政治社会の歴史
118	政治学演習Ⅰ(日野愛郎)	現代政治の実証分析(Empirical Analyses of Contemporary Politics)
119	政治学演習Ⅰ(蛭田圭)	政治思想
120	政治学演習Ⅰ(谷澤正嗣)	現代リベラリズムとその批判

経済学演習Ⅰ

整理番号	科目名	副題
201	経済学演習Ⅰ(安達剛)	経済学を用いた問題発見・解決能力を養う
202	経済学演習Ⅰ(荒木一法)	企業と家計の行動分析(応用ミクロ経済学)
203	経済学演習Ⅰ(有村俊秀)	環境経済学
204	経済学演習Ⅰ(上田晃三)	日本の経済・物価情勢の分析: ミクロデータからの分析
205	経済学演習Ⅰ(大湾秀雄)	人事と組織を科学する
206	経済学演習Ⅰ(小倉義明)	金融の統計分析
207	経済学演習Ⅰ(山山宗親)	データ分析とマクロ経済
208	経済学演習Ⅰ(金子昭彦)	マクロ経済分析と国際金融
210	経済学演習Ⅰ(小林和夫)	グローバル経済史の研究—植民地主義と経済
211	経済学演習Ⅰ(西郷浩)	社会・経済の統計的分析
212	経済学演習Ⅰ(笹倉和幸)	マクロ経済学の歴史的・理論的研究
213	経済学演習Ⅰ(鎮目雅人)	世界の中における日本経済の歴史/Japanese economy in the modern world
214	経済学演習Ⅰ(田中久稔)	経済学のための数学
215	経済学演習Ⅰ(遠山祐太)	産業組織論、経済政策、消費者行動に関する実証研究
216	経済学演習Ⅰ(内藤巧)	国際貿易論
217	経済学演習Ⅰ(別所俊一郎)	日本の公共政策に関する実証分析
218	経済学演習Ⅰ(星野匡郎)	ミクロ計量経済学と機械学習
219	経済学演習Ⅰ(村上由紀子)	労働に関する研究
220	経済学演習Ⅰ(森口千晶)	経済学で歴史を読み解く
221	経済学演習Ⅰ(山本竜市)	ファイナンス
222	経済学演習Ⅰ(若田部昌澄)	経済学的思考を身につける: AI時代に君たちはどう生きるか

国際政治経済学演習Ⅰ

整理番号	科目名	副題
301	国際政治経済学演習Ⅰ(大森佐和)	国際・国内政策の実証的研究を学ぶゼミ
302	国際政治経済学演習Ⅰ(久保慶一)	現代世界の武力紛争と紛争後平和構築
303	国際政治経済学演習Ⅰ(小西秀樹)	財政問題の研究
304	国際政治経済学演習Ⅰ(齋藤純一)	近現代の政治理論
305	国際政治経済学演習Ⅰ(清水和巴)	人間と社会の政治経済学
306	国際政治経済学演習Ⅰ(高橋百合子)	グローバルサウスの比較政治経済学 Comparative Political Economy of the Global South
307	国際政治経済学演習Ⅰ(多湖淳)	戦争と平和の科学を楽しく学ぶゼミ
308	国際政治経済学演習Ⅰ(唐亮)	現代中国の政治経済と外交戦略
309	国際政治経済学演習Ⅰ(遠矢浩規)	国際政治経済の理論と分析
310	国際政治経済学演習Ⅰ(戸堂康之)	開発経済・国際貿易・日本経済に関するデータ分析
311	国際政治経済学演習Ⅰ(濱野正樹)	国際マクロ経済学
312	国際政治経済学演習Ⅰ(深川由起子)	現代東アジア政治経済研究: 変容するグローバリズムと新興国の経済発展

ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ

整理番号	科目名	副題
401	ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ(田中幹人)	ハイブリッド・メディア時代のメディア研究
402	ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ(土屋礼子)	近現代史におけるメディアとプロパガンダ、およびジャーナリズム
403	ジャーナリズム・メディア演習Ⅰ(中村理)	内容分析を中心に用いたメディア・メッセージの実証研究(演習I: ヒューマン・コーディング/演習II: コンピュータ・コーディング)

学際領域演習Ⅰ

整理番号	科目名	副題
501	学際領域演習Ⅰ(生駒美喜)	話しことばと現代社会(1)
502	学際領域演習Ⅰ(岡本暁子)	行動生態学と隣接諸科学I
503	学際領域演習Ⅰ(マルチ・オロバル ベルナット)	近世・近代における宗教思想 History of Religious Thought in Modern and Contemporary Times
504	学際領域演習Ⅰ(室井禎之)	コミュニケーションとことば
505	学際領域演習Ⅰ(ロベスアルフレド)	西洋文学論

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
101	政治学演習 I (浅野豊美)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	浅野 豊美
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

国民概念の探究—世界の紛争原因としてのナショナリズム理解と国際和解の考察と合わせて

授業概要 Course Outline

外交的妥協は、利益やパワーを計算し国益を折半して行われ、主体としての国民そのものは変化がない。他方で、「国民的和解」は国民という巨大な集団を作っている共有された記憶の変容を伴い、無意識のうちに相互の記憶が変容しているような状態と定義される。相手の意思を自分の意思に従わせるパワーに対して、意思相互の協調の基盤としての集合的記憶に注目するのが、国民的和解である。

東アジアでは「国民」形成が100-160年の間に急速に、国家主導で行われ、その国家が帝国として植民地支配も戦争も行った。また、冷戦下では、独立した国家が開発独裁の主体となった。こうした歴史的背景から、さまざまなイデオロギー（普遍的なものそれぞれ信じられる）と結びついて集合的記憶は論争されながら編成されている。上からの開発・豊かさ、下からの人間の尊厳と自由かが、国民的記憶のあり方をめぐって、国境を超えて、また、国内においても、いまだに摩擦・対立を続けている状態と定義できるであろう。授業では、国民、という存在を成立せしめている集合的記憶に焦点を当て、それを冷静に対象として認識し、各自の研究テーマ（安全保障・経済・文化に関わるもので各自が選択）に活かせるようにしてほしい。

授業の到達目標 Objectives

- ・右や左の政治的に極端な議論に面してもたじろがずに、冷静に対応できる軸を各自が持つこと。
- ・政治学と国際関係学の理論と、グローバルヒストリーとしての東アジアと日本の歴史学とを、対話させながら、長期的な時間軸をもって、現在の現象を認識し、独自に考える力を養う。そのため、テキストブックのどれか一冊を取り上げて、著者に問いかけ、社会に十分通用するような説得力のある卒業論文を仕上げるのが目標となる。2年間は、その目標に向けて、関連する本と付き合わせて、皆で一緒に深く読みます。
- ・一回しか起きない現象としての現在の世界情勢は、過去のなんらかの側面を反復しつつ、全く新しい変化を伴ってスパイラル的に生じる。そのようなイメージで、現実を自分なりに認識・判断する力を養う。つまり、各自が関心を持つ分野とそれぞれの価値（安全—平和・経済—豊かさ・文化—生きがい）が、国民という巨大な集団を単位としつつ、それを超える地域や、その内部のより小さな団体をも視野に入れて、どのように世界を構成しているのかをイメージできるような知的体力と現実への構想力を養うことに、論文執筆はつながっていくでしょう。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

・プレゼミでやった、高坂正堯『海洋国家日本の構想』、山室信一『日露戦争の世紀』『アジアの思想史脈』を念頭に、戦後日本社会というものをベースにしながらも、リンハント『人権の創造』の日本語訳、ベネディクトアンダーソンのナショナリズム理論、そして英語のテキスト（Moyn, Samuel. The Last Utopia: Human Rights in History, Harvard University Press, 2010: E-bookで読める）を購読する。

自分の身の回りの経験を思い出しながら、集合的記憶ゆえに社会が統合されているというリンハント『人権を創造する』+アンダーソン『想像の共同体』意味を、8月のドキュメンタリーを中心に考えて欲しい。

日本自身の歩みをじっくりと読みながらも、その背後にある、普遍的価値としての、人権とは何か、豊かさとは何かを、考えて欲しい。海洋は、豊かさをもたらしてくれる潜在的な空間であると同時に、大陸は忘れ去られるべき記憶の対象となりがちであると、簡単には言えそうである。

・プレゼミでは、まず、高坂正堯『海洋国家日本の構想』、山室信一『日露戦争の世紀』『アジアの思想史脈』について、今まで日本語・英語で出た書評を読み、ナショナリズムを自分なりに考えるミニレポートの執筆を目標とします。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：
オリエンテーション（ゼミの目的と概要）／本ゼミの目的と概要について説明します。
- 第2回：
プレゼミで行った高坂正堯『海洋国家日本の構想』、山室信一『日露戦争の世紀』『アジアの思想史脈』のフォローアップ議論
- 第3回：
リンハント『人権を創造する』の購読
- 第4回：
リンハント『人権を創造する』の購読
- 第5回：
リンハント『人権を創造する』の購読
- 第6回：
リンハント『人権を創造する』の購読
- 第7回：
リンハント『人権を創造する』の購読
- 第8回：
リンハント『人権を創造する』の購読
- 第9回：
ベネディクト・アンダーソン、白石隆・白石さや訳『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』（書籍工房早山、2007年）の購読
- 第10回：
ベネディクト・アンダーソン、白石隆・白石さや訳『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』（書籍工房早山、2007年）の購読
- 第11回：
ベネディクト・アンダーソン、白石隆・白石さや訳『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』（書籍工房早山、2007年）の購読
- 第12回：
購読：Moyn, Samuel. The Last Utopia : Human Rights in History, Harvard University Press, 2010
- 第13回：
購読：Moyn, Samuel. The Last Utopia : Human Rights in History, Harvard University Press, 2010
- 第14回：
購読：まとめ、各自の問題意識の整理

教科書
Textbooks

<以下の4冊を教科書として、この3冊を深く関連させて読むことがゼミの目標となります。E-bookあり、また、購入を勧めます>

- ・リン・ハント『人権を創造する』
- ・ベネディクト・アンダーソン、白石隆・白石さや訳『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』（書籍工房早山、2007年）
- ・アライダ・アスマン『想起の文化—忘却から対話へ』岩波書店
- ・Moyn, Samuel. The Last Utopia : Human Rights in History, Harvard University Press, 2010

<以上を読むための基礎文献として以下があります。さらに参考文献とあるのは3号館地下の学生読書室にあります>

- ・ドブ・ローネン『自決とは何か』刀水書房
- ・Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013

参考文献
Reference Books

宮城大蔵『「海洋国家」日本の戦後』ちくま新書、2008年。
 三谷太一郎『近代日本の戦争と政治（岩波人文書セレクション）』（岩波書店、2010）
 酒井哲哉『近代日本の国際秩序論』（岩波書店、2007年）
 浅野豊美『戦後日本の賠償問題と東アジア地域再編—請求権と歴史認識問題の起源』慈学社、2013年。
 浅野豊美『帝国日本の植民地法制』名古屋大学出版会、2008年。
 藤田 覚『天皇の歴史6 江戸時代の天皇』講談社学術文庫
 黒川祐次『ウクライナの歴史 ヨーロッパ最後の大国』中公新書。
 ゲルナー、加藤節監訳『民族とナショナリズム』岩波書店、2000年
 浅野豊美『和解学叢書 第一巻 和解学の試み』

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	なし
レポート Papers	40%	最終レポート執筆以前に、予備的なレポートを少なくとも一回課す。
平常点評価 Class Participation	30%	演習への出席、授業参加意欲を総合的に評価する。 三回以上無断欠席したものは単位を取れない。
その他 Others	30%	レジュメ（報告の際に準備してくるプリント）

備考・関連URL
Note・URL

講義に全く出たことがないヒトは以下の模擬講義が参考となる。
<http://www.waseda.jp/taiken-waseda/academics/school/pse/>
 以下が、自己紹介のHP。 将来は、ゼミのためのHPを作成する予定。
<http://www.f.waseda.jp/toasano/index.html>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
102	政治学演習 I (稲継裕昭)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	稲継 裕昭
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

行政の諸活動を分析する

授業概要 Course Outline

行政の諸活動は私たちの生活に知らず知らずのうちに大きな影響を与えている。

ある行政活動は、どのような構造のもとに、どのようなアクターが、どのように行動することによって行われているのか。

基礎的なことを学ぶとともに、いくつかの行政課題およびその解決策を特定し、なぜそのような行動がとられたのかその原因を考える。

ゼミのキーワードは、「書を持って街へ出よう」です。理論と実践の統合を目指します。教室による輪読などの座学と、フィールドワークとを組み合わせているのが、当ゼミの特徴です。輪読などによる基礎知識の習得と、現場に出たり（現場の方を迎えたり）して、実践的な動きを把握することとを組み合わせる学びます。プレゼミでは基本書を読み、3年生からは実践を経験しつつそれを理論的に分析することを目指します。3年次にグループ研究を進めて、調査方法や分析方法について学び、4年次には個々人の卒論を仕上げます。

中央省庁や地方自治体の幹部や若手職員をゲストスピーカーとして招く場合があります。

2022年以降の実績・・総務大臣政務官（衆議院議員、元自治官僚）、総務省公務員課長、総務省若手官僚、財務省主計局若手官僚、福井県越前市長・元福井県副知事、国会議員（元防衛大臣）、CodeForJapanスタッフ/滋賀県日野町参与、デベロッパー若手、シンクタンク若手、商社若手、文部科学省中堅課長、東京都デジタルサービス局長、新宿区商店街連合会会長（元衆議院議員）、自治官僚（県部長出向中）、King's College London准教授、シンクタンク主席研究員、大阪府吹田市長、(26年度後半予定 若手衆議院議員（ゼミOB）、IT系若手など）

#中央省庁や地方自治体を訪れてヒアリングなどを行う場合があります。

2022年以降の実績

福井県越前市役所（市長面会）、豊島区役所、富山県庁（知事面会）、金沢市役所、高山市役所、三重県伊勢市役所、多紀町役場、高知県日高村、梶原町、高知県庁、山口県山口市（市長面会）、岩国市、

2024年度、北海道土幌町、長崎県長崎市（副市長面会）、大村市（市みや長面会）、坂出市、高松市（市長面会）

2025年度、夏、熊本県庁、熊本県益城町、熊本県菊陽町、宮崎市、都城市（市長面会）、宮崎県新富町、

2026年春、岡山県津山市、美咲町（町長懇談）、総社市、2026年夏、山形県酒田市（市長面会）、山形市（副市長面会）、富山県朝日町、舟橋村、氷見市、(2026年後半予定、デジタル庁など)

#1年間を通して特定の自治体にフィールドワークに入り、政策提言を行っています。

2018年茅ヶ崎市、岡山県真庭市、2019年岡山県美咲町、2020年岡山県美咲町、茅ヶ崎市、2021年茅ヶ崎市、2022年茅ヶ崎市、2023年茅ヶ崎市、荒川区日暮里繊維街（地域活性化のご提案）、

2024年の場合、3年生＝茅ヶ崎市、日暮里繊維街（こちらはプレゼミ生に引継ぎ）、4年生＝福井県（ウェルビーイングに関する提言。小浜市・越前市・県。福井県庁と早稲田大学とで契約をしていました）

#合宿は、3年の夏、3年の冬、4年の夏の3回、2泊3日で行います。合宿への参加は単位取得のために必須です。

コロナ禍期間中は殆どできませんでしたが、現在は完全に元に戻っています。過去3年間、合宿は次の場所で行いました。

2022年夏は4年生が富山県庁、金沢市役所、3年生が越前市役所、2023年春は3年生が高山市役所。

2023年夏は4年生が三重県（伊勢市、多気町）、3年生が高知県（日高村、梶原町）、2023年冬は3年生が山口市役所、岩国市役所

2024年夏は4年生が北海道（土幌町中心に3泊4日）、3年生が長崎県（長崎市、大村市）、冬は3年生が香川県（坂出市、高松市、高松丸亀商店街）

2025年夏は4年生が宮崎県（都城市、宮崎市、新富町中心に3泊4日）、3年生が熊本県（県庁、益城町、菊陽町）、冬未定

授業の到達目標 Objectives

行政に関する諸課題について政治学的に考察する力、文章で表現する力を培う。
論理的に考え書き発表する能力を養うこと。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

プレゼミで、『行政学』（曾我謙吾）を読んでもらいます。
その報告の過程で、パワーポイントの作成の仕方、効果的なプレゼンの方法、論理的思考を身に付ける種々の取り組みを行います。
報告に際してはそれぞれ4年生のメンターがつきます。
プレゼミは例年、毎週火曜日の5時限に教室に来ていただいて、上級生に交じって受けてもらっていました。

フィールドワークで出かける時（プレゼミ期間中に、1回か2回）は、3時限終了後すぐに大学を出発します。（遠方へ行く場合は、2時限終了後に大学を出発することもあります）。
例年、プレゼミ期間中にフィールドワークに出かけます。

本ゼミでは、毎週輪読（ウィブル『公共政策』—全員が課題をこなして、グループに分かれて全員が報告）、ディスカッションなど、盛りだくさんです。

授業計画 Course Schedule

第1回－第5回：演習イントロ。R入門講座、ウィブル『公共政策』輪読、「行政学」の残りの輪読。

第8回－第14回：ゼミ生で決めてもらいます
1、2回のフィールドワークと、1、2回のゲスト講師。

合宿は参加必須ですが、行き先や時期はゼミ生で話し合って決めます。これまでは、3年夏、3年冬、4年夏の3回の合宿をしてきました。

2泊3日の日程は、おおむね1日目、2日目に自治体を訪問しヒアリングなど、3日目は適宜観光等を行っています。

その他ゼミ生主体で予定を決めていきます。

なお、合宿参加は必須で、合宿に不参加の場合は単位不可となります。

大勢で行動することが苦手であるなど合宿参加ができない人は最初から申し込まないでください。

教科書 Textbooks

曾我謙吾『行政学』有斐閣アルマ

Weible著（稲継他訳）『公共政策—政策過程の理論とフレームワーク』成文堂

すでにプレゼミで輪読を終えているテキスト（北山俊哉ほか著『初めて出会う政治学』、久米郁男『原因を推論する』、戸田山和久『新版 論文の教室』、北山俊哉・稲継裕昭編著『テキストブック地方自治』）も適宜参照することがあります。

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation		
	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	55%	特別の事情がない限り欠席を認めていませんので、欠席の際には大きく減点。なお、5時限で終わらず6時限に延長することもあるので、サークルへ活動が火曜日にある人は継続が困難です。6時限でも対応できる人に限り受け入れます。 課題のMoodleへの期限内提出。(期限に遅れると大きく減点) 報告内容、討議への参加度。レポート課題に対し剽窃が見つかった場合は厳しく対処します。
その他 Others	45%	行事(合宿、フィールドワーク、その他)への参加度も評価の対象となります。合宿への参加は必須。参加できない人は申し込まないでください。

備考・関連URL Note・URL

ゼミ生たちが自主的に作成・運営しているゼミのホームページ（作成に稲継は関与していません（PWも知らない）が、適切に作成してくれており、ゼミ活動やゼミの雰囲気を知る上で大変参考になると思います）
<http://inatsuguzemi.wix.com/wasedapse-undergrad>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
103	政治学演習 I (稲村一隆)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	稲村 一隆
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

政治哲学・思想史

授業概要 Course Outline

政治哲学は社会規範について探究する学問です。国際援助と分配の正義、能力主義、正戦論、フェミニズムと結婚、人権と動物の権利、といったトピックについて、現代社会で生じている問題を知ると同時に、そうした問題の背後にある考え方をすることが主眼です。そこで具体的な事例から出発しつつも、理論的にかつ歴史的に広い視野で考察することになります。

まずインプットが重要なので、授業では政治哲学の基本文献を通して上記のトピックを学んでいきます。基本文献として、西洋政治思想史の古典を講読したり、現代の理論的な著作を検討したりしています。どのテキストを扱うかは参加者の関心に応じて決めています。前者の例として、プラトン『国家』、アリストテレス『政治学』、ロック『統治二論』、カント『永遠平和のために』、ミル『自由論』、アーレント『人間の条件』、フーコー『性の歴史』など、後者の例として、アマルティア・セン『不平等の再検討』、アイリス・ヤング『正義と差異の政治』、ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』など。最近では、歴史学や文化人類学の視点を通して政治哲学の課題に取り組むことを重視しています。論理的に分析するだけでおしまいとするのではなく、想像力を働かせて、他の文化や他の時代のことを理解しようとする姿勢を推奨しています。

一人で読んで理解するのは難しくても、みなで議論しながら考察すると、学部生の間に十分に理解を深めることができるようになります。

本演習の特色の一つとして、論文の執筆を重要視しています。教員の英国での経験を生かして、政治哲学・思想史分野での論文の書き方を学習します。

トピックの選定については参加者各自の自主性を尊重しつつ、任意のトピックについて十分に資料を収集してから、毎学期、レポートを書きます。

自分と異なる見解を持つ人も説得できるように、丁寧に議論を作る訓練をします。

授業の到達目標 Objectives

- 1) 当該分野の古典を読む訓練を積むこと。
- 2) 当該分野の英語論文を読む習慣を身につけること。
- 3) 当該分野で論文を書く技法を身につけること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

あらかじめ指定された文献を読んで議論したい点を考えてくること。毎回、予習が必要になります。

また期末レポートに向けて、自分でトピックを選び、それに必要なことを自分で調査することが求められます。

何をトピックにするかは参加者の自主性を尊重しています。

授業計画
Course Schedule

具体的な計画は学期のはじめに参加者と相談の上、決定します。

3年次は文献の講読を中心に行います。テキストを読む訓練を積みみます。

4年次は文献の講読だけでなく、卒業論文の作成にも取り組みます。先行研究を踏まえた上で、新しい議論を提示することが求められます。

期末レポートをもとに授業内での討論を通して、徐々に完成できるようになります。

教科書
Textbooks

初回の授業で指定します。

参考文献
Reference Books

政治哲学の入門書として以下を参照：

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』早川書房、2011年。

ジョナサン・ウルフ『「正しい政策」がないならどうすべきか』勁草書房、2016年。

アマルティア・セン『人間の安全保障』集英社新書、2006年。

論文の書き方や、政治哲学・思想史の方法論の著作として以下を参照：

野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年。

デイヴィッド・レオポルドほか（編）『政治理論入門』慶應義塾大学出版会、2011年。

犬塚元ほか「政治思想史の新しい手法特集号」『思想』no. 1143、2019年7月。

リチャード・ワットモア『入門 政治思想史』中央公論新社、2025年。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	十分な調査を行なっているかどうか、議論を丁寧に組み立てているかどうか
平常点評価 Class Participation	50%	授業中の議論に積極的に参加しているかどうか
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
104	政治学演習 I (梅森直之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	梅森 直之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

紛争解決学への思想的アプローチ
An intellectual historical approach to conflict resolution studies

授業概要 Course Outline

「紛争」が、社会生活をおくる人間の宿命であるかぎり、「和解」もまた人間の普遍的な営みの一部である。しかし和解はつねに、一定の歴史的・文化的刻印を帯びてあらわれる。紛争を生み出す社会の編制は多様であり、また歴史的に変化するものであるからである。本セミナーでは、紛争と和解をめぐって積み重ねられてきた人類の思索と実践を、思想的視座からとらえ直し、未来に向けた社会構築のヴィジョンを構想する。本セミナーでは、単に既存の紛争を解決するための技術論を目指すのではなく、むしろ「紛争」や「和解」という現象そのものの構造を、それに対する原理的な反対を含め、根源的に考察することをめざす。具体的には、もっぱら東アジアの歴史を事例として用いながら、そこに現れた諸問題を、「ナショナリズム」、「ジェンダー」、「資本主義」という三つの視座から、解きほぐすことを試みる。東アジアの歴史を、具体的な問題と重ね合わせながら議論することを通じて、紛争と和解をめぐる解決の糸口を構想する。

As long as conflict remains an inescapable part of human social existence, reconciliation must likewise be regarded as a universal dimension of human activity. Reconciliation, however, always emerges bearing the imprint of particular historical and cultural circumstances. This is because the forms of social organization that generate conflict are diverse and subject to historical change. This seminar reexamines, from the perspective of intellectual history, the ideas and practices that humanity has developed in response to conflict and reconciliation, to envision new forms of social organization for the future. Rather than treating reconciliation merely as a set of practical techniques for resolving existing conflicts, the seminar seeks to investigate the fundamental structures of conflict and reconciliation as phenomena in their own right. This investigation will also include a critical examination of principled objections to reconciliation itself.

More specifically, drawing primarily on historical examples from East Asia, the seminar will explore the problems that have emerged in the region through three analytical perspectives: nationalism, gender, and capitalism. By discussing the history of East Asia in relation to concrete contemporary and historical problems, students will seek to identify possible ways forward in addressing conflict and reconciliation.

授業の到達目標 Objectives

テキストの「読み方」の習得
自分の考えを効果的に伝える「書き方」の練習
生産的に「議論する」訓練
思想史的方法、ならびに社会理論についての基本概念の習得
日本の歴史についての基本的知識の習得
「和解学」の基礎としてのナショナリズム論、ジェンダースタディーズ、資本主義論への理解

Develop skills in reading texts critically and analytically.
Practice writing effectively to communicate ideas clearly.
Engage in productive discussions to exchange perspectives.
Acquire foundational concepts in the historical method and social theory.
Build basic knowledge of Japanese history.
Understand key frameworks—nationalism, gender studies, and capitalism—as foundations for the study of reconciliation.

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

Instructions will be provided in class as necessary.

授業計画
Course Schedule

本ゼミでは、以下の四つの次元において、東アジアの歴史問題の構造を明確化することをめざす。ゼミの進め方としては、関連テキストの輪読と学生の報告に基づく議論が中心となる。

問題に接近する第一の次元は、「歴史とは何か」を根源的に問い直すことである。歴史は、客観的な事実であると同時に、一定の意味を発生させる物語でもある。「歴史」そのものの重層的な構造を解明することを通じて、東アジアの各国の歴史認識が対立する理由とその和解に向けた可能性について議論する。

第二の次元は、「ナショナリズム」である。東アジアの近代を、戦争と帝国主義と植民地主義により織りなされたひとつの歴史空間として把握することを通じて、各国のナショナリズムの特質を構造的に把握することをめざす。

第三の次元は、「ジェンダー」である。「従軍慰安婦」問題は、日韓の国民的対立であると同時に、東アジアにおける女性の社会的位置づけの反映でもある。東アジアにおける女性の歴史を、こんにちのジェンダーギャップ問題と重ね合わせながら振り返っていく。

第四の次元は、「資本主義」である。東アジアに共通する根強い発展志向が、どのように「紛争」を惹起し、またそれを隠蔽してきたかを確認する。

本ゼミでは、具体的なテーマに則したディスカッションに加え、学術論文の書き方、プレゼンテーション・スキルアップの方法等についてのワークショップを、必要に応じて適宜行う。

This seminar aims to clarify the structural dimensions of historical issues in East Asia by exploring them through four key analytical perspectives. The seminar will primarily consist of close readings of relevant texts and student-led presentations followed by discussions.

The first dimension involves a fundamental reexamination of the question: What is history? History is both an objective record of facts and a narrative that generates meaning. By analyzing the multilayered nature of “history” itself, we will discuss the reasons behind conflicting historical perceptions among East Asian countries and explore possibilities for reconciliation.

The second dimension is nationalism. By understanding modern East Asia as a shared historical space shaped by war, imperialism, and colonialism, we aim to identify the structural characteristics of nationalism in each country.

The third dimension is gender. The issue of “comfort women” is not only a source of national conflict between Japan and Korea, but also reflects the broader position of women in East Asian societies. We will revisit the history of women in the region while linking it to contemporary issues such as the gender gap.

The fourth dimension is capitalism. We will examine how the region’s persistent drive for development has both generated and concealed various conflicts.

In addition to discussions on specific topics, the seminar will also include occasional workshops on academic writing, presentation skills, and other relevant competencies as needed.

教科書
Textbooks

授業期間中に指示する。

Instructions will be given during class sessions.

参考文献
Reference Books

梅森直之『初期社会主義の地形学』（有志舎、2016）
 梅森直之編著『ベネディクト・アンダーソン グローバリゼーションを語る』（光文社、2007）
 ハリー・ハルトゥーニアン『近代による超克』（岩波書店、2007）
 コンラート『グローバルヒストリー』（岩波書店、2021）
 Benedict Anderson, Imagined Community
 Harry Harootunian, Overcome by Modernity
 Conrad, Sebastian, What is Global History?

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	授業参加ならびにレポートを総合的に評価する。 Class participation and reports will be evaluated comprehensively.

備考・関連URL
Note・URL

連絡事項：本ゼミナールを希望する学生は、前提科目として、日本政治思想史01、Japanese Political Thought A、Japanese Political Thought Bのいずれかを履修済みか、履修する予定であること

これまでの基礎知識は問いませんが、これからの学習に対する強い意欲と好奇心ならびに知的柔軟性と持久力が必要です。無断欠席3回以上で、評価の対象から外します。

自国の事例を、他国に向けて発信したり、自国以外の国の人々と積極的に議論する意欲と能力を持つ学生を歓迎します。

Important Notice: Students wishing to enroll in this seminar must have already completed, or be planning to take, at least one of the following prerequisite courses: History of Japanese Political Thought 01, Japanese Political Thought A, or Japanese Political Thought B.

No prior knowledge is required, but students must have a strong motivation and curiosity for learning, along with intellectual flexibility and perseverance.

Students with three or more unexcused absences will not be eligible for evaluation.

We welcome students who are eager and able to present case studies from their own countries to an international audience and to engage in discussions with peers from other nations actively.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
105	政治学演習 I (尾野嘉邦)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	尾野 嘉邦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

選挙と投票行動

授業概要 Course Outline

投票行動に焦点を当てた政治行動論の演習です。

人間はいろいろな場面で選択を迫られますが、選挙における投票という行為も選択の一つです。選択を迫られたとき、人はどのように決めるのだろうか、選択を左右するものは何だろうか、より良い選択をするにはどうしたらよいだろうか。フェイクニュースやデジタルテクノロジーなどによって、人々の自発的選択が無意識のうちに誘導されてしまうことはないのだろうか。選挙で当選を目指す候補者ならば、どう行動したらよいのだろうか。

選挙という場面に焦点を当てて、こうした選挙における人々の選択や行動と民主主義の行方について、政治学だけではなく、心理学や行動経済学といった他領域の研究も参考にしながら考え、新しい知見のアウトプットを目指す演習です。その過程で、データの実証分析やサーベイ実験を始め、研究成果のプレゼンテーション、論文執筆などにもチャレンジしてもらいます。また、データ収集の過程において、視線計測装置などを用いた実験を行うこともあります。

授業の到達目標 Objectives

学際融合型の社会科学研究の最前線に触れつつ、社会科学の考え方を学ぶとともに、物事を多様な面から客観的かつ批判的に考えることができる思考力を養う。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

演習時間外に実験課題などに取り組むことが求められます。また、合宿なども行う予定です。

授業計画 Course Schedule

政治学の分野では、学部生の卒業論文や研究が学術雑誌に掲載されるケースが増えてきました。また、最近では米国中西部政治学会といった海外の学会などで、学部生が研究発表を行う機会も設けられています。2年間の演習を通じて、一緒に出版可能な学術研究に取り組んでいきましょう。

前期は、社会科学の基礎的な考え方や研究方法を学びつつ、政治学や心理学、経済学を中心として、投票行動を始めとする人間の行動に関する社会科学の最先端の研究内容や、国際学術誌への投稿プロセスなどについて紹介します(学術論文の査読にも挑戦してもらいます)。ニューロサイエンスや生命科学、AIを活用したテキスト分析・顔形態分析など、工学や自然科学の知見が社会科学にどのように活用されるのか、そしてどのような貢献が可能なのかについても検討していきます。その過程で、先行研究を読んでレビューするとともに、さらに研究してみたいリサーチクエストションについて考えてもらいます。

後期は、各自のリサーチクエストションをもとに、実際の研究に取り組みます。データをどのように集め、分析をしたらよいのか、リサーチデザインを練り、サーベイ実験などを通じて、仮説を検証する作業を行ってもらいます。

Week 1 イントロダクション

Week 2-6 投票行動関連文献研究

Week 7 研究アイデア発表
 Week 8-10 投票行動関連関連文献研究
 Week 11-13 投票行動関連関連文献研究
 Week 14 まとめ

教科書
Textbooks

適宜指定します。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼンテーションのほか、議論への参加・貢献度合いに基づき評価する（2回以上の無断欠席があった場合は、0点とします）
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

この演習では基本的に英語で書かれた文献を扱うとともに、英語でのアウトプットを目指します。海外からのゲストを招いた講演や研究交流なども行われることがあります。参加者には英語読解能力が求められますが、英文を読んだり、書いたり、話したりすることに慣れていない人も、演習での訓練を通じて、そのスキルを磨いていきましょう。また、Rなどを用いた計量分析の能力も求められます。

「計量分析（政治）」（もしくはそれに準じる計量分析に関する科目）の履修を必須とします。3年次終了までに履修してください。

例年、2回の合宿を行っており、原則として、履修者全員の参加が求められます。

プレゼミ生も含めて、全履修者は木曜2限目を空けておいてください。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
106	政治学演習 I (粕谷祐子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	粕谷 祐子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

アジアと民主主義/ Asia and Democracy

授業概要 Course Outline

本演習では、アジアにおける民主主義、アジアにとっての民主主義の問題を、比較政治分析、歴史、思想などの側面から多角的に検討する。近代以降、民主主義の制度と思想はどのようにアジアへ伝播し、各国の歴史的・社会的文脈のなかで受容・変容されてきたのか。20世紀後半の「第三の波」に代表される民主化はいかなる条件のもとで生じたのか。そしてなぜ、一部の国では民主主義が定着した一方で、他の国では権威主義への回帰や民主主義の後退(democratic backsliding)が生じているのか。こうした問いを出発点に、民主主義の概念と測定、民主化の理論、権威主義体制の多様性、選挙制度・政党・執政制度と民主主義の質、偽情報・分極化とメディア環境といったテーマを順次扱う。事例としては、東アジア(日本・韓国・台湾)、東南アジア(フィリピン・インドネシア・タイ・ミャンマー等)、南アジア(インド等)を取り上げる。授業は、日本語・英語の基本文献の講読、受講生による報告と全体討論を中心に進める。あわせて、V-Demをはじめとする国際的な民主主義指標の読み方など、リサーチ・トレーニングを段階的に組み込む。さらに、国内での訪問調査や近隣諸国でのスタディツアーを取り入れ、教室での学びを実際の政治や社会の現場と結びつけることを重視する。授業は英語・日本語の両方で行う予定であるが、受講開始時点での英語力は問わない。

This seminar examines democracy in Asia, and the question of what democracy has meant for Asia, from multiple angles, drawing on comparative political analysis, history, and political thought. How have democratic institutions and ideas spread to Asia since the modern era, and how have they been received and transformed within each country's historical and social context? Under what conditions did the democratization associated with the late twentieth-century "third wave" occur? And why has democracy taken root in some countries while others have experienced authoritarian reversion or democratic backsliding?

Starting from these questions, the seminar takes up a sequence of themes: the concept and measurement of democracy; theories of democratization; the varieties of authoritarian rule; electoral systems, political parties, and executive institutions in relation to the quality of democracy; and disinformation, polarization, and the media environment. Cases are drawn from East Asia (Japan, South Korea, Taiwan), Southeast Asia (the Philippines, Indonesia, Thailand, Myanmar, and others), and South Asia (India and others).

Class meetings center on the close reading of core texts in Japanese and English, student presentations, and full-group discussion. Research training is incorporated progressively, including how to work with international democracy indices such as V-Dem. The seminar also incorporates site visits in Japan and study tours to neighboring countries, emphasizing how classroom learning connects to politics and society on the ground. Classes will be conducted in both English and Japanese; no particular level of Japanese proficiency is required at the time of enrollment.

授業の到達目標 Objectives

アジア主要国の政治体制の歴史的展開と現在の課題について、具体的な事例に即して説明できる。
V-Dem など国際的な民主主義指標の構成と限界を理解し、データを用いてアジア各国の政治体制の変化を記述・比較できる。
学術文献を批判的に読解し、著者の問い・主張・根拠・限界を整理して報告できる。
討論において、自らの見解を根拠にもとづいて提示するとともに、異なる立場の議論を正確に理解し応答できる。
自ら研究上の問いを立て、比較の方法を選択し、適切な資料・データを用いて論証する研究計画を作成できる。
フィールドワークを通じて得た一次的な観察・聞き取りの知見を、学術的な議論のなかに位置づけて考察できる。
Explain the historical development of political regimes in major Asian countries and the challenges they currently face, with reference to concrete cases.
Understand how international democracy indices such as V-Dem are constructed and where their limitations lie, and use such data to describe and compare regime change across Asian countries.
Read scholarly literature critically, and present an organized account of an author's research question, argument, evidence, and limitations.
Present one's own views in discussion on the basis of evidence, while accurately understanding and responding to arguments from differing positions.
Formulate an original research question, select an appropriate comparative method, and design a research plan that builds an argument from suitable sources and data.
Situate first-hand observations and interview findings obtained through fieldwork within scholarly debate, and reflect on them accordingly.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

第1回・第2回： 特になし
第3回から第6回：
指定された文献(主に英語、毎回10頁程度)を通読し、著者の問い・主張・根拠・分析対象を整理する。
・論点メモ(A4一枚程度)を作成し、疑問点および討論で提起したい論点を2点以上記述して、授業前日までにMoodle上に提出する。
・報告担当者は、担当文献の要約と論点提示に加え、関連する事例・データを自ら調べ、報告資料(スライドまたはレジュメ)を準備する。
第7回から第11回：
個人プロジェクトの報告準備

Sessions 1-2:

None.

Sessions 3-6:

Read the assigned texts (primarily in English, approximately 10 pages per session) in full, and organize the author's research question, argument, evidence, and object of analysis.

Prepare a discussion memo (approximately one A4 page) setting out questions and at least two points you wish to raise in discussion, and submit it via Moodle by the day before class.

Presenters, in addition to summarizing the assigned text and identifying its key issues, should independently research related cases and data and prepare presentation materials (slides or a handout).

Sessions 7-11:

Preparation for individual project presentations.

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション
第2回：フィールドワーク先の検討
第3回から第6回：文献購読
第7回から11回：学生報告
第12回：フィールドワーク準備
第13回：フィールドワーク
第14回：総括
Session 1: Orientation
Session 2: Selecting fieldwork site(s)
Sessions 3-6: Readings and discussion

Sessions 7-11: Student presentations
 Session 12: Preparation for fieldwork
 Session 13: Fieldwork
 Session 14: Wrap-up

教科書
Textbooks

後日指定するが、以下を含む/ TBD, including the following:

Yuko Kasuya ed., Decolonization and Regime Change in Asia, London: Springer, 2025.

Yuko Kasuya, "Democratization in Asia," in Ryo Sahashi, Yasuhiro Matsuda, and Waka Aoyama eds., Asia Rising: A Handbook of History and International Relations in East, South and Southeast Asia, Springer Nature, 2024, pp. 221-235.

参考文献
Reference Books

TBD

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席、授業内報告、期末レポート、ディスカッションへの参加等を総合的に評価 Grades will be based on an overall assessment of attendance, in-class presentations, the final paper, and participation in discussion.

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
107	政治学演習 I (国吉知樹)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	国吉 知樹
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代日本外交の分析

授業概要 Course Outline

本演習では現代日本の国際関係・外交について理論および歴史の両面から考察する。

演習では、最初に基礎的なテキストの輪読と議論を通じて国際政治学の基礎概念について理解を深める。つづいて戦後日本外交史の論争点について日米関係および日本と近隣アジア諸国の関係に焦点を当てて分析を行う。さらに現代日本外交に関わる分析概念や論争的なイシューについて代表的な文献をたたき台にして議論をする。ここでは日本の安全保障問題、歴史認識問題とアジア外交、日中間の経済相互依存の意義、日韓文化交流の意義、日ロ間領土問題、日本の地域主義外交、沖縄の基地問題、気候変動問題への取り組み、および「人間の安全保障」分野、とりわけ日本の難民政策などを取り上げる予定である。

また、春学期の中盤から秋学期にかけて、ゼミ内で3～4人からなる複数のグループを組み、それぞれのグループが戦後日本外交に関わる論争的なイシューについてテーマを決め、外交文書の調査・分析を行い、共同論文の作成に取り組む。

演習 I では以上のようなプロセスを通じて外交を分析するための手法・視点を磨き、卒業論文執筆のための準備を進めていく予定である。日本が現在直面する外交上の諸問題を理解するために、国際関係の理論と歴史の習得に熱意を持って取り組み、積極的に議論に参加する意欲を持った学生を歓迎する。

授業の到達目標 Objectives

1. 国際関係論の基礎概念を理解する。
2. 現代日本外交の形成と意義を理解するために必要な理論的・歴史的的分析手法を習得する。
3. グループ論文への取り組みを通じて、学術論文を執筆するために必要な研究の手順、調査の方法を学び、執筆の心構えを身に付ける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

- ・受講生はゼミでの議論に積極的に参加するために、事前に必ず課題文献を読んで演習に臨むことが求められる。
- ・グループ論文の作成にあたっては、グループ間で事前に文献や資料を検討し、共同で発表準備を行う。
- ・グループ論文の作成にあたって、授業でのフィードバックを基にして、新たな調査を行い、論文の執筆と修正を行う。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（1）
- 第3回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（2）
- 第4回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（3）
- 第5回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（4）
- 第6回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（5）
- 第7回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（6）
- 第8回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（7）
- 第9回：日本外交 グループ論文の作成：テーマ設定について
- 第10回：日本外交 グループ論文の作成：リサーチデザインの検討と資料調査について
- 第11回：日本外交 グループ論文の作成：先行研究の検討（1）
- 第12回：日本外交 グループ論文の作成：先行研究の検討（2）
- 第13回：日本外交 グループ論文の作成：先行研究の検討（3）
- 第14回：日本外交 グループ論文の作成：調査の中間報告とディスカッション

教科書
Textbooks

大矢根聡編 『戦後日本外交から見る国際関係：歴史と理論をつなぐ視座』（ミネルヴァ書房、2021年）。
ピーター・カッツェンスタイン 『文化と国防：戦後日本の警察と軍隊』（日本経済評論社、2007年）。
国分良成・添谷芳秀・高原明生・川島真 『日中関係史』（有斐閣、2013年）。
マイケル・シャラー 『「日米関係」とは何だったのか：占領期から冷戦終結後まで』（草思社、2004年）。
ジョン・ダワー 『敗戦を抱きしめて』（増補版 上・下）（岩波書店、2004年）。
高橋哲哉・山影進編 『人間の安全保障』（東京大学出版会、2008年）。
ヴィクター・D. チャー（倉田秀也訳） 『米日韓 反目を超えた提携』（有斐閣、2003年）。
波多野澄雄・佐藤晋 『現代日本の東南アジア政策』（早稲田大学出版部、2007年）。
波多野澄雄編 『日本の外交 第2巻：外交史 戦後編』（岩波書店、2013年）。
中島信吾 『戦後日本の防衛政策―「吉田路線」をめぐる政治・外交・軍事』（慶應義塾大学出版会、2006年）。
宮城大蔵編 『戦後日本のアジア外交』（ミネルヴァ書房、2015年）。
吉田真吾 『日米同盟の制度化：発展と深化の歴史過程』（名古屋大学出版社、2012年）。
若宮啓文 『戦後70年 保守のアジア観』（朝日新聞出版、2014年）。
李鍾元・木宮正史・磯崎典世・浅羽祐樹 『戦後日韓関係史』（有斐閣、2017年）。
Joseph S. Nye and David A. Welch, Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History, 9th edition, Pearson Education, 2012.

参考文献
Reference Books

ゼミにおいて適宜紹介する。
グループ・ワークの際には、外務省が編纂・刊行した戦後期の『日本外交文書』を適宜参照する。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	グループ論文作成への取り組み
平常点評価 Class Participation	70%	プレゼンテーション (30%); 出席および議論への参加、ゼミ運営への貢献 etc. (40%)
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

- ・グループ論文の作成にあたっては、外務省外交史料館で調査を行う。
- ・春（３月）および夏（８月末あるいは９月初め）に２学年合同で合宿を行う予定です。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
108	政治学演習 I (栗崎周平)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	栗崎 周平
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

国際政治の理論研究・実証研究
Scientific Study of International Relations

授業概要 Course Outline

国際政治、主に安全保障に関わる論点（国際紛争、平和構築、内戦、国際組織、国家間競争など）について、その原因、メカニズム、解決策、さらには政策論的含意などを考察するために、理論研究ないし実証研究を行います。単なる時事問題の討議や既存研究の評論に留まらず、各々が持つ国際政治についての問題意識に基づいて独自の研究を二年間かけて行います。理論研究ではゲーム理論を用い、実証研究では計量分析を行います。ゲーム・モデルの分析から導出された仮説の検証という、理論と実証の組み合わせでも構いません。

ゼミ生には以下のうちいずれかのプロジェクトに取り組んでもらいます。

- ゲーム理論を用いた数理分析
- データ科学を用いた計量分析
- 起業を念頭に置いたビジネスモデルの策定

現在のゼミ生は経済安全保障に関するゲーム理論モデリングやデータ解析（サプライチェーンを念頭においたエコノミック抑止、ロシアオリガルヒの株式投資戦略）、抑止モデル（核抑止、反撃能力の解析）の分析などを行っています。ビジネスモデル班にはマイクロアグリビジネスの輸出関連物流支援システム、メンタルヘルスのオンラインハブシステムに取り組んでいます。ビジネスモデルへの助言はゼミOBの起業家やPEファンドや戦略コンサルに従事するOBに来てもらいます。

<ゼミ論・卒論>

数理モデル・データ解析などアカデミック系はポスター・論文を作成してもらいます。起業組はVCなど投資家からの資金調達を達成するためのビジネスモデルの策定とピッチデッキの作成などに現在のゼミ生は取り組んでいます（卒論はピッチデッキ、プロダクト試作、ビジネスモデル・事業計画書のセットです）。

<https://skurizaki.github.io/u-seminar.html>

授業の到達目標 Objectives

- 1) モデル（数理、データ、ビジネス）を使ってプロジェクトを実行する能力を身につける
- 2) ゲーム理論による理論研究や統計分析による実証研究を通して、論理的に説得的に議論を展開する能力を身につける
- 3) そのための技術の習得（Critical thinking、問題発見能力と問題解決能力、プロジェクト立案遂行能力、ロジック、データ分析、ライティング、プレゼンテーション能力）。
- 4) これらを通して、ストーリーを語れるようにする
- 5) 5年後ないし10年後の目標達成のためのグランドストラテジーの策定

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

特になし。実施を希望するゼミ生には個々の事情（プロジェクトやその目的）に応じてアドバイスします。

授業計画 Course Schedule

演習 I & II :

第1回：イントロダクション (Write your story) 第2回 Write your story 発表第3－9回ゼミ生の関心テーマについて論文 (APSRなど) の紹介と各自研究テーマについてのブレインストーミング
第10－14回：関心テーマについて Literature Review 報告 (50-30-10 エクササイズ)
第15－20回：先行研究の再現・複製を通じた研究プロジェクト企画立案
第21－28回：研究プロジェクト (パイロットスタディ) 発表

演習 III & IV :

第1－2回：ISA学会プロポーザル (300 words) 批評会第3－10回プロジェクト遂行とLabミーティング
第11－18回：プロジェクト中間報告とLabミーティング
第19－28回：研究成果の論文執筆と発表への準備

教科書 Textbooks

David A. Lake and Robert Powell. 1999. Strategic Choice and International Relations. Princeton University Press.

William Spaniel. Formal Models of Crisis Bargaining. Cambridge University Press

Andrew Kydd. 2015. International Relations Theory: Game Theoretic Approach. Cambridge University Press.

国際政治研究の主要学術雑誌：APSR, AJPS, IO, IS, JCR, ISQ, などが実質的な教科書となります。

参考文献 Reference Books

特になし

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	N/A
レポート Papers	0%	N/A
平常点評価 Class Participation	50%	普段の取り組みで評価します
その他 Others	50%	各学期ごとの、教員と各自が合意した達成目標の到達度で評価します

備考・関連URL Note・URL

ゼミには正式登録しない参加希望者は直接連絡を下さい。ゼミ未登録者による参加はこれまでも参加いただいております。学内他学部に限らず学外からの参加者もいます。

応募に関する情報は、下記リンク先でスクロールダウンして下さい。

<https://skurizaki.github.io/u-seminar.html>

本演習で作成されることが期待される学術論文やポスターは下記から参照できます：

https://drive.google.com/file/d/0B_-BxaJ90WcoS0hjWE9CcXZJZGs/view?usp=sharing

https://drive.google.com/file/d/0B_-BxaJ90WcoS0hVZ0xyYklrZms/view?usp=sharing

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
109	政治学演習 I (小林哲郎)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	小林 哲郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

メディアと世論の関係について学ぶゼミ

授業概要 Course Outline

政治におけるメディアとコミュニケーションの関係について学び、実証的な仮説検証を行います。政治学だけでなく、社会心理学やジャーナリズム研究など幅広い関心を持つことが必須となります。前期は実証研究のための基礎的な訓練と文献レビューを通してリサーチクエストを深めると同時に、データ収集の準備を行います。後期はデータに基づいた仮説検証と、論文の執筆を行います。

調査や実験データの分析、メディアの内容分析を行いますので、基礎統計レベルの知識とRを使った基本的な分析スキルを持っていることが望ましいです(ただし必須ではない)。また、英語論文も読みますから英語力は必須です。

授業の到達目標 Objectives

データに基づいて仮説検証を行う力を身につけること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

自発的に研究課題に関する文献を読み、考え、手を動かして分析する。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：
オリエンテーション
- 第2回：
学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第3回：
学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第4回：
学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第5回：
学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第6回：
学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第7回：
学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第8回：
学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第9回：
学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第10回：
学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第11回：
学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第12回：

学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。

第13回：

学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。

第14回：

学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。

教科書
Textbooks

追って指示する。

参考文献
Reference Books

追って指示する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	60%	研究発表のプレゼンテーションと論文で評価する。
平常点評価 Class Participation	40%	ゼミへの参加と積極的な発言によって評価する。正当な理由がある場合を除き、無断欠席が2回あった場合には評価は不可とする。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
110	政治学演習 I (小原隆治)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	小原 隆治
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

自治・分権を考える

授業概要 Course Outline

自治・分権をめぐるさまざまな問題を多面的な角度から考察する。政治学演習I(春学期)は、参加者が複数のテキストを輪読形式で読み進める。今年度は、まず最初に担当教員が著した論文2本を取り上げて検討する。そのあと3人の著者の手になる教科書的なテキスト1冊を扱い(第2、3、16、18章はスキップする)、各自の問題意識を深めてもらう。政治学演習I(春学期)のあとの政治学演習II(夏合宿-秋学期)では、参加者が春学期の学習を踏まえてそれぞれ関心あるテーマを選択し、テーマ別に編成したグループ単位で研究報告を積み重ねる。ゼミの学習面でも運営面でも、参加者の自主性に大いに期待したい。ゼミもまた「自治」の実践の場だからである。ゼミに出席することは参加者の権利だが、そこには相応の責任がともなう。無断欠席は認められない。また、相当の理由なく学期回数3分の1以上欠席した者は、ゼミに参加する権利を自動的に失う。春学期に失格した者は、秋学期に参加する権利を持たない。

授業の到達目標 Objectives

自治・分権をめぐる全体的な問題状況を把握する。そのうえで個別具体的な制度・政策・事例のレベルに落として課題を考察する方法態度を身につける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

参加者が自身の報告にあたって事前に十分準備をするのは当然だが、毎回事後に、すべての参加者がクラスで提起された論点等に関し、ムードル上に設置する意見・質問箱のスペース等を利用した議論に積極的に参加することが望まれる。

授業計画 Course Schedule

第1回：ガイダンス
第2回：小原(2012)を1回で輪読する。第3回：小原(2026)を1回で輪読する。
第4回-第12回：磯崎・金井・伊藤(2025)を2章ずつ、9回で輪読する(第2、3、16、18章はスキップする)。
第13回-第14回：今後の打ち合わせ(グループ研究のテーマに関する討論、グループ編成、研究計画の報告、夏合宿の打ち合わせなど)

教科書
Textbooks

小原隆治（2012）「自治・分権とデモクラシー」 齋藤純一・田村哲樹編『アクセス デモクラシー論』日本経済評論社

小原隆治（2026）「戦後地方自治史を読む」 地方自治総合研究所監修／小原隆治編『戦後地方自治年表』東洋経済新報社

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次（2025）『ホーンブック 地方自治（新2版）』北樹出版

小原（2012/2026）は、担当教員が受講者にPDFを用意する。

参考文献
Reference Books

開講時をはじめ随時紹介する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	前述の出席要件を満たしていることを前提として、日頃のゼミへの貢献度を評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

開講中はアナウンスメント等の箇所を含め、ワセダמודルを丹念にチェックする。

関連URLは随時紹介する。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習Ⅰ

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
111	政治学演習Ⅰ（清水潤）	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	清水 潤
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目（政治/経済/国際政治経済）> 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

法と憲法を学ぶ

授業概要 Course Outline

1. 概要

法学や憲法学についての学術的な文献を輪読します。輪読とは、テキストをあらかじめ決め、その割り当て部分について参加者全員であらかじめ読んできて議論することです。

イメージとしては、同じ映画を見て感想を言い合うというものに近いです。同じ本を全員で読んで、色々な意見や疑問をぶつけて議論します。

読むテキストは受講生の関心になるべく沿うものにしたいと思います。

憲法に限らず、法哲学、歴史、比較法、外国法、倫理学、アメリカ法、イギリス法などに興味を持っている学生も歓迎します。

特にゼミ生の希望がない場合は、
法学の入門書から読み始めようかと思います。例えば次のような本です。

早川吉尚『法学入門』（有斐閣ストゥディア、2016年）

内田貴『高校生のための法学入門-法学とはどんな学問なのか』（信山社、2022年）

大村敦志『Civilの理学 民法0・1・2・3条再考』（信山社、2025年）

中山竜一『ヒューマニティーズ 法学』（岩波書店、2009年）

西川洋一ほか『法の歴史と法解釈の基礎』（中央経済社、2025年） 東京大学法学部『いま、法学を知りたい君へ：世界をひろげる13講』（有斐閣、2024年）

2. 昨年度（2026年度）の実績

2026年度は、

A. 新井誠ほか『世界の憲法、日本の憲法：比較憲法入門 歴史、文化、社会が生んだ、多様な憲法の世界』（有斐閣、2022年）

B. 待鳥聡史『二大政党制と多党制：政党政治の実相と可能性』（朝日選書、2026年）
を読みました。

3. 過年度の実績

本ゼミは2026年度から開講ですので、過去の実績は少ないですが、担当教員の前任校のゼミでは以下のような書籍を輪読しています。

2020年度

A. ジョン・ロック『統治論』（原著：1689年）

B. 駒村圭吾編『テキストとしての判決：「近代」と「憲法」を読み解く』（有斐閣、2016年）

C. ロバート・ダール『アメリカ憲法は民主的か』（岩波書店、2003年）

- D. 阪口正二郎編『憲法改正をよく考える』（日本評論社、2018年）
- E. 佐藤幸治『立憲主義について』（左右社、2015年）
- F. 安西文雄ほか『憲法学の現代的論点』第二版（有斐閣、2009年）

2021年度

- A. 神島裕子『正義とは何か』（中公新書、2018年）
- B. 田上孝一『はじめての動物倫理学』（集英社新書、2021年）
- C. エリザベス・ブレイク『最小の結婚 結婚をめぐる法と道徳』（白澤社、2019年）
- D. プラトン『クリトン』（岩波文庫、原著紀元前400年ころ）
- E. ホッブズ『リヴァイアサン』（光文社古典新訳文庫、原著1651年）
- F. 大林啓吾ほか『コロナの憲法学』（弘文堂、2021年）

2022年度

- A. 宇野重規『民主主義とは何か』（講談社現代新書、2020年）
- B. 松村圭一郎『くらしのアナキズム』（ミシマ出版、2021年）
- C. 山本圭『現代民主主義』（中公新書、2021年）
- D. カント『永遠平和のために／啓蒙とは何か』（光文社古典新訳文庫、2006年）
- E. 藤原帰一『「正しい戦争」は本当にあるのか』（講談社新書、2022年）
- F. E. H. カー『歴史とは何か』（岩波新書、1962年）
- G. カール・シュミット『現代議会主義の精神的状況』（岩波文庫、2015年）

2023年度

- A. 戸谷洋志『未来倫理』（集英社新書、2023年）
- B. 重田園江『ホモ・エコノミクス 利己的人間の思想史』（ちくま新書、2022年）
- C. ロック『完訳統治二論』（岩波文庫、2010年）
- D. 内田貴『高校生のための法学入門～法学とはどんな学問なのか』（信山社、2022年）
- E. 山本龍彦ほか『AIと憲法』（日本経済新聞社、2018年）
- F. ナイジェル・ウォーバートン『「表現の自由」入門』（岩波書店、2015年）

2024年度

- A. 森田果『法学を学ぶのはなぜ?: 気づいたら法学部, にならないための法学入門』（有斐閣、2020年）
- B. 将基面貴巳『従順さのどこがいけないのか』（ちくまプリマー新書、2021年）
- C. 吉崎祥司『「自己責任論」をのりこえる: 連帯と「社会的責任」の哲学』（学習の友社、2014年）
- D. マーカス・フェルソン『日常生活の犯罪学』（日本評論社、2005年）

このように、憲法史の古典や、日本や海外の法学や哲学の著作を読み、様々な問題について考えていくことが目的です。

担当教員の関心からすると、日本の時事的な憲法ネタよりは、憲法の歴史や思想に興味がありますが、例えば夫婦別姓訴訟について考えてみたい、司法試験に興味がある、というような要望がある学生も歓迎します。

受講生が特に実定法に強い関心を持っている場合には、日本や外国の判例や教科書を読んでも良いと思っています。

4. その他

希望があれば課外活動を実施します。

特になければ授業期間中の毎週100分のみ。

授業の到達目標 Objectives

学術的な文献を読み、他者と対話する方法を身につけること。
可能であれば、法的な考え方を身につけること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

1. 指定された文献の予習
指定文献の指定された範囲を読んでください（毎週、全員）
2. レジュメの作成
指定された文献の要約を作ってきてください。レジュメ作成は毎週 1 人担当者を決めます。それ以外の人
は読んでくるだけで構いません。
少人数の場合はレジュメなしにすることもあります。

授業計画 Course Schedule

毎週、指定された文献を輪読を行います。

教科書 Textbooks

ゼミ開始後、受講生の興味関心に従って決定します。

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	平常点100%

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習Ⅰ

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
112	政治学演習Ⅰ（シュラトフヤロスラブ）	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	シュラトフ ヤロスラブ
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目（政治/経済/国際政治経済）> 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

ロシア近現代史

授業概要 Course Outline

＊ 本演習では、ロシア近現代史を考察の対象とし、国際政治の文脈で分析する。ロシア帝国時代から現代にかけての政治や外交、民族問題などを多面的な角度から検証し、政治外交史の様々な側面の分析を試みる。場合により、日露・日ソ関係やロシア・ソ連の対外政策を中心とすることもありうるが、具体的な内容（実際に扱う時期や領域など）は演習参加者の関心次第で決定する。

＊ 政治学演習Ⅰは、テキスト（先行研究・史料など）の輪読が中心となる。政治学演習Ⅱは輪読も行うが、参加者が演習Ⅰの学習を踏まえて選択した研究テーマについてリサーチを行い、各自で報告することに重点を置く。

＊ 本演習は学生によるプレゼンテーション・ディスカッションを重視し、各参加者が自主的に学習することが求められる。

＊ 無断欠席は認められず、毎回積極的に参加することが求められる。

＊ 合宿も行う予定であるが、具体的なスケジュールなどは演習参加者と相談の上で決定する。

授業の到達目標 Objectives

- 1) ロシア近現代政治・外交史（帝政期・ソ連期・ロシア連邦期）の様々な側面に対する知識を身につけ、北東ユーラシアの国際関係史について理解を深めること。
- 2) 各自の研究テーマに関する先行研究（日本語・英語、場合によってロシア語）を徹底的に調べ、批判的思考力を駆使し、口頭と文章で発表する能力を涵養すること。
- 3) 卒業論文を執筆するために必要なリサーチ方法や分析手法を習得すること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回のディスカッションに積極的に参加するために、必ず事前に学習する必要がある。

なお、プレゼミ期間中に下記の活動を実施する予定である。

＊ 先行研究を熟読し、各自でプレゼンテーションをし、全員でディスカッションを行う（書籍は別途紹介する）

＊ 1～2回数ほどフィールドワークに出かける予定である（詳細は別途紹介する）

授業計画 Course Schedule

主な活動は学生によるプレゼンテーションとディスカッションであるが、具体的な計画は、初回の授業でガイダンスを行い、参加者と相談の上で決定する。

教科書
Textbooks

適宜紹介する。

参考文献
Reference Books

適宜紹介する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	授業への出席、ディスカッションへの取り組み、課題の達成度などに 基づいて総合的に評価する。

備考・関連URL
Note・URL

この授業は基本的に日本語で行われるが、ロシア語の学習歴を持つことが必須である。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
113	政治学演習 I (白糸裕輝)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	白糸 裕輝
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代数理統計学基礎演習 / Exercises in Modern Mathematical Statistics

授業概要 Course Outline

本演習では、数理統計学の標準的な教科書であるCasella and Berger, Statistical Inferenceを用い、確率論および統計的推論の基礎を学ぶ。各回、教科書の該当箇所に対応する演習問題に授業時間内に取り組み、解答を発表して全員で議論する。なお、演習問題は教科書のみを参照して解くこととし、授業中の電子機器の使用は認めない。生成AIやインターネット上の資料を用いずに、自ら手を動かして考えることを重視する。 / This seminar covers the foundations of probability theory and statistical inference using Casella and Berger, Statistical Inference, a standard textbook in mathematical statistics. In each session, participants work on exercises corresponding to the relevant part of the textbook during class time, then present and discuss their solutions. Exercises are to be solved using the textbook only; the use of electronic devices during class is not permitted. Emphasis is placed on working through problems on one's own, without generative AI or online materials.

授業の到達目標 Objectives

確率論および統計的推論の基本的な概念を理解し、数理統計学の標準的な問題を自力で解けるようになることを目標とする。また、自らの解答を他者に説明する能力を養う。 / Participants are expected to understand the basic concepts of probability theory and statistical inference, and to become able to solve standard problems in mathematical statistics on their own. Participants will also develop the ability to explain their own solutions to others.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

各回の授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業後は、議論を踏まえて解答を見直すこと。 / Before each session, participants should read the relevant part of the textbook. After each session, participants should revise their solutions in light of the discussion.

授業計画 Course Schedule

第1回： オリエンテーション / Orientation
演習の進め方の説明。 / Explanation of how the seminar will proceed.
第2回： 演習 / Exercises
教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.
第3回： 演習 / Exercises
教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.
第4回： 演習 / Exercises
教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.
第5回： 演習 / Exercises
教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.

第6回： 演習 / Exercises

教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.

第7回： 演習 / Exercises

教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.

第8回： 演習 / Exercises

教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.

第9回： 演習 / Exercises

教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.

第10回： 演習 / Exercises

教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.

第11回： 演習 / Exercises

教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.

第12回： 演習 / Exercises

教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.

第13回： 演習 / Exercises

教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.

第14回： 演習 / Exercises

教科書の該当箇所について、授業時間内に演習問題に取り組み、解答を発表・議論する。 / Participants work on exercises for the relevant part of the textbook during class, then present and discuss their solutions.

教科書
Textbooks

Casella, G., and R. L. Berger. Statistical Inference. Chapman and Hall/CRC.

参考文献
Reference Books

なし / None

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	演習問題への取り組み、解答の発表および議論への参加によって評価する。理由の如何を問わず、5回以上欠席した場合は単位を取得できない。 / Evaluation is based on engagement with the exercises, presentation of solutions, and participation in discussion. Participants who are absent five or more times, for whatever reason, cannot receive credit for this course.
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

本授業の副次的な効用は数理的な議論を行うための英語表現（非常に定型化されており、文学的修辭を要しないため、習得は容易である）を学ぶことである。基本的には日本語で演習を行うが、EDPの学生にも開放する。 / A secondary benefit of this course is learning the English expressions used in mathematical argument. These are highly formulaic and require no literary embellishment, and are therefore easy to acquire. The seminar is conducted primarily in Japanese, but is also open to EDP students.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
114	政治学演習 I (ソジェ内田恵美)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	ソジェ内田 恵美
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

政治言語学—ディスコース分析の理論と実践

授業概要 Course Outline

現代社会において、言語が果たす役割が重要であることは論を待たない。

民主主義国家においては、政治リーダーは言葉を使って有権者に自らの政治的信条、政策や政権の正統性を説き、支持を得なければならない。しかし、彼らの言葉、レトリックや手法は様々ではなく、政治・社会の構造的変化によっても大きく変わってきている。近年では、政治マーケティングの体系化による影響は著しい。メディアもまた、グローバル化やソーシャルメディアの発達により、その社会的影響力が高まる一方で、事実より感情を重視する「ポスト真実」と呼ばれる状況や、左右のイデオロギーへの二極化が指摘され、大きく揺れている。そのような社会的状況を鑑み、本講義では、言語と政治の関係について多角的視点をもって考えたい。

授業では、アリストテレスやレイコフの理論を基にした政治演説のレトリック分析から、フーコーやブルドゥーによる社会理論を発展させた批判的言説分析の事例を扱い、政治エリートがどのような言葉を使って社会的な現実を構築し、一定の社会的規範を常識化し、正当化しているかを分析し、考察するための理論と方法を学ぶ。また、メディアが社会でどのような役割を果たしているのか、についても考える。講義の前半は分析のために必要な概念や理論を学ぶが、後半は具体的なデータ収集の方法や分析手法に焦点を当てる。3年前期は主に量的、質的分析手法について学ぶ。後期からは、各自が卒業論文に向けて研究を行う。本演習は、演習参加者の関心に合わせて、英語・日本語の研究文献を扱う。

授業の到達目標 Objectives

政治ディスコース研究の基礎を培うため、その背景となる理論や分析方法を学ぶ。この講義では言語学的なアプローチを取り、量的分析と質的分析の在り方について考える。受講者はこれらの研究方法の意義と限界を理解し、独自で研究を進めるための基本的な能力を養う。

演習Iでは、グループワークのテーマ設定、先行研究（和文、英文）の発表、データの収集を行う。同時にKHコーダーを使用した計量分析と言説分析による質的分析の手法を学ぶ。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

夏合宿と年二回のゼミ発表への参加は必須。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回～第9回：講義、文献講読（英語および日本語）
- 第10回～第11回：ディスコース分析の計画と準備
- 第12回～第14回：ディスコース分析レポートの書き方、準備
- 第15回：ディスコース分析レポート提出

教科書
Textbooks

授業中に指示、または配布。

参考文献
Reference Books

アリストテレス (1992)『弁論術』 戸塚 七郎訳 岩波文庫。
 Lakoff, George (2003) Metaphors We Live by. University of Chicago Press.
 Fairclough, Norman (2014) (3rd) Language and Power. Routledge
 Machin David & Andrea Mayr (2012) How to do Critical Discourse Analysis. Sage Publications.
 van Leeuwen, Theo (2008) Discourse and Practice: New Tools for Critical Discourse Analysis. Oxford University Press.

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	60%	論文、課題など
平常点評価 Class Participation	20%	出席と議論への参加など
その他 Others	20%	口頭発表など

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
115	政治学演習 I (田中孝彦)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	田中 孝彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

冷戦期および冷戦後国際政治の歴史的過程と国際秩序の変容—1945年-2025年

授業概要 Course Outline

* 田中孝彦ゼミの教員によるゼミオリエンテーションの動画を必ずご覧ください。

【問題意識】

現在、わたくしたちは歴史的な国際秩序の変化に直面しています。第二次世界大戦後、1990年代初頭にかけて世界政治のありかたを大きく規定していたのは冷戦といわれる国際政治でした。それが終焉した後、冷戦秩序に代わる新しい安定した世界秩序は、容易には構築されませんでした。その一つの帰結として、現在の行く先の見えない国際社会の状況があるといえます。この授業では、冷戦期の国際政治が、どのような変化を見せて、今日の国際政治の様々な条件を形成してきたのかについて分析を加えたとともに、冷戦後世界秩序の動向についても大きく俯瞰することを通じて、これからの世界秩序のありかたについて考察します。

【授業の方式】

< 討論中心の授業 >

授業のやり方については、ゼミ生と相談して決めていきますが、現時点では次のように考えています。

毎回の授業は、テキストの指定された章や指定された論文を各自が読んできて、討論を行います。その際、毎週2名の報告担当者(Commentators)が論点を提示し、それをたたき台として討論を行います。

報告担当者は、(1) 議論すべき論点 (2) テキストに対する批判、をあわせて3つ以上提示しなければなりません。(1) については、なぜその論点(疑問点)が重要なのかについて説明をしてもらいます。(2) については、論理的および実証的にテキストの建設的批判を展開してもらいます。なお、報告担当者に加えて、討論者(Discussants)を2名決め、Commentatorの報告に対してその場で簡潔なレスポンスをしてもらいます。

< 利用する文献 >

授業で利用するテキストは、以下の著作です。

前期：青野利彦著『冷戦史』上下2巻，中公新書

夏合宿：冷戦後世界秩序に関する論文を数本

後期～翌年前期：Vladislav Zubok (2025) The World of the Cold War 1945-1991, Penguin.

その他の文献については、授業中に適宜紹介します。

授業の到達目標 Objectives

冷戦期から今日までの世界政治の状況を、歴史的に分析する力を身につける。具体的には以下の目標を掲げたいと思います。

- (1) 世界政治の歴史的文脈を知る。何が終焉し、何が変化し、何が継続し、何が新たに生み出されたのかを見極める。
- (2) 歴史的な事象の原因について、自分なりの仮説をたて、それを歴史的証拠に基づき検証する手法を身につける。
- (3) 今日の世界政治における様々な問題の淵源を、冷戦期の現象の中に探る。
- (4) 歴史を学ぶことによって、現在の理解を深めるとともに、未来へのトレンドを把握する。

大きくいって、21世紀のあるべき国際秩序のあり方を考えるのが、このゼミの目標です。

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

【事前学習】

- (1) 授業計画に示されているテキストの該当箇所や論文は、必ず読んでくることが前提として求められます。
- (2) 「国際関係史I」を履修してあることが望まれますが、必修ではありません。

【事後学習】

- (1) 授業中に話せなかったことや、議論できなかった論点について、Waseda Moodleの機能を利用して自主的にディスカッションを行ってください。適宜、私もチェックしてコメントします。
- (2) 学期中にショート・エッセイの提出を求めます。それを通じて、事後学習を行ってください。

授業計画
Course Schedule

プレゼミ：(これについてはプレゼミ専用のシラバスで別途詳しくお知らせします,)

プレゼミは課題形式で行います。使用するテキストは、Robert McMahon (2021) *The Cold War: A Very Short Introduction*, Oxford University Press, (邦訳：ロバート・マクマン著『冷戦史』勁草書房[平井和也訳、青野利彦監訳])。これを一冊読んで、冷戦期国際政治史の概要を把握してもらいます。課題としては書評を執筆してもらいます。書評において触れるべき点など詳細については、プレゼミ専用シラバスをご覧ください。

前期：

前期では、プレゼミで得た知識と論点についての理解をさらに深めてもらいます。利用するテキストは、青野利彦著(2023年)『冷戦史』上下2巻、中公新書、です。

マクマンのテキストは、典型的な初学者用入門書ですが、このテキストはより詳細な概説書です。取り扱っている事象もより多く、その記述は、ソ連はもとより、東欧諸国、第三世界、そして世界政治のみならず世界経済の動向などにも及んでいます。また、重要な事象の因果関係については、マクマンよりも踏み込んだ記述となっています。

授業では、毎週1章ずつ読んでゆき、前期中に全巻を読破することを目指します。また外交文書をなどの重要な史料もその抜粋を適宜読んで、実証的な理解を深めます。

夏合宿：

9月初旬から中旬にかけて、軽井沢セミナーハウスで合宿を行います。合宿では、冷戦終焉後における国際秩序の展開と変化についての定評のある論文(英語)を数本読み、現在の国際秩序の状況へ世界が至った経緯、その問題点などについて議論を戦わせます。

後期：(政治学演習II)

Vladislav Zubok, *The World of the Cold War, 1945-1991*を読みます。

この著作は、主に米ソ関係の展開に焦点をあてた研究ですが、多くの冷戦通史研究がアメリカの外交・軍事戦略の展開に重点が置かれるのとは異なり、ソ連の動向についてもバランスのとれた取り扱いをしている点特徴的です。

基本的に前期同様、毎週1章(30ページ前後)を読んでゆきます。英文は平易で読みやすいので、英語力の鍛錬にも役立つと思います。後期中に完読することを目指します。

教科書
Textbooks

以下の文献を教科書として利用する。

前期： 青野利彦著(2023)『冷戦史』上下2巻、中公新書

夏合宿：冷戦後世界秩序に関する論文を数本

後期～翌年前期：Vladislav Zubok (2025) *The World of the Cold War 1945-1991*, Penguin.

その他の文献については、授業中に適宜紹介します。

【史料集】

Edward H. Judge and John W. Langdon (1999) *The Cold War: A History Through Documents*.

参考文献
Reference Books

適宜、授業で指定します。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行わない。
レポート Papers	20%	学期中に提出されるエッセイを評価する。(予定)
平常点評価 Class Participation	80%	報告担当時の報告内容について、その論理性、実証性、独自性を評価する。
その他 Others	0%	なし

備考・関連URL
Note・URL

【授業形態についての重要事項】 基本的に対面で行う予定ですが、諸事情により一部Zoomによるオンライン実施になる場合もあります。その場合には適宜周知します。

【その他】

政治学演習I以降は英語文献をかなり大量に読んでもらいます。それゆえ、英文読解に自信の無い人には、ハードルが高いかも知れませんが、あきらめずに続ければ、かならず上達します。ガッツをもって果敢に挑戦する方に期待します。史料などが掲載されているwebsiteのURLなどは、適宜授業中などにお知らせします。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
117	政治学演習 I (仲内英三)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	仲内 英三
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

近現代西欧政治社会の歴史

授業概要 Course Outline

本年度は、ファシズムについて検討していく。近年デモクラシーの危機が叫ばれ、世界各地でファシズムの再来を意識させるさまざまな現象が起こっている。その意味を的確に認識するために、20世紀前半にヨーロッパや日本で起こったファシズムについて、理解を深めておくことが肝要であろう。それは当時のファシズムを理解するうえで重要であるばかりでなく、現在のヨーロッパや日本のファシズムやポピュリズムを考えるうえでも非常に示唆に富むものである。

授業の到達目標 Objectives

20世紀前半のファシズムを知ることで、現在のファシズムやポピュリズムについて理解を深める。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション
第2回：ファシズムの概念規定
第3回－第5回：思想としてのファシズム
第6回－第8回：運動としてのファシズム
第9回－第11回：体制としてのファシズム
第12回－第14回：全体主義、近代化論、権威主義との比較

教科書 Textbooks

山口定『ファシズム』、岩波現代文庫

参考文献 Reference Books

授業のはじめに、参考文献の一覧表を配布する。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	0%	なし
レポート Papers	0%	なし
平常点評価 Class Participation	100%	演習は基本的に授業に出席することから始まるので、まず普段の授業への参加が出発点となる。授業では1回～2回の発表の機会があるので、その出来具合も評価の対象となる。
そ の 他 Others	0%	なし

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
118	政治学演習 I (日野愛郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	日野 愛郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代政治の実証分析 (Empirical Analyses of Contemporary Politics)

授業概要 Course Outline

このゼミは政治を実証的に分析することに関心を持つ仲間とともに楽しく真剣に学問を追究するゼミです。ゼミのテーマは政治に関するデータを実証的に分析するものであればどのようなものでも構いません。データを分析するためには、その方法を学ぶ必要があります。たとえば、メディアと選挙に関する実証分析を行うとしましょう。そのためには「メディア」をはじめとする送り手の分析や「選挙」における有権者をはじめとする受け手の分析の方法を習得する必要があります。例えば、メディアや政党、政治家などの送り手のメッセージの分析や有権者や読者・視聴者・ユーザーなどの受け手の意識や行動の分析を行うことになります。このゼミでは、メディアや政党・政治家のメッセージを数量化する手法である内容分析 (content analysis) や統計モデルに基づく計量テキスト分析の手法を学ぶことができます。同様に、世論調査 (内容をランダムに変える調査実験を含む) やソーシャル・メディアへの投稿内容の分析方法を学び、有権者や一般の人々の態度や反応を明らかにします。また、複数の国や地域を統合的に分析する比較分析の手法 (マルチレベル分析) も、必要に応じて学んでいきます。テーマに応じて、適切な分析手法を学び、応用しています。現代政治の実証分析に関連する分野では、有権者の投票行動分析や政党の政策競争の分析をはじめとして多くの研究成果が蓄積されています。このゼミでは、これまでの豊かな研究の蓄積を踏まえて、ゼミ生同士でアイディアを出し合いながら、新しい知見を産み出すことを目指しています。この目標を達成するために、ゼミの1年目は実証分析をするために必要となる様々なデータ収集・作成の手続きや分析手法と一緒に学んでいきます。過去の研究を再現 (replicate) することから様々なデータ分析の手法を学び、共通のテーマについて話し合い、グループワークを通して実証分析の基礎を養います。2年目からは、自らの関心に沿って、先行研究を読みながらプロポーザル (研究計画書) を練り、卒業論文の作成を進めます。皆さんは卒業すると「学士」になります。多くの人にとって人生で最初の「士」になると思います。最終的に質の高い卒業論文を書き遂げて名実ともに「学士」になることが2年間のゼミの目標になります。

授業の到達目標 Objectives

疑問に思うことを学術的な問いの形で表現する力 (リサーチクエスションを立てる力)、「これは!」と思う答えを探し出す力 (仮説を立てる力)、立てた仮説が正しいかを確かめる力 (仮説を検証する力) を養います。これらの力は、学術の世界だけでなく、皆さんが社会人になる時に大きな武器となるだけでなく、日々の営みを豊かにしてくれます。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示します。

授業計画 Course Schedule

プレゼミ (2026年度冬クォータ) : R1グランプリ (統計ソフトRを用いて出版された論文のレプリケーションを行い発表するコンテスト) の実施

第1回 : インTRODakション、ゼミの運営について、合宿、OB/OGとの交流会に関する検討

第2回 : 先行研究の先行研究を読む (先行研究のオリジナリティ分析)

第3回～第5回 : 先行研究に関するグループワーク (関連文献を基にした発表・ディスカッション)

第6回～第8回 : 先行研究のレプリケーション&分析手法に関するレクチャー

第9回～第10回 : グループワークに関する話し合い

第11回～第12回 : 先行研究調べとオリジナリティの追究

第13回 : プロポーザル発表 (プレゼミ)

第14回 : 論文コンクールに向けた論文前段 (イントロ、先行研究・オリジナリティの提示、仮説) の提出

教科書 Textbooks

特にありません。適宜文献を指定します。

(プレゼミ) 今井耕介『社会科学のためのデータ分析入門 (上・下)』(粕谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳) 岩波書店、2018年。(Kosuke Imai, Quantitative Social Science: An Introduction, Princeton University Press, 2017.)

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミにおける学習状況、貢献度を総合的に評価します。他のゼミ生のプレゼンテーションへのフィードバックの量、質を考慮します。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

●プレゼミ (2026年度冬クォータ) は火曜日2限に予定しています。他の科目と履修が重ならないよう留意してください。詳細はプレゼミのシラバスをご覧ください。

●本ゼミの1年目は火曜日2・4限、2年目は火曜日4・5限を予定しています。1年目は4限に開講されている4年生ゼミにも参加してもらい、2年目は5限に開講されている大学院ゼミにも出席してもらいます。先輩の研究が出来上がっていく過程をリアルタイムで見ることは生きた教材になるはずです。

●2年次秋学期までに「計量分析 (政治)」を、3年次終了時までに「政治テキスト分析」を履修することを、ゼミに参加する条件としています。

●通常のゼミや合宿への参加は必須です。欠席が多くなる方はご遠慮いただいています。

●入ゼミ後に課題があります。過去のゼミ生 (1期～12期) の卒業論文の中から1つを選び、その論文を2000字前後で論評してもらいます。論文集は下記URLから入手できます (<https://goo.gl/xm88Mj>)。ゼミの面接時に感想を尋ねる可能性があります。同じURLにゼミ生が作成したオリエンテーション資料も格納されています。

●普段のゼミの様子はゼミ公式のX (@airohinoseminar) やInstagram (airohinoseminar) をご覧ください。

●留学を予定している学生や留学から帰国した学生にも学びの機会を作っていきたいと考えています。個別にご相談ください。定期的に外国からゲストを招聘し、最新の研究成果や手法について学ぶ機会を用意する予定です。This seminar is open to EDP students. The working language of the seminar will be mainly Japanese but the instructor is prepared to accommodate students who are interested in learning empirical and comparative analyses of media and elections in general.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
119	政治学演習 I (蛭田圭)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	蛭田 圭
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

政治思想

授業概要 Course Outline

政治思想に関心のある学生を対象しています。政治思想とは、科学的な方法を用いた政治学では解明できない政治の諸側面を扱う学問です。「政治哲学」、「政治理論」とほぼ同義語ですが、より幅広く多様なアプローチを包含することが含意されています。

具体的には、自由、平等、権利、権力、暴力、戦争、平和、ナショナリズムといった、政治に関する諸概念について深く学ぶことや、今ある世界の問題点を理解した上で、今よりも望ましい世界のあるべき姿について考えること、さらには、そうした問いに取り組んだ過去の思想家たちの試みを理解することなどが、政治思想の課題として挙げられます。

政治思想を研究する上で、唯一の正しいアプローチというものはありません。関心に応じて、政治制度に焦点を当てる政治学の成果を踏まえたり、「べき論」に取り組む倫理学の知見を参照したり、時代的文脈を精査する歴史学の成果を活用したりと、いろいろな方法がありえます。それぞれのアプローチに長短がありますので、ゼミ生には、自分の関心に合った方法を見つけてもらいたいと思います。

演習Iでは、輪読をしながら、テキストを批判的に読む練習をします。履修者は学期中に最低一度は発表を行い、積極的に議論に参加することが求められます。課題図書はゼミ生の関心を見てから決定しますが、主に日本語文献（日本語で書かれたものか、日本語訳があるもの）を使うことを予定しています。

授業の到達目標 Objectives

1. 政治思想という学問分野を理解する
2. テキストを批判的に読解する能力を磨く
3. 卒業論文で取り組みたいテーマを見つける

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回の授業前に課題図書を読んでおくこと。最低一回はプレゼンテーションを行うこと。

授業計画 Course Schedule

第1回：
オリエンテーション、教科書の選定、発表担当週の決定

第2回：
輪読・発表

第3回：
輪読・発表

第4回：
輪読・発表

第5回：
輪読・発表

第6回：
輪読・発表

第7回：
輪読・発表

第8回：
輪読・発表
第9回：
輪読・発表
第10回：
輪読・発表
第11回：
輪読・発表
第12回：
輪読・発表
第13回：
輪読・発表
第14回：
輪読・発表

教科書 Textbooks

第一回目授業までに指定する

参考文献 Reference Books

デイヴィッド・ミラー（山岡龍一・森達也訳）『はじめての政治哲学』岩波現代文庫、2019年
川崎修・杉田敦『現代政治理論 新版補訂版』有斐閣アルマ、2023年
リチャード・ワットモア（齋藤純一・稲村一隆訳）『入門 政治思想史』中公選書、2025年

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	学期末に、卒論で取り組みたいと考えるテーマを簡潔にまとめて提出すること
平常点評価 Class Participation	70%	授業内での発表と発言の内容を評価します
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
120	政治学演習 I (谷澤正嗣)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	谷澤 正嗣
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代リベラリズムとその批判

授業概要 Course Outline

政治を語る際に用いられる重要な概念について分析しつつ、「権力とはどんな力か」「自由と平等を両立させる政治体制は可能か」「正義と不正義を判別する原理は何か」といった問題を扱うのが政治理論である。政治理論の研究は古典古代にさかのぼる歴史的次元と、きわめて抽象的な哲学的次元を有するが、本演習では現代の哲学的研究に焦点を合わせる。こうした研究の多くが議論の枠組みとしているのが、「リベラル・デモクラシー」と称される現代の政治体制である。この枠組みを受け入れた上で、リベラル・デモクラシーの制度と実践をより正義に近づけていくことに貢献すべく、リベラルな価値や規範を擁護しリベラルな正義の政治的構想を定式化する政治理論を「現代リベラリズム」と呼ぼう。他方、リベラル・デモクラシーの枠組み自体に疑問を投げかけ、リベラリズムの中核にある価値や規範を批判することに重きをおく政治理論を「現代リベラリズム批判」と呼ぼう。現代リベラリズム批判の例として、功利主義、アナーキズム、リバタリアニズム、フェミニズム、批判的人種理論、ポストモダニズム、ポストコロニアリズム、そして保守主義といった観点からの批判が挙げられる。本演習では、現代リベラリズムとそれを批判するさまざまな潮流のあいだの対話を追いながら、現代リベラリズムがどのように洗練されてきたか、それにもかかわらずどのような問題に直面しているかを明らかにする。

授業の到達目標 Objectives

- (1) 現代政治理論の主要な論点、とくに現代リベラリズムとその批判について理解する。
- (2) 哲学的な読解、思考、表現、討論の技法を学ぶ。
- (3) 政治学演習II、IIIおよびIVを受講し、演習論文を執筆するための能力を涵養する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミでの討論に先立ってテキストを読んでおくこと、討論の後にあらためて自分のテキスト解釈を考え直すことを求める。とくに、事前のテキスト精読は必須である。

授業計画 Course Schedule

第1回：イントロダクション 政治理論とは何か
第2回～第13回：文献講読と討論
第14回：まとめと討論

教科書
Textbooks

開講時に受講生と相談の上で指定する。いくつか候補となる著作を挙げておく。
 プレナン、ジェイソン2026（森村進監修、太田寿明／福原明雄訳）『リバタリアニズム入門』勁草書房。
 チャンドラー、ダニエル2025（鬼澤忍訳）『自由と平等』早川書房。
 ミルズ、チャールズ・W2022（杉村昌昭／松田正貴訳）『人種契約』法政大学出版局。
 シュクラ、ジュディス2023（川上洋平／沼尾恵／松元雅和訳）『不正義とは何か』岩波書店。

参考文献
Reference Books

川崎修／杉田敦編 2023 『新版 現代政治理論 〔新版補訂版〕』有斐閣。
 齋藤純一／田中将人2021『ジョン・ロールズ 社会正義の探求者』中公新書。
 齋藤純一／谷澤正嗣2023『公共哲学入門』NHK出版。
 田中将人2025『平等とは何か 運、格差、能力主義を問いなおす』中公新書。
 戸田山和久2022『最新版 論文の教室』NHK出版。
 ミラー、デイヴィッド2019（山岡龍一／森達也訳）『はじめての政治哲学』岩波現代文庫。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	レジュメによる報告、討論への積極的で協力的な参加、討論から明らかになる文献の理解度などを総合的に評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
201	経済学演習 I (安達剛)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	安達 剛
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

経済学を用いた問題発見・解決能力を養う

授業概要 Course Outline

ミクロ経済学は知識ではなく思考の型であり、社会や日常生活の現場で活用できなければ意味がありません。ミクロ経済学やゲーム理論の理論をそのまま学ぶだけではなく、それらを現実の社会問題に適用し、構造的課題を発見・解決する技術を体系的に身につけることが本演習の目的です。ゼミでは理論テキストの輪読に加え、具体的な現場でのフィールドワークや関係者との対話を通じたケーススタディを重視します。理論と現場を往復することで、自ら課題を見つけ、理論と実践を統合して考える力を養います。

演習 I では、①現実の問題をインセンティブ構造や制度設計の視点から捉える技術、②現場で問題を発見し、クリティカルシンキングを用いて創造的な仮説や解決策を導き出す技術、③ミクロ経済学やゲーム理論、統計学を基盤に、現場で独自の課題設定と研究を実施する技術の習得を目指します。ゼミ生同士の討議を中心に、各自の研究計画の指導を通じて、理論を実践的に応用できる能力を養成します。

なお、AIの進展を踏まえ、AIを対象・題材とする演習を試行的に取り入れる場合があります。詳細は初回に説明します。

授業の到達目標 Objectives

問題をインセンティブ構造で捉える技術について習熟する。
ミクロ経済学・ゲーム理論・統計学を用いた研究の構造について理解する。
問題を自ら見つけ、仮説を考え、検証するプロセスとその意義を学習する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：イントロダクション
第2～4回：インセンティブ構造で考える（反復練習）
第5～6回：仮説をみがく（反復練習）
第7～8回：簡単に検証する
第9～10回：学問を使って発見・発明をする
第11回：検証方法の学習（ミクロ経済学・ゲーム理論）
第12回：検証方法の学習（統計学）
第13回：研究計画をたてる
第14回：まとめ

教科書
Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	討議への参加度合と、課題（輪読テキストの読み込み、演習内の課題等）への取組により評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
202	経済学演習 I (荒木一法)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	荒木 一法
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

企業と家計の行動分析 (応用ミクロ経済学)

授業概要 Course Outline

(目的) 本演習は、企業と家計の行動分析を題材として、参加者の分析力とコミュニケーション能力を向上させることを主たる目的とします。

(方法) 伝統的なミクロ経済学に加えて、ゲーム理論や契約理論を具体的な分析事例を交えて学ぶことで、参加者の分析力の質を高め、幅を拡げることを試みます。また、プレゼンテーションと討論の機会をできるだけ多く確保するとともに、適宜短いレポートの提出を求め、参加者の「話す力」「書く力」の向上に努めます。

(題材の説明) 主に企業の戦略決定(投資・資金調達行動、マーケティングなど)と資金仲介者(銀行・証券会社等)の行動を分析し、時間的余裕があれば家計の消費・貯蓄・資産選択行動も扱いたいと考えています。これらのトピックをミクロ経済理論を用いて分析する文献を輪読するとともに、関連ニュースを報じる和文および英文の新聞・雑誌等の記事を題材にディスカッションをおこない理論の応用力を強化します。

(授業の進め方) 春学期は共通のテキストを使用し、参加者が担当箇所を発表していきます。例年は各人3回の発表機会があります。夏合宿では事前に設定した課題について調査し、その結果を口頭で発表するとともに、レポートとしてまとめ提出してもらいます。

(授業時間について) ゼミは、3年4年合同で月曜4時限、5時限連続で行います。

(授業以外のゼミ活動) 各学期数回のペースで実務の第一線で活躍されているゲストスピーカーによる講義やゼミ卒業生も参加する勉強会をを実施する予定です。講義や勉強会を通じて、ゼミ生の皆さんがあたらしい知識・視点を吸収し、将来の進路について考えるヒントを得ることを期待します。月曜4時限&5時限以外の時間に実施される活動については参加を必須とはしませんが、ゼミ生諸君に対してはこれらの活動にも積極的に参加することを期待します。

授業の到達目標 Objectives

- ・状況に応じたプレゼンテーションをおこなうことができる。
- ・ディスカッションにおいて、自らの考えを効果的に伝えたり、多様な意見を整理し集約したりすることができる。
- ・ミクロ経済理論の応用力を強化し、与えられた事例に即応的分析を加えることができる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

- 第1回：プレゼンテーションに関する留意点 (講義)
 第2回～第13回：受講生によるプレゼンテーションとディスカッション
 第14回：夏休みの課題の説明

教科書
Textbooks

2026年春学期は次の2冊を輪読しました。

Luis Cabral（青木・大橋監訳）『企業の経済学～産業組織論入門』日本評論社

朝岡・砂川・岡田『ゼミナール コーポレートファイナンス』日本経済新聞

古川・守口・阿部『新版 マーケティング・サイエンス入門 市場対応の科学的マネジメント』有斐閣アルマ

参考文献
Reference Books

適宜紹介します。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は実施しません。
レポート Papers	50%	期末レポートを評価します。
平常点評価 Class Participation	50%	プレゼンテーションの内容とディスカッションへの貢献を評価します。
その他 Others	0%	特にありません。

備考・関連URL
Note・URL

応募を検討する場合は、必ず教員によるオリエンテーション動画を視聴し、ゼミの内容・方針を確認した上で判断してください。特に、次の3科目の単位を取得済みであることを応募の前提条件としていますので注意してください。「ミクロ経済学入門」、「経済数学入門」、「ミクロ経済学Ⅰ」

また、本演習の履修が決定した場合は2026年秋学期に「ミクロ経済学Ⅱ」を必ず履修してください。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
203	経済学演習 I (有村俊秀)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	有村 俊秀
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

環境経済学

授業概要 Course Outline

気候変動や生物多様性などのグローバルな環境問題、そして、日本の都市と農村が直面する環境問題を分析する環境経済学を学びます。また、関連するカーボンニュートラル政策、再生可能エネルギーなどエネルギー問題・政策についても経済学的にアプローチします。分析手法としては、ミクロ経済学や、統計学を用いた計量経済学を用います。そのため、ゼミでは統計分析・計量分析の手法も学びます。必要に応じて、コンピュータールームでの統計分析の実習も行います。春学期は、教科書の輪読を行いながら、研究活動の方法について理解を深めます。ゼミでは、欧州・米国あるいはアジアの環境政策についても学ぶ予定です。また、冬クォーターにプレ演習を行います。そこでは、本格的なゼミ活動を行うまでの準備を行います。

授業の到達目標 Objectives

本演習では、環境経済学の論文を書くことを目標としています。そのため、前半は、環境経済学の考え方を理解することを目指します。論文執筆では、定量分析をすることを目指すため、分析に必要な統計学、計量経済学の手法を修得することも目標です。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

事前の学習として、教科書を読んでください。
事後の学習としては、ゼミの発表に対するフィードバックへ毎回対応するようにしてください。

授業計画 Course Schedule

第1回：
ガイダンス
第2回：
教科書輪読①
第3回：
教科書輪読②
第4回：
ゼミ論執筆について
第5回：
教科書輪読③
第6回：
教科書輪読④
第7回：
個人発表①
第8回：
個人発表②
第9回：
個人発表③
第10回：
計量・データ分析入門①

第11回：
グループ発表①
第12回：
グループ発表②
第13回：
グループ発表③
第14回：
計量・データ分析入門②

教科書 Textbooks

栗山 浩一、馬奈木 俊介(2020)「環境経済学をつかむ〔第4版〕」有斐閣

参考文献 Reference Books

有村俊秀・日引 聡(2023) 「入門 環境経済学 新版」(中央公論新社)
有村俊秀・杉野誠・鷺津明由編著(2022)「カーボンプライシングのフロンティア：カーボンニュートラルのための制度と技術」日本評論社

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	研究論文が書けるようになる。
平常点評価 Class Participation	50%	毎回参加し、ゼミに積極的に参加する。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

統計学、計量経済学の知識を持っている方が望ましいですが、理論分析、環境政策の制度に関心がある人も歓迎します。

関連URL：
<https://arimura.w.waseda.jp/>

ゼミ履修者には、学部の環境経済学及び計量経済学の受講をお願いします。
また、2年生の間に、統計または計量関係の講義を受講してください。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
204	経済学演習 I (上田晃三)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	上田 晃三
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

日本の経済・物価情勢の分析： ミクロデータからの分析

授業概要 Course Outline

本演習では、最近の日本経済について、ミクロデータを用いて分析することを目的とする。

具体的に扱うミクロデータは2つある。第1は、みずほ銀行の取引データである。これは、みずほ銀行さんと早稲田大学との間の学術交流協定に基づき利用が可能になった極めて潜在性の大きいデータである。第2は、スーパーマーケットのPOSデータである。レシート単位での買い物情報から、品目、会員ごとの価格・数量情報を観察できる。

演習では、Rを学習し、それをこれら2つのデータの分析に応用し、経済学・計量経済学の知識を活用しながら日本の経済・物価情勢についての分析を試みる。

また、経済財政白書、日銀展望レポートなどの輪読も行う

授業の到達目標 Objectives

最近の日本経済についての理解、経済学・計量経済学の理解の深化、Rプログラミングの習熟、プレゼン能力の向上

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎週、相応の事前準備が必要。一人一人が担当をもち責任をもった分析をすることだけでなく、各班単位でグループとして協調することも重要。

授業計画 Course Schedule

- ・コード (R) の実践
- ・データの分析
- ・プレゼン
- ・経済財政白書、日銀展望レポートなどの輪読
- ・適宜インゼミの実施

教科書 Textbooks

特になし

参考文献 Reference Books

福地純一郎、伊藤有希、「Rによる計量経済分析」、朝倉書店、2011
 一星野匡郎、田中久稔、「Rによる実証分析」、オーム社、2016
 一馬場真哉、「R言語ではじめるプログラミングとデータ分析」、ソシム、2019

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼン内容、グループ討議での貢献度合い、発表の内容。出席は必須。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

ただし、みずほ銀行データについては、2027年度から利用できなくなる可能性あり。
 出席と毎回のゼミへの貢献（発表、質問、コメントなど）は必須。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
205	経済学演習 I (大湾秀雄)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	大湾 秀雄
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

人事と組織を科学する

授業概要 Course Outline

人事経済学や組織経済学の教科書から抜粋した章およびAIや高齢化に関する本のいくつかの章を輪読し、各自疑問点や課題を探して、グループ討論する。

併せて、論文執筆のための研究テーマの選定を進め、先行研究レビューを実施し、ゼミで進捗状況を報告する。

授業の到達目標 Objectives

人事制度や組織の問題点を発掘し、分析するためのフレームワークを体得し、データを用いた分析手法を理解し活用できるようにする。

学期末までに研究テーマの選定を終える。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

割り当てられた章は読んで、疑問点を整理して演習にのぞむこと。研究テーマ候補に関する関連研究のレビューは継続的に行い、進捗報告できるように準備する。

授業計画 Course Schedule

演習1日目に、読むべき章や論文のリストは配布する。

参加者の興味に応じて内容は調整するので、必ずしも確定版ではない。

教科書 Textbooks

参考文献 Reference Books

エドワード・P・ラジア、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』樋口美雄監訳、日本経済新聞出版社

Kuhn, Peter, Personnel Economics, Oxford University Press

ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』奥野正寛、伊藤秀史、今井晴雄、八木甫訳、NTT出版

DeVaro, J. (2026). Strategic Compensation and Talent Management: Lessons for Managers (2nd ed.). Cambridge University Press.

Ellingsen, T. (2024). Institutional and organizational economics: A behavioral game theory introduction. Polity Press.

Garicano, L., Li, J., & Wu, Y. (2026). Messy jobs: The work that AI cannot reach. Upriver Press.

大湾秀雄『人事を科学する 因果推論に基づくデータ活用』、日本経済新聞出版社2017年

大湾秀雄「組織や人事制度を設計する〔労働経済学〕」、『身近な疑問が解ける経済学』第10章、日本経済新聞出版社 2014年。

大湾秀雄『男女賃金格差の経済学』日経BP社日本経済新聞出版2025年

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	50%	演習中の発言内容および積極性
そ の 他 Others	50%	プレゼンテーションの内容（理解度、完成度）

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
206	経済学演習 I (小倉義明)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	小倉 義明
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

金融の統計分析

授業概要 Course Outline

この演習では、金融理論の基本を参加者全員で議論しながら学ぶと同時に、自ら論理を組み立て、統計的手法でそれを立証し、文章あるいはプレゼンテーションとしてそれを表現する訓練をする。

授業の到達目標 Objectives

この演習では、以下の5点を目標とする。

1. 金融の基礎概念・理論を十分に理解すること。
2. 日々報道される金融事象の意味を的確に把握できること。
3. 自分の前提とする仮定を意識しつつ、自ら論理を組み立て、それを表現できるようになること。
4. 英語による情報収集に慣れること。
5. ソフトウェアを用いた統計分析に慣れること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション・打ち合わせ
第2～6回：テキスト輪読・検討（毎回2章、各章を3-4名程度が担当箇所を報告）
第7～10回：統計ソフトウェアRの練習
第11～13回：グループ研究
第14回：グループ研究構想発表会

教 科 書 Textbooks

Mishkin, F. S., The Economics of Money, Banking and Financial Markets, 13th edition, Global Ed., Pearson Education 2021（プレゼミでPart 2、前期ゼミでPart 3, 4を輪読する。旧版の中古でも可、kindle版は不具合が多いのでお勧めしません、pearson educationのオンラインテキストはお勧め）

参考文献 Reference Books

授業中に関連する論文・書籍・データを紹介する。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	グループ研究構想発表会に参加すること
平常点評価 Class Participation	70%	出席。報告。議論への活発な参加。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

- マクロ経済学A、ミクロ経済学Aを履修済みであることが望ましい。
- 金融論とファイナンスの両方を履修する予定であることが望ましい。
- 計量経済学を並行して履修すると、分析手法の幅が広がるのでなお良い。

教科書のホームページ

https://www.pearson.com/en-us/subject-catalog/p/economics-of-money-banking-and-financial-markets-the/P200000005989/9780136893929?srsltid=AfmB0orBKHodxAdBil0mu0Hvi0j4dLwWwhwuRt5s__e2-DgTB2uQ

指導教員のホームページ

<https://www.waseda.jp/fpse/faculty/2019/08/12/401/>

指導教員の近著：

『地域金融の経済学-人口減少下の地方活性化と銀行業の役割』 2021年 慶応義塾大学出版会

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
207	経済学演習 I (片山宗親)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	片山 宗親
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

データ分析とマクロ経済

授業概要 Course Outline

本経済学演習では、財政政策、金融政策、ビジネスサイクルなどマクロ経済に関する諸問題にとどまらず、履修者の興味に合致するテーマを取り上げ、データ分析を軸に経済の仕組みを一步踏み込んで理解することを目指します。グループで共同論文を執筆し、卒業論文執筆のための準備を行います。

授業の到達目標 Objectives

一年間を通じ、皆さんの興味あるテーマについて、グループで論文を書き上げることが大きな目標です。これを通じて、アカデミックな知識だけでなく、(1) 自ら論理的に考える力、(2) データ分析能力、(3) プレゼンテーションスキルを養うことを目標とします。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

「計量経済学 I」ならびに「計量経済学 II」、もしくは類似の科目を履修することを強く勧めます。データ分析に習熟している場合は、その限りではありません。

授業計画 Course Schedule

学生のプレゼンテーションを中心に進行します。具体的な方法などは、履修者と相談の上決定しますが、大講義などと異なり、全員の積極的な参加（コメント・質問）が大前提です。

教 科 書 Textbooks

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼンテーションの出来やディスカッションへの参加にもとづく
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

<https://katayama.w.waseda.jp/>ゼミに関する質問などは、気軽にmkatayama@waseda.jpまで送ってください。また、よくある質問などは、ココにまとめてあります。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
208	経済学演習 I (金子昭彦)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	金子 昭彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

マクロ経済分析と国際金融

授業概要 Course Outline

経済学演習Iでは、まず下記の教科書 1 を利用し国際金融の基本概念や基本データを学ぶ。その後、教科書 2 で国際金融への理論的アプローチを学ぶ。

授業の到達目標 Objectives

国際金融の基本概念や基本データを理解すること。

経済学演習IIでは、教科書 2 を用いて理論面を勉強する予定であるが、その前段階として国際金融の基本概念や基本データを理解することが経済学演習Iの目的である。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

事前学習：

教科書の該当部分を予習し、担当者は発表日の前日までに資料を作成しておくこと。他の学生は、担当者が作成した資料に対するコメントを準備すること。発表者 5 時間程度、それ以外 2 時間程度

事後学習：

教員から提示された宿題に取り組むこと。2 時間程度

授業計画 Course Schedule

第 1 回－第14回：国際金融及び国際貿易の基礎知識の取得

教科書 Textbooks

1. 佐藤綾野・中田勇人『国際金融論15講』 新生社
2. “International macroeconomics: A modern approach” Martı́n Uribe, Stephanie Schmitt-Grohé, Michael Woodford, Princeton

参考文献
Reference Books

沖本竜義『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』有斐閣
 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮『計量経済学』有斐閣
 星野匡郎・田中久稔・北川梨津『Rによる実証分析（第2版）：回帰分析から因果分析へ』オーム社

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	授業準備の状況、授業における積極性
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門の内容を理解していること。
 自習時間に時間をかけることが望まれる。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
210	経済学演習 I (小林和夫)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	小林 和夫
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

グローバル経済史の研究—植民地主義と経済

授業概要 Course Outline

私たちが生きている現在の世界は、どのようにして形成されたのだろうか。このような問いを考えるときのキーワードの1つが、「グローバル化」であろう。一般に広く浸透しているストーリーは、ヨーロッパ人（+アメリカ人）を中心的アクターとするものであろう。そこでは、彼らの商業的・植民地主義的拡大は、アジアやアフリカの諸地域を自らの世界システムに「併呑」していく過程として捉え、他方で「併呑」された諸地域の人々は、「受動的な犠牲者」として描かれることが多かった。しかし、そのような解釈は、20世紀後半に「奇跡」と呼ばれた東アジアの経済成長、1990年以降のインドの経済成長、さらには近年のアフリカ諸国の経済成長をどれほど説明することができるのだろうか。現在の私たちが生きている世界で起きている変化は、昔ながらのヨーロッパ中心主義的歴史解釈に束縛されることなく、各地域のアクターの役割にも目を向けてみることの重要性を教えてくれているのではないか。そこで本演習では、近年出版された書籍をもとに議論を重ねながら、グローバル化の歴史的過程について理解を深めていきたい。とりわけ植民地支配が各地域経済の発展におよぼした影響について関心を絞り、現在の状況をどこまで説明することができるのか、展望したい。

授業の到達目標 Objectives

テキストの輪読を通じて、経済史研究の基本的事項を習得する。それと合わせて、多面的に歴史を捉える能力を涵養する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

報告担当者を決めて、毎週テキストを輪読する。受講生の関心や希望に応じて、英領アフリカの植民地統計を用いた歴史分析やグループ研究を実施してもよい。また、学期の途中で論文の書き方を学ぶ機会も作り、各参加者の卒論研究プロジェクトに関する議論の時間も設ける予定である。

教科書 Textbooks

追って指示する。

参考文献
Reference Books

Leigh Gardner and Tirthankar Roy, The Economic History of Colonialism (Bristol: Bristol University Press, 2020).

Ellen Hillbom and Erik Green, An Economic History of Development in Sub-Saharan Africa: Economic Transformations and Political Change (Cham: Palgrave Macmillan, 2019).

A. G. Hopkins, An Economic History of West Africa (2nd edition, London and New York: Routledge, 2019).

Tirthankar Roy, Water and Development: The Troubled Economic History of the Arid Tropics (Oxford: Oxford University Press, 2025).

ティルタンカル・ロイ (水島司訳) 『インド経済史—古代から現代まで』名古屋大学出版会、2019年 (Tirthankar Roy, India in the World Economy: From Antiquity to the Present, Cambridge: Cambridge University Press, 2012).

ティルタンカル・ロイ (小林和夫訳) 『モンスーン経済—水と気候からみたインド史』名古屋大学出版会、2025年 (Tirthankar Roy, Monsoon Economies: India's History in a Changing Climate, Cambridge, MA: MIT Press, 2022).

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼンテーションと議論への貢献
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

演習担当者が担当している経済史入門A02（春学期）を受講すること。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
211	経済学演習 I (西郷浩)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	西郷 浩
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

社会・経済の統計的分析

授業概要 Course Outline

この演習Iは、Rなどの統計ソフトウェアを利用しながら、各種の統計分析の手法を学習する。教科書を含めた教材は、ゼミ生と相談して選ぶ。ゼミ生全員が自主的に実習に取り組むことを期待する。

この演習は、ゼミ生が演習I、II、III、IVをすべて履修することを想定して、演習IVにおいて演習論文を完成することを最終的な目標とする。演習Iと演習IIは、演習論文作成に必要な統計的分析手法の習熟に充てられる。演習IIIと演習IVは、各自が選んだテーマに沿って、分析の結果を定期的に報告し、ゼミ生との議論に基づいて分析を発展させることに充てられる。

演習I、演習III（どちらも春学期に開講される）では9月に合宿を実施する予定である。

年間の予定や演習論文のテーマについては、備考・関連URLにある、2004年度以降の演習の記録を参照のこと。

授業の到達目標 Objectives

演習I：Rなどのソフトウェアを用いて統計分析が実行できること。

演習II：同上

演習III：各自が選んだテーマに沿って統計データを分析すること。

演習IV：演習論文の完成

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

- (1)「統計学I」と「統計学II」を単位取得済みであること。
- (2)「計量経済学I」を単位取得済みまたは登録中であることが望ましい。演習Iと並行して登録するのでもよい。

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション・教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第2回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第3回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第4回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第5回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第6回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第7回：教科書の輪読

教科書の輪読とRによる統計実習

第8回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第9回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第10回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第11回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第12回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第13回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習
第14回：教科書の輪読
教科書の輪読とRによる統計実習

教科書 Textbooks

ゼミ生と相談して決定する。

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末レポート（演習で使ったスライドなどをもとに作成したもの）
平常点評価 Class Participation	50%	演習における報告の内容
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

過去の演習の記録<https://saigo.w.waseda.jp/info/seminarsupervision.htm>
提出された演習論文の題名
<https://saigo.w.waseda.jp/info/seminartheses.htm>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
212	経済学演習 I (笹倉和幸)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	笹倉 和幸
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

マクロ経済学の歴史的・理論的研究

授業概要 Course Outline

1 年次の「マクロ経済学入門」(＝初級マクロ経済学)、2 年次の「マクロ経済学I, II」(＝中級マクロ経済学)で修得した知識を前提として、マクロ経済学についてさらに深く研究する。特にマクロ経済学の歴史的・理論的側面を重視する。したがって、このゼミでマクロ経済学を研究する人の目標は次の2つに大きく分けることができる。すなわち、歴史的側面を重視すれば、①ケインズ『一般理論』以降のマクロ経済学の展開を独自の視点でとらえる、ということが目標である。あるいは、理論的側面を重視すれば、②扱いやすく信頼できるマクロ・モデルを作る、ということが目標になる。このゼミでは、どちらかの目標(できれば両方の目標)に向かって研究することになる。そして、マクロ経済学のどの部分が正しくて、どの部分がそうでないか(そしてさらには、どうすればそれを克服できるか)、という(壮大な)問いに対して自分自身の答えを少しでも見つけてほしい。(4 年生で執筆するゼミ論文のテーマは各自の関心に基づいて自由に決めてよい。)

授業の到達目標 Objectives

マクロ経済学を歴史的・理論的に十分理解し、マクロ経済学の現状に対して自分自身の考えをもてるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ケインズ『一般理論』を毎週2章ずつ読んで報告書を作成する。所要時間は毎週90分。

授業計画 Course Schedule

第1回：ケインズ『一般理論』
ケインズ『一般理論』について説明します。
第2回：古典派理論とセイの法則
古典派理論とセイの法則について説明します。
第3回：有効需要の原理
有効需要の原理について説明します。
第4回：消費理論
消費理論について説明します。
第5回：乗数理論
乗数理論について説明します。
第6回：投資理論
投資理論について説明します。
第7回：流動性選好説
流動性選好説について説明します。
第8回：貨幣数量説
貨幣数量説について説明します。
第9回：ハロッドの経済動学
ハロッドの経済動学について説明します。
第10回：ケインズ派の景気循環理論
ケインズ派の景気循環理論について説明します。

第11回：ヒックスとIS-LMモデル
ヒックスとIS-LMモデルについて説明します。
第12回：マネタリズムと合理的期待形成学派
マネタリズムと合理的期待形成学派について説明します。
第13回：新しいケインズ派経済学
新しいケインズ派経済学について説明します。
第14回：新古典派経済成長理論
新古典派経済成長理論について説明します。

教科書 Textbooks

ケインズ（塩野谷祐一訳）『雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社、1995年。

参考文献 Reference Books

- (1) スノードン=ヴェイン（岡地勝二訳）『マクロ経済学はどこまで進んだか』東洋経済新報社、2001年。
- (2) カリアー（小坂恵理訳）『ノーベル賞で読む現代経済学』筑摩書房、2020年。
- (3) 笹倉和幸「さらに深く学習するための文献案内」『標準 マクロ経済学』東洋経済新報社、2024年。

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	40%	3年次はタームペーパー、4年次はゼミ論文の質で評価する。
平常点評価 Class Participation	60%	授業への積極的参加。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
213	経済学演習 I (鎮目雅人)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	鎮目 雅人
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

世界の中における日本経済の歴史/Japanese economy in the modern world

授業概要 Course Outline

われわれが生きている現在は、過去から未来へと続く長い歴史の一局面である。本演習では、グローバルな環境の中での日本の位置づけの変遷を意識しつつ、日本経済史研究の基礎を学ぶ。その際、経済学の知識(理論・実証)と歴史学のアプローチ(史料批判/document critique)を用いて社会現象を分析する方法論を学ぶ。履修者は、自ら資料を読み歴史について考えるという意味で、講義科目としての経済史の授業(既存の研究成果を受け身で受け取る)とは異質な世界を体験することとなる。春学期(演習I)においては、経済史に関するカレントなトピックを選び、資料を批判的に検討する。毎回、参考文献・資料について、全員でディスカッションを行うことを想定しているので、参加者全員があらかじめ参考文献に目を通しておくことが期待される。履修者は、2年生秋学期までに「経済史入門」「日本経済史」を履修すること。なお、ゼミへの参加に際して日本語の文献を読む能力は必須である/Students are expected to be able to read contemporary Japanese.

授業の到達目標 Objectives

日本経済史研究の基礎を習得したうえで、経済史研究の方法論に則り、各自が単著による研究論文を完成させることを最終目標とする。そのための準備作業を通じ、①自らの問題意識に基づき、②客観的な論拠に基づいて検証を行い、③研究の成果を他者に伝える技術を習得する。研究論文の執筆言語は日本語または英語とする/Students will be required to write a thesis either in Japanese or English.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回のゼミに際して、事前に全員が課題に目を通し、ゼミ開始までに要約を提出することを義務付ける。

授業計画 Course Schedule

第1回：
授業の目的、今後の進め方
第2回：
課題図書の輪読
第3回：
課題図書の輪読
第4回：
課題図書の輪読
第5回：
課題図書の輪読
第6回：
課題図書の輪読
第7回：
卒業論文作成に向けた研究計画
第8回：
課題図書の輪読
第9回：

課題図書の輪読
 第10回：
 課題図書の輪読
 第11回：
 課題図書の輪読
 第12回：
 課題図書の輪読
 第13回：
 課題図書の輪読
 第14回：
 卒業論文作成に向けた研究計画

教科書
Textbooks

指定しない。

参考文献
Reference Books

その都度指示する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	毎回のゼミの事前課題：30% 授業への積極的参加（報告・ディスカッション）：70%

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
214	経済学演習 I (田中久稔)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	田中 久稔
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

経済学のための数学

授業概要 Course Outline

この演習では、専門的に経済学や計量経済学を勉強するために必要となる数学の知識、および数学を勉強する方法を身につけることを目標にしています。数学書の読み方、ノートを取り方、具体例の作り方など、真剣に数学を学ぶための基本動作から指導します。トピックは、位相空間論、測度論、関数解析、それらの経済学への応用などの中から、参加者の希望に応じて選択されます。

参加希望者は以下の点に注意してください：(i) 本演習では数学的文書作成ソフト「LaTeX」を多用します。したがって各自が自分のノートPC（安価なもので構わない）を用意する必要があります。(ii) この演習では非常に広い範囲を深く学習することになるため、月曜4限・5限に2コマ連続して実施します。どちらのコマにも出席できる者だけが参加してください。(iii) 本演習の内容を理解するには数学の素養が不可欠です。数学力の目安としては、私が担当している「経済数学」においてB以上の成績を取得できていることが一つの判定基準になります。この演習で必要となる数学と統計学については基礎から丁寧に教えますが、参加者の側にも相当の努力が求められます。(iv) 大学院進学を希望する者を対象にサブゼミを実施します。サブゼミの内容は参加者の希望に沿って選びます（これまでは、位相集合論、多様体論、微分形式の理論、関数解析、弱収束の理論、統計的漸近論などからトピックを選んでいきます）。大学院進学希望者は必ず参加してください。

授業の到達目標 Objectives

以下の3点を目標とする。

- (i) 学術雑誌に掲載されている論文の概要を理解できるようになる。
- (ii) LaTeXを用いて学術論文を執筆できるようになる。
- (iii) 数学の専門書を読むための姿勢が身につく。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

授業冒頭に前回の内容の理解を確認するための小テストを実施する。
また当番制でゼミの内容をまとめたノートをLaTeXにより作成する。

授業計画 Course Schedule

- 1-5：基礎的な数学知識の準備
- 6-15：テキストの輪読

教科書 Textbooks

- ・ テレンス・タオ「ルベーグ積分入門」(朝倉書店)
- ・ 谷島「物理数学入門」(東大出版会)
- ・ その他

参考文献 Reference Books

田中久稔「経済学のための数学：線形代数編」(日本評論社)
田中久稔「計量経済学のための数学」(日本評論社)

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	授業冒頭で復習のための小テストを実施する.
レポート Papers	100%	当番制で作成するLaTeXによる「講義ノート」によって評価する.
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
215	経済学演習 I (遠山祐太)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	遠山 祐太
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

産業組織論、経済政策、消費者行動に関する実証研究

授業概要 Course Outline

本ゼミでは、産業組織論、経済政策(特に競争・規制政策)、消費者行動(家計行動・数量マーケティング)などにおける各種課題について、経済学の知見を活用した実証研究を行います。皆さんが学んできた経済学の理論分析は切れ味良いツールであるものの、そのみで解答するには難しい課題が数多く存在します。現実の事象や課題を分析し、その結果を政策・ビジネスへ活用するには、実際のデータと向かうことが欠かせません。本ゼミでは、皆さんが興味を持つ政策・ビジネス上の重要な学術課題に対して、経済学に基づいた定量的な分析を行い、政策・ビジネスへのインプリケーションを持つアウトプット(論文とプレゼンテーション)を産み出すことを目指します。

演習1においては、疑似データセット及び現実のデータセットを用いた実証研究プロジェクトに取り組んでいきます。手を動かしてデータ分析に取り組むことで、統計・計量分析及びプログラミングの知識を深めるとともに、プレゼンテーションのやり方・データ分析プロジェクトの進め方を学んでいきます。

授業の到達目標 Objectives

経済学、データ分析、プログラミングを活かした政策・ビジネスに関する応用・実証研究を行えると同時に、中長期的にも新しい知識を学び吸収していける人材になることを目指します。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

本ゼミ参加者は、2年生秋学期及び3年生時に計量経済学系科目の履修を必須とします。具体的な要件については、https://yutatoyama.github.io/teaching/zemi_for_AY2027 を参照してください。

授業計画 Course Schedule

演習1においては、疑似データセット及び現実のデータセットを用いた実証研究プロジェクトに取り組んでいきます。手を動かしてデータ分析に取り組むことで、統計・計量分析及びプログラミングの知識を深めるとともに、プレゼンテーションのやり方・データ分析プロジェクトの進め方を学んでいきます。

学生の発表を中心に進めます。具体的な進め方については参加者と相談して決定します。なお、人数にもよりますが、学生による報告は「短めであるが、頻度は多めに」という形で進めます。そして、他の学生からの積極的なコメント・質問を期待します。

「学期に一回の発表を乗り切れば、あとは教室に黙って座っていれば良い」というマインドセットの方には決してオススメしません。

教科書
Textbooks

特になし。

参考文献
Reference Books

研究の方法論については
ブース・コロンブ・ウィリアムズ他「リサーチの技法」
Bellemare "Doing Economics: What You Should Have Learned in Grad School"
計量経済学については、
伊藤「データ分析の力」
安井「効果検証入門」
星野・田中・北川「Rによる実証分析（第2版）：回帰分析から因果分析へ」
西山・新谷・川口・奥井「計量経済学」
上武・遠山・若森・渡辺「実証ビジネスエコノミクス」
その他、適宜紹介します。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	平常点100%。ゼミの一員として毎回出席し、積極的に議論に参加することを求めます。やむを得ない事情による欠席は、十分事前に教員及びゼミメンバー全員に必ず連絡してください。

備考・関連URL
Note・URL

ゼミ応募に際して、ゼミの詳細や応募書類について、https://yutatoyama.github.io/teaching/zemi_for_AY2025 を必ず参照してください。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
216	経済学演習 I (内藤巧)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	内藤 巧
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

国際貿易論

授業概要 Course Outline

国々はどのような財を輸出し、輸入するのか？人々は貿易から利益を受けるのだろうか？このような問題を扱う国際貿易論は19世紀以来多くの人たちの興味を引きつけてきたが、それを理解し、他人に説明できるまでに習熟するのは平均的な経済学科の学部生にとって非常に難しい。

国際貿易論が難しい1つ目の理由は、一般均衡モデルを考えなければならないからである。国際貿易は異なる産業の間で、あるいはある産業内の異なる製品の間で起こるものなので、必然的に2つ以上の財あるいは製品（そしてそれらの生産に使われる生産要素も）の市場均衡を同時に扱わなければならない。中級ミクロ経済学の授業でさえ不十分にしか触れられない生産経済の一般均衡モデルを、2つ以上の国がある経済で分析しなければならないのだから、理論的な難易度が高いのは当然である。

2つ目の理由は、国際貿易論の実証科学化である。より細かいデータの入手可能性とコンピューターの性能が高まり続けていく中で、国際貿易の理論はますます実証可能になってきている。しかしながら、理論と現実の距離を正確に測るためには、適切な計量手法を理解し、実装するスキルを身につけなければならない。

このように、国際貿易論に習熟するには多くの時間と努力が必要である。このゼミでは、I-IVの4学期にわたって、国際貿易モデル（完全競争モデルと不完全競争モデル）の理論と実証を「ゆっくり」「深く」学ぶ。より具体的には、奇数年度には完全競争モデル（アーミントン・モデル、イートン・コータム・モデルなど）、偶数年度には不完全競争モデル（クルーグマン・モデル、メリッツ・モデルなど）を扱う。春学期（演習I, III）には理論、秋学期（演習II, IV）には実証を行う。

前提条件として、演習Iの開始時点までに「ミクロ経済学I」、及び演習IIの開始時点までに「計量経済学I」を履修するか、それと同等の知識を身につけていることが必要である。

授業の到達目標 Objectives

国際貿易モデル（完全競争モデルと不完全競争モデル）の理論と実証を理解し、説明できるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

発表者はランダムに当てられるので、全ての学生は常に発表の準備をしておかなければならない。とはいえ、進度は遅いので、週当たりの負担は少ない。理論の場合は発表スライドを用意する必要さえない。

授業計画
Course Schedule

奇数年度第1回 - 第14回：完全競争貿易モデルのハンドアウトを輪読する。
偶数年度第1回 - 第14回：不完全競争貿易モデルのハンドアウトを輪読する。

教科書
Textbooks

なし。ハンドアウトがオンラインで配布される。

参考文献
Reference Books

大学院レベル：

Feenstra, R. C., 2016. Advanced International Trade, Second Edition, Princeton University Press, Princeton.

実証（演習II, IVの教科書）：

清田耕造, 神事直人, 2017. 『実証から学ぶ国際経済』. 有斐閣, 東京.

中級（ブレ演習の教科書）：

阿部顕三, 遠藤正寛, 2012. 『国際経済学』. 有斐閣, 東京.

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	- 発表及び議論のパフォーマンスを総合的に評価する. - 欠席3回以上で不合格. ただし, 就職活動等による欠席は事前に証拠を提出したときのみ欠席として扱わない.
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

<<https://tnaito.w.waseda.jp>>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
217	経済学演習 I (別所俊一郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	別所 俊一郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

日本の公共政策に関する実証分析

授業概要 Course Outline

大学は知識を創造しているところです。講義ではすでに創造された知識を伝達することに重点が置かれています。せっかく大学に来ているのに、それだけではもったいないです。

演習は、知識を創造するという経験をする場所です。すでに創造された知識を受け取るだけでなく、受け取った知識を活用して、自分なりの問題に対して回答を導き出し、新たな知識を生産します。さらに、新しく生産された知識を分かりやすく他の人に伝達するという訓練も行います。そのため、このゼミでは、他の講義や授業でもできることはやりません。準備し、発表し、質問を受け、回答を返すことを通して、新たな知識の創造を、少人数体制でじっくりと体験します。

知識を創造することは、ものの見方を変えます。新たに知識を得ると、テレビを見ても、電車に乗っても、街を歩いていても、これまでとは違った風景に感じられるはずです。学問とは、そのためにあるのです。大学で、大学らしいことを、やってみましょう。

授業の到達目標 Objectives

この演習での目標は、みなさん自身が興味のあるテーマについて論文を書き上げるための準備を整えることです。自分の興味のあるテーマについて経済学的な論文を書くことは、得難く、楽しい経験になるはずです。「経済」にいまひとつ興味をもてない人、数式やグラフで練習問題は解けても何をやっているんだかぴんときかない人に、もっと知的で素敵な体験をしてほしいと思っています。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

2年生秋学期から3年生にかけて、計量経済学系科目(計量分析(政治)や計量経済学1)と、政策に関連する科目(財政学A/B, 労働経済学I, II, 地方財政など)の履修を強く推奨します。具体的な科目については個別に紹介します。

授業計画 Course Schedule

演習1では、演習2以降で行う実証研究の基礎を固めるために、まず、計量経済学の基礎的手法の実践、統計・計量経済学ソフトウェアの扱いについて学びます。次に、研究テーマの探索・関連する先行研究の検討を進めます。

授業は学生の発表と、それに対する学生と教員のコメント、応答を中心に進めます。より具体的な方法については参加者と相談して決定します。1学期内での発表回数は、参加者数にもよりますが、多めになる予定です。

教科書
Textbooks

畑農鋭矢・水落正明. 2022. データ分析をマスターする12のレッスン 新版. 有斐閣アルマ. ISBN-13 : 978-4641222052
 田中隆一. 2015. 計量経済学の第一歩 ― 実証分析のススメ. 有斐閣ストゥディア. ISBN-13 : 978-4641150287
 星野匡郎・田中久稔・北川梨津. 2023. Rによる実証分析 (第2版): 回帰分析から因果分析へ. オーム社, ISBN-13: 978-4274230028

参考文献
Reference Books

Stock, James H., Mark W. Watson. 2019. Introduction to Econometrics, Global Edition.
 今井耕介. 2018. 社会科学のためのデータ分析入門 (上)(下). 岩波書店
 松浦寿幸. 2024. Rによるデータ分析入門―経済分析の基礎から因果推論まで―. 東京図書. ISBN-13: 978-4489024245
 そのほか, 適宜紹介します.

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミの一員として毎回出席して積極的に発言することを求めます. 欠席するときには事前に教員に必ず連絡してください. 欠席回数によっては単位を認めません.
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

応募に際しては, ゼミオリエンテーション資料と, 教員ウェブサイト<https://sites.google.com/view/shunbessho/seminar> を必ず参照してください.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
218	経済学演習 I (星野匡郎)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	星野 匡郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ミクロ計量経済学と機械学習

授業概要 Course Outline

本講義では、機械学習を含む先端的な計量経済学の学習に取り組みます。
近年はとくに機械学習を中心に学習しています。
具体的な内容については、テキストの輪読、統計ソフトを用いた演習、グループでの論文執筆、論文・政策コンテストへの参加など、学生のレベルや希望に応じて決定します。

授業の到達目標 Objectives

卒業論文の執筆に向けて、より専門的なテキストや先行研究を読解できるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

入門的な統計学、計量経済学の知識は前提とします。

授業計画 Course Schedule

第1回：学生発表
第2回：学生発表
第3回：学生発表
第4回：学生発表
第5回：学生発表
第6回：学生発表
第7回：学生発表
第8回：学生発表
第9回：学生発表
第10回：学生発表
第11回：学生発表
第12回：学生発表
第13回：学生発表
第14回：学生発表

教科書 Textbooks

講義中に指示する

参考文献
Reference Books

これまで輪読したテキストの例

- 『Pythonからはじめる数学入門』（2016）オライリージャパン Amit Saha
 『ゼロから作るDeep Learning：Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装』（2016）オライリージャパン 斎藤康毅
 『TensorFlowで学ぶディープラーニング入門』（2016）マイナビ出版 中井悦司
 『東京大学のデータサイエンティスト育成講座』（2019）マイナビ出版 塚本 邦尊, 山田 典一, 大澤 文孝
 『自然言語処理のための深層学習』（2019）共立出版 Yoav Goldberg
 『Pythonで動かして学ぶ！あたらしい機械学習の教科書』（2019）翔泳社 伊藤真
 『生成Deep Learning』（2020）オライリージャパン David Foster
 『「強化学習」を学びたい人が最初に読む本』（2021）日経BP 伊藤真
 『ゼロから作るDeep Learning 4 強化学習編』（2022）オライリージャパン 斎藤 康毅
 『AlphaZero 深層学習・強化学習・探索 人工知能プログラミング実践入門』（2019）ボーンデジタル 布留川 英一, 佐藤 英一

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	60%	授業出席，発表，議論への参加
その他 Others	40%	発表のクオリティーに応じて加算する．

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
219	経済学演習 I (村上由紀子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	村上 由紀子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

労働に関する研究

授業概要 Course Outline

経済活動における労働の役割や貢献は大きい。労働という生産要素があつてこそ企業の生産は成り立ち経済は成長する。また、労働力を供給する人間の多くは、人生の多くの時間を労働に費やしている。能力を発揮し、やる気をもって仕事に取り組みながら、人生の中でワークとライフのバランスをとっていくことは重要である。本演習では、経済の根幹と我々の生活を支える労働について、国、企業、労働者の各視点から研究を行う。技術進歩、産業構造の変化、経済のグローバル化、少子高齢化等の環境変化の中で、労働力の質を高め、有効に活用し、経済の発展と個人の幸福を実現するために、企業と個人の行動、社会の仕組みや政策について研究を行う。

授業の到達目標 Objectives

授業概要で記したテーマに関連する文献を読み、ディスカッションを行うことを通じて、知識を深め、思考力と研究に必要なスキルを高める。また、12月に予定されているインターゼミナールの準備として、グループに分かれ、研究課題を設定し、研究計画をたてる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション 第2回～6回：文献研究とディスカッション
第7回：ディベート
第8回：データ検索
第9～13回：グループ研究の課題設定、研究計画作成
第14回：プレゼンテーション

教科書 Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席および授業中のディスカッション等への参加 (50%) 宿題 (30%) グループワークの成果 (20%)

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
220	経済学演習 I (森口千晶)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	森口 千晶
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

経済学で歴史を読み解く

授業概要 Course Outline

経済史とは、経済学の枠組みや分析手法を用いて歴史を解き明かす学問です。この演習 I では、経済史の基礎的概念や方法を学びつつ、経済史の長期的視座がもたらす知見を参加者全員で批判的に検討していきます。

授業の到達目標 Objectives

この演習 I では、以下を目標とします。

- 1) 経済史の研究手法を理解する
- 2) 長期的な視座から俯瞰する能力を獲得する
- 3) 自ら問いを立て、論理的な仮説を組み立て、検証する能力を培う
- 4) 研究の成果をまとめ、他者に明確に伝える技術を習得する
- 5) 日本語および英語でディスカッションを行う能力を磨く

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

この演習 I の履修者は、二年生の秋学期（またはそれ以前）にグローバル経済史を履修してください。また、ミクロ経済学と計量経済学の基礎知識があることも強く望まれます。日本語だけではなく、英語での報告やディスカッションも予定しているので、英語に慣れていない人は英語の練習も必要かもしれません。

毎回のゼミでは、事前に指定された文献に目を通し、積極的にディスカッションに参加してください。

授業計画 Course Schedule

第1回：ガイダンスと打合せ

第2～9回：テキストの輪読（報告＋ディスカッション）、時にはゲストスピーカーによる研究発表

第10～14回：グループ研究とその発表

ただし、授業計画は参加者の人数や興味によって変更になる可能性があります。

教科書 Textbooks

テキストには英語の本または論文を用いる予定です。

参考文献
Reference Books

ダロン・アセモグル&ジェイムズ・ロビンソン『国家はなぜ衰退するのか』ハヤカワ文庫
マーク・コヤマ&ジャレド・ルービン『経済成長の起源』草思社
ジャレド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄』草思社文庫
ユヴァル・ノア・ハラリ『サビエンス全史』河出文庫

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	平常点評価100%：ゼミへの積極的参加（報告、質疑応答、ディスカッション）

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
221	経済学演習 I (山本竜市)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	山本 竜市
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ファイナンス

授業概要 Course Outline

ファイナンスとは資産運用・取引、リスクマネージメント、投資の意思決定に関する研究全般を示します。本演習ではファイナンス分野の教科書の輪読やファイナンス理論・実証論文のサーベイを通じ、卒論のテーマの探し方、論文の書き方、研究発表方法など指導します。卒論では興味のあるファイナンスの世界にある問題を取りあげ、データを使って（数学を使っても構わない）簡単に分析してもらいます。

毎年8月下旬にソウル国立大学、台湾国立政治大学、Israel College of Management、千葉商科大学（学長ゼミ）、ベトナム国立大学などの学生、教員が一度に集まるインゼミを行います。毎年参加者数約150人の大きな大会でインゼミでの使用言語は英語です。国際感覚を養ってもらいます。2014年のインゼミはベトナム国立大学、2015年は台湾国立政治大学、2016年はソウル国立大学、2018年は千葉商科大学、2022年度は台湾国立政治大学主催でZoomでの開催、2023年はベトナム国立大学、2024年はソウル国立大学、2025年は台湾国立政治大学にて現地開催。2026年は千葉商科大学で開催予定。

本演習履修前に2年生のプレ演習に参加してください。プレ演習の内容は後日emailにて連絡します。

授業の到達目標 Objectives

本演習では、ファイナンス分野の教科書の輪読、理論・実証論文のサーベイ、卒論作成の過程で、以下の点を到達目標とします。1) ファイナンスの基礎概念の理解する、2) 基礎概念を応用することで現実で見られる様々な経済問題の原因を理解する、3) 現実で見られる経済問題に対し自分の意見をまとめ、発表する能力・技術を磨く。卒論とは別にインゼミに向け英語での論文を作成し、英語での発表の仕方も勉強します。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示します

授業計画 Course Schedule

第1回：打ち合わせ

第2-14回：ファイナンス分野の教科書の輪読または理論・実証論文のサーベイ、研究報告

第15回：各自の研究計画の検討

教科書
Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	報告、討論、出席などが評価される。レポート、宿題を課す場合もある。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
222	経済学演習 I (若田部昌澄)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	若田部 昌澄
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

経済学的思考を身につける：AI時代に君たちはどう生きるか

授業概要 Course Outline

私は経済学は大変面白く役に立つと思っています。しかし、多くの学生は、経済学の面白さも有用性も体感するところまでは到達していないのが実情ではないでしょうか。それ以上に、そもそも経済学的思考法が何かもまだわかっていないのではないのでしょうか。経済学が面白くなるには、経済学を使ってみることが一番です。そもそも経済学は現実の経済問題を理解し、解決することを目的としてきました。この点、色々と批判はありますが、問題解決の学問としての現在の経済学は実際の役に立ちます。例えば、2024年初頭からコメの価格が急上昇しました。この現象を説明できるのは、簡単な需要供給分析です。もちろん、経済学も完璧ではなく、間違えていたところもあります。むしろ、経済学者はその時々の方勢を踏まえて、経済知識のアップデートを進めているし、進めていくのが健全な姿です。ここで、経済学の思想とその歴史、そして古典そのものを知っていることも大いに役に立ちます。経済学史は、経済そのものの歴史を扱う経済史とは異なり、経済学という学問の歴史です。歴史を通じた具体的な経済問題を考えると、抽象的な概念を理解することが容易になります。ことに、人類がこれまで経験してきた経済・金融危機や、大きな変化に対して、経済学者がいかに格闘し、経済学を進化させてきたのかを理解すると、経済学が身近に、そして重要なものとして実感できます。古典そのものといえば、例えばミルトン・フリードマンの『資本主義と自由』は、今でも刺激的で、経済学的思考を教えてください。今年度の演習では、「AI時代に君たちはどう生きるか」と題して、主として経済学的側面からAIの影響を考えていきます。経済成長、雇用、産業、金融へのAIの衝撃を経済学的に考察します。また、AI時代に人間に残されることは何か、あるいは人間とは何か、という哲学的な問いもあります。大事なことは、AI時代に君たちはどう生きるか、何を学ぶべきか、を問うことです。

2年間の学びの証拠として、学生独自の研究で、演習修了論文を書いてもらいます。それについては、経済学に関わることならば、全て対象にすることにします。もちろん、経済学史の研究でも構いません。演習は2つのパートに分けて運営する予定です。パート1は、共通テーマに関わる研究になります。2024年度入ゼミ生は中央銀行、2025年度入ゼミ生は経済危機を研究しました。2026年度は、経済政策の3つの課題、マクロ経済安定化、経済成長、社会保障を学びました。2027年度はAIです。

パート2は、学生の関心に応じて現在の経済問題を自由に考えます。

本演習では、文献読解と討論が主になりますが、時には外部から講師を読んできてお話をさせていただくことも有益でしょう。

なお、本演習では、学生のキャリア形成支援にも力を入れています。2024年度はEYの方を講師に招いたり、PwCJapan有限責任監査法人と企業決算書の読み方についての講座を開催しました。好評につき、25年度、26年度もPwCJapan有限責任監査法人との講座は開催しました。

授業の到達目標 Objectives

1. 論理的な思考力を身につける
2. 口頭でのプレゼンテーション能力を身につける
3. 文献を読むことを苦になくなる
4. 英語の文献を読むことを苦になくなる
5. 文章を書くことに慣れる
6. 現実の経済問題を分析する能力を身につける
7. 経済学の古典に親しむ

*AI時代のスキルを身につけることが大事。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

1. 事前には教科書の予習が必須。マクロ経済学、ミクロ経済学について、きちんと理解しておくように。
2. 事後的には、学んだことをどう活かすかを考えることが重要。

授業計画 Course Schedule

0. 君たちの生きる社会
 1. 問題解決とは何か：どういう道具が必要か、どういう問題を考えるか、どういう解決策を考えるか
 2. 経済学的思考とは何か：基礎がため
 3. 事例研究：使ってみる

教科書 Textbooks

教科書については、興味深い新刊が出てくるかもしれないので、演習の中で決める。

以下に掲載するのは、これまで利用してきた教科書である。

安宅和人『イシューからはじめよ——知的生産の「シンプルな本質」改訂版』（英治出版、2024年）：問題解決の手引きとして有用。

飯田泰之『財政・金融政策の転換点』（中公新書、2023年）：2025、26年度の教科書。

岩田規久男『資本主義経済の未来』（夕日書房、2021年）：2025年度の教科書。

鈴木亘『入門 社会保障の経済学』（新世社、2025年）：2026年度の教科書。

サスキンド、ダニエル『GROWTH』（みすず書房、2025年）

グラットン、リンダ、アンドリュー・スコット『LIFE SHIFT』（東洋経済新報社、2016年）：プレ演習

野矢茂樹『新版 論理トレーニング』（産業図書、2006年）：プレ演習

Bernanke, Ben S, 21st Century Monetary Policy: The Federal Reserve from the Great Inflation to COVID-19 (W. W. Norton, 2022年)：言わずと知れた米連邦準備制度理事会元議長かつノーベル経済学賞受賞者による中央銀行論。邦訳あり。2024年度教科書。

Blanchard, Olivier, Fiscal Policy under Low Interest Rates (The MIT Press, 2022)（『21世紀の財政政策』日本経済新聞出版、2023年）：金融政策は財政政策と密接に関係していることがよくわかる。2024年度教科書。

Brunnermeir, Markus K., and Ricardo Reis, A Crash Course on Crises: Macroeconomic Concepts for Run-Ups, Collapses, and Recoveries (Princeton University Press, 2023)：100ページ余りで経済危機のマクロ経済学をまとめている。先進国だけでなく、Emerging Marketsにも目配りしているのが良い。邦訳あり。2024年度教科書。

James, Harold, Seven Crashes: The Economic Crises That Shaped Globalization (Yale University Press, 2023)：グローバリゼーションとの関連で7つの経済危機を分析。2025年度教科書。

その他論文。

随時古典。ケインズ、フリードマンなど。

参考文献 Reference Books

若田部昌澄『経済学者たちの闘い 増補版』（東洋経済新報社、2014年）

若田部昌澄『危機の経済政策』（日本評論社、2009年）

Wakatabe, Masazumi, Japan's Great Stagnation and Abenomics: Lesson for the World (PalgraveMacmillan, 2015)

若田部昌澄「歴史—『大自動化問題』論争の教訓」山本勲編著『人工知能と経済』（勁草書房、2019年）、305-338頁

若田部昌澄「金融政策の未来：貨幣経済学の歴史に学ぶ」景気循環学会第38回大会における基調講演、2022年12月3日。https://www.boj.or.jp/about/press/koen_2022/ko221203a.htm

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	0%	小論文と平常点評価を持ってかえる。
レポート Papers	20%	学期末に提出する小論文の質。題材は学生が自由に選択できる。ただし、事前に講師と相談することが望ましい。
平常点評価 Class Participation	80%	出席は必須。無断欠席、遅刻はしないように。日頃の発表、議論への参加度で評価する。
そ の 他 Others	0%	該当なし。

備考・関連URL Note・URL

演習を希望する学生には以下のことを望みます。

1. 担当講師について、あらかじめ知識を得ておくこと。例えば、参考文献に挙げている本を読んでもらうと、講師についての理解が深まるでしょう。
2. 英語に苦手意識を持っていないこと。
3. 演習は自習ではなく、共同作業です。講師や他の受講生とコミュニケーションが取れることが大事です。
4. 経済学そのものをしっかりと学ぶこと。ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門をすでに取得していること。また、経済学史と計量系の科目を受講することを強く勧めます。
5. キャリア形成の観点から、レオス・キャピタルワークス寄附講座「社会を学ぶ投資学」の受講を強く勧めます。
6. 知的好奇心を持っていること。
7. 部活その他で演習を優先できない学生は、応募しないこと。
8. 演習は4年生と合同で、2コマ連続で実施します。2コマ出席できない学生は、応募しないこと。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
301	国際政治経済学演習 I (大森佐和)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	大森 佐和
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

国際・国内政策の実証的研究を学ぶゼミ

授業概要 Course Outline

この演習では、国内の政策や国際的な政策に関する実証的な政策研究を学びます。アプローチとしては、公共政策、国際政治経済学の観点を扱う演習です。

トピックとしては、公共政策過程のモデルをいくつか学び、それを実際の政策に応用していくことを目指します。

トピックは、国内、国際、縛られず多岐にわたって検討します。日本や途上国の共有資源管理と管理組合についてマイクロ民主主義や、リベラル国際秩序の危機とグローバル・ガバナンスと国際公共財との関係との関連に着目し、実証研究の学術本や論文を読み、学んでいくゼミです。

○英語の文献も取り扱いますが、私の個人的な経験では英語の上達のための一番の方法は読んで読んで読みまくることです。

そのため、やる気さえあれば、現在の英語力は問いませんのでやる気のある皆さんの参加を希望します。ゼミへの出席は基本です。欠席とみなさないのは事前に連絡があるやむを得ない場合に限られます（就職面接や病欠は考慮されます。）

○毎回発表に当たった学生が文献の要旨発表をする形式でゼミを進めていきます。発表者が討論の質問を考えてきますが、発表の有無にかかわらず文献を読み、質問を考え、積極的に討論に参加することが期待されます。

○フィリピンの農林省の付置研究所の行うプログラムについての政策評価を行っています。その政策評価を行う過程を学ぶため、フィリピンへの学生の視察旅行を企画する予定があります（ただし、先方の受入れの都合があるので確定ではありません）。

○公共政策を選択必修とする必要はありませんが、公共政策の選択必修のクラス（日本語・または英語）の履修を強く推奨します。

○学期の最後に自分の興味のあるトピックについて調べて発表を行ってもらいます。

授業の到達目標 Objectives

- 1) ゼミで読む学術論文（英語・日本語）や学術本を通じて、論文を読み先行研究を学び、理論を学び実証論文を読み解く力をつける。
- 2) 文献要旨について発表する能力を磨くと共に、人の行った発表についても建設的に議論できるようになる。
- 3) 自分の興味のある政策（国際・国内の政策問わない）に関連するトピックを選び、先行研究について調べる力を養う。
- 4) 各種国際機関や官公庁のデータなどを用いて自分の興味のあるテーマについて調べる力を養う。

1) Develop the ability to understand academic papers and academic books (mainly in English and sometimes in Japanese), learn about previous research, learn theories, and interpret empirical studies.

2) Develop the ability to give presentations on the summary of literature and constructively discuss other students' presentations.

3) Select topics related to international and domestic policies that interest you, and develop the ability to research previous studies.

4) Develop the ability to research topics that interest you using data from various international organizations and government agencies.

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

事前学習

- 1) 課題の文献を読み、理解を深める。討論で用いる質問を各自考えておく。
- 2) 発表者は事前に文献要旨の発表についての準備を行い、ディスカッションのための質問を考える。

事後学習

- 1) わからないところは事後に復習をし理解に努める。
- 2) 自分の興味のあるトピックについて発表準備を行う。

Before class learning

- 1) Read the assigned literature and deepen your understanding. Think of questions that can be discussed in classes.
- 2) The presenter should prepare to give a summary presentation of the literature in advance and come up with questions for discussion.

After class learning

- 1) Review any unclear points after class and deepen your understanding.
- 2) Prepare a presentation on a topic that interests you for the term presentation.

授業計画
Course Schedule

第1回： イントロダクション

自己紹介。シラバスに基づき、発表者を決める。成績基準などについて説明し、質疑応答の時間を取る。

第2回： 政策過程モデルについて理論または実証例の文献を読む。

TBA

第3回： 政策過程モデルについて理論または実証例の文献を読む。

TBA

第4回： 政策過程モデルについて理論または実証例の文献を読む。

TBA

第5回： 政策過程モデルについて理論または実証例の文献を読む。

TBA

第6回： 政策過程モデルについて理論または実証例の文献を読む。

TBA

第7回： 政策過程モデルについて理論または実証例の文献を読む。

TBA

第8回： 政策過程モデルについて理論または実証例の文献を読む。

TBA

第9回： 政策過程モデルについて理論または実証例の文献を読む。

TBA

第10回： 政策過程モデルについて理論または実証例の文献を読む。

TBA

第11回： 政策過程モデルについて理論または実証例の文献を読む。

TBA

第12回： 学期末の発表準備の進捗報告

各自発表の進捗の報告

第13回： 学期末の発表

発表（前半）

第14回： 学期末の発表

発表（後半）

教科書
Textbooks

特定の教科書を最初から最後まで読むことはせず、課題の学術書や論文を出します。
No specific textbooks are assigned.

参考文献
Reference Books

TBA

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行いません。
レポート Papers	0%	発表のみです。レポート提出はしません。
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミへの出席、準備、討論への参加、課題文献の発表や討論の質問の質、学期末の発表の準備状況や発表や質などで評価します。5回以上の欠席は大学の規定通り単位を与えませんのでご注意ください（病欠、就活面接などは状況により事情を考慮します）。
その他 Others	0%	平常点、提出物を総合的に勘案します。

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
302	国際政治経済学演習 I (久保慶一)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	久保 慶一
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代世界の武力紛争と紛争後平和構築

授業概要 Course Outline

冷戦終焉後、旧ユーゴやルワンダをはじめ、スラブ・ユーラシア、アフリカ、中東、ラテンアメリカ、アジアなど新興国で起きている武力紛争（内戦）が人道的危機として国際社会の関心を集めている。これを受け、紛争を終結させるための武力介入（人道的介入）、紛争終結後の戦闘員の武装解除と社会復帰（DDR）、紛争中に起きた非人道的行為に関する真相究明と責任者の処罰（移行期正義）、紛争再発を予防するための政治経済機構の再建（紛争後国家建設）など、紛争の終結と再発防止のために国際社会による様々な取り組みが行われている。本演習では、武力紛争はなぜ発生するのか、その終結や再発防止のために国際社会が行う様々な取り組みにはどのような効果があるのか、といった諸問題について考察する。比較政治学では、紛争発生の際の要因や、国際社会による介入・政策の効果について、多くの理論や実証的研究の知見が蓄積されている。演習 I は、卒業論文を執筆するための出発点として、自分が選択したテーマに関する先行研究を各自が渉猟し、その内容に関するプレゼンテーションと質疑応答という形で進めていく。各自の研究テーマに関する基礎的な概念や理論について確認し、各分野の実証的知見を批判的に理解することを目的とする。各自の研究テーマの設定に際しては、地域や方法論に関する制限は特に設けない。多様な地域、方法論に関心を有する学生を歓迎するが、武力紛争・内戦の発生要因や国際社会の取り組みの効果に関する先行研究には、計量的な手法を用いた研究が多数あるので、計量分析手法に関する知識・スキルを有していることが望ましい。

授業の到達目標 Objectives

1. 内戦、紛争後平和構築に関する比較政治学の理論的・実証的な先行研究を批判的に理解する。
2. 演習参加者が卒業論文のテーマを決定し、そのテーマに関する先行研究のリサーチを開始する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション：ゼミの運営方法に関する説明、参加者の自己紹介、各週の発表者の分担の決定などを行います。

第2回～第13回：各自のテーマについての先行研究についてのプレゼン：ゼミ参加者が自分のテーマについての先行研究1～2点の内容を紹介するプレゼンテーションを行い、それに関する質疑応答を行います。先行研究の批判を通じて各自の研究テーマを絞り込んでいくことを目指します。

第14回：まとめ：春学期の議論を総括します。最後に、ゼミ参加者が各自の夏季休暇中の課題について発表します。

教科書
Textbooks

特になし。

参考文献
Reference Books

久保慶一・末近浩太・高橋百合子『比較政治学の考え方』有斐閣、2016年。
 粕谷祐子『比較政治学』ミネルヴァ書房、2014年。
 久米郁男『原因を推論する－政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年。
 加藤淳子・境家史郎・山本健太郎編『政治学の方法』有斐閣、2014年。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミでの発表の内容、ディスカッションにおける発言・議論の内容などをもとに総合的に評価します。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
303	国際政治経済学演習 I (小西秀樹)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	小西 秀樹
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

財政問題の研究

授業概要 Course Outline

本演習では、国や地方自治体が現在直面している財政問題に焦点を当て、問題の本質がどこにあるのか、どのような論争が行われているのか、どのような解決策があるのかといったテーマを、ゼミ生がさまざまな文献や資料を集めながら議論し、自分の意見をロジカルに説明できるようになることを目的とする

授業の到達目標 Objectives

ネットやニュースで話題になっている財政問題について、基礎的な知識を蓄え、議論できるようになることを目的とする

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示します

授業計画 Course Schedule

毎回、報告者を決めて、文献の内容を報告したうえで、学生間で質疑応答を繰り返す

教科書 Textbooks

島澤諭「教養としての財政問題」の各章を手始めにテキストとする予定
<https://www.amazon.co.jp/教養としての財政問題-島澤諭/dp/4863102631>

参考文献 Reference Books

適宜、指定する

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	該当しない
レポート Papers	0%	該当しない
平常点評価 Class Participation	100%	出席状況、与えられた課題やプレゼンテーションへの取り組みで評価する。なお、欠席の場合はかならず事前に連絡すること
その他 Others	0%	該当しない

備考・関連URL Note・URL

ゼミは概ね隔週で対面とオンラインで実施します。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
304	国際政治経済学演習 I (齋藤純一)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	齋藤 純一
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

近現代の政治理論

授業概要 Course Outline

このゼミでは、自由、平等、公共性、デモクラシー、社会保障、社会統合など近現代の政治理論の主要なテーマを取り上げてきました。

ゼミでは、主に政治理論・政治思想史の重要な文献を取り上げ、その理解をはかるとともに、提起された論点について議論します。

この数年間に読んだ文献は、D. チャンドラー『自由と平等』、P. ロザンヴァロン『良き統治』、J. C. トロント『ケアリング・デモクラシー』、J. シュクラ『不正義とは何か』などです。

また、メンバーによる個人研究報告の機会を設けます。個人研究報告は問題関心の共有をはかるとともに、演習論文執筆の準備として行われます。

*今年度が最後のゼミ募集になります。

授業の到達目標 Objectives

政治理論・政治思想史のテキストを理解し、議論を整理して考え、理由(論拠)を明確に挙げて自分の考えを伝える力を涵養することがこのゼミの目標です。そのうえで、現代の政治社会の制度や規範を評価し、その問題や改善の方向について自分の意見を形成できるよう指導します。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

あらかじめテキストを読み、各自内容の理解をはかるとともに、疑問点などを特定しておいてください。報告者や討論者としての役割を求められることもあります。準備時間は約2時間です。

授業計画 Course Schedule

2027年度春学期は、ジョン・ロールズの『正義論』を精読することを考えていますが、受講者と相談してテキストを決めます。

教科書 Textbooks

・ジョン・ロールズ(川本隆史・福間聡・神島裕子訳)『正義論 改訂版』紀伊國屋書店、2010年。

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポ ² ート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	出席、報告、討論、研究発表、毎回の議論への参加・貢献等を総合的に評価します。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
305	国際政治経済学演習 I (清水和巳)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	清水 和巳
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

人間と社会の政治経済学

授業概要 Course Outline

「不思議なものは多い。しかし人間ほど不思議なものはない」(ソフォクレス『アンチゴーネ』)
古代から現代に至るまで、人間はあらゆる学問分野で最大の謎であり続けてきた。社会科学はとりわけ人間と社会の関係に興味をもってきた。スミスは人間が利己的に行動しているにもかかわらず社会が破綻しないことを、ヴェーバーは資本主義という特殊な社会経済制度を支える人間が西欧という地域で生じたことを、マルクスは人間が作り出した社会が逆に人間を疎外していくことを不思議に思い、それぞれの謎に彼らなりの解答を用意した。とはいえ、こういう偉大な先達がとりくんだ大問題だけが謎なのではない。たとえば、海外旅行をしたときにあるレストランで食事をしたとしよう。「ここで食事することはおそらくもう二度とない」とわかっている、われわれはチップを払う。実はこれも(ある観点からすると)人間と社会に関する謎なのだ。

本演習の目的は、人間の意思決定・行動、その結果として生じる社会制度に関する謎を自分でみつけ、そこに社会科学的に切り込む方法を学ぶことにある。その際、「自分」にとっては謎だが、他人にはなぜそれが解くべき謎なのか理解できない、「自分」はその謎に答えたつもりだが他人は納得しない、こういう事態は避けたい。したがって、演習参加者は少なくとも以下の3点に関して自問自答してほしい。

- なぜ(どのような立場からすると)その問題を「謎」ととらえることができるのか?
- もし、その問題が本当に「謎」であるなら、それにどのように応答することが社会科学的と言えるのか?
- そもそも、社会科学的に思考するとはどういうことなのか?

授業の到達目標 Objectives

演習参加者は、自分の問題設定、問題の検討方法を他の参加者に理解させ、納得させるために必要な技術や方法を身につける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：春休みの課題(Rによる計量分析講評) I
- 第3回：個別発表 1
- 第4回：個別発表 2
- 第5回：個別発表 3
- 第6回：基礎的知識の学習 1：グループ発表
- 第7回：基礎的知識の学習 2：グループ発表
- 第8回：基礎的知識の学習 3：グループ発表
- 第9～14回：各人の興味対象に応じて、既存の研究をグループで発表
- 14回目以降は夏合宿での卒論計画発表をふまえて、各人に報告を割り当てる。

教科書
Textbooks

特になし。事前に、文献リスト、課題となる論文等を配布する。

参考文献
Reference Books

第一回目のゼミナールにおいて参考文献リストを配布するが、制度の経済学、ゲーム理論、科学方法論などの分野を重点的に読んでいく。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	発表・レポートの出来・不出来に応じる。
平常点評価 Class Participation	50%	ゼミの時間中の議論の組み立て方に応じる。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

学生に対する要望：

- (1) 質問がある場合、次のアドレス宛てにメールで問い合わせること：skazumi1961@gmail.com。
- (2) 担当教員の「比較経済制度分析」を受講済みであること、加えて、ミクロ経済学、ゲーム理論、統計学、科学哲学に関する基本的な知識があることが望ましい。まだ「比較経済制度分析」を受講していない場合は、来年度受講することを強く勧める。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
306	国際政治経済学演習 I (高橋百合子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	高橋 百合子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

グローバルサウスの比較政治経済学

Comparative Political Economy of the Global South

授業概要 Course Outline

本演習は、グローバルサウスと呼ばれる新興国・途上国を対象に、比較政治経済学の主要テーマについて実証分析を行うことを目的とする。グローバルサウス諸国の政治経済現象に強い関心を持ち、実証分析のスキルを身につけたい意欲的な学生を歓迎する。

近年、世界の政治・経済は大きな変革期にある。第二次世界大戦後、世界をリードしてきた欧米諸国では、移民排斥を掲げるポピュリスト政治家・政治の台頭とともに政治的分極化が進みつつあり、こうした国内の政治的変化とも連動して、世界における相対的影響力が低下しつつある。一方、アジア・アフリカ、ラテンアメリカ地域に位置するグローバルサウス諸国は、政治的・経済的な不安定要素を抱えつつも、経済発展、格差是正、貧困削減、金融包摂の面で好実績を上げる国が現れ、国際的な影響力を高めていく。

比較政治経済学では、こうしたグローバルサウスに特徴的な現象（経済発展、インフォーマル経済や格差・貧困の蔓延といった社会経済的問題、クライアンテリズム・選挙不正・汚職といった政治的課題、麻薬取引と暴力的犯罪の蔓延、増加する移民・難民問題等）について、実証分析が盛んに行われてきた。近年は、因果推論やデータサイエンスに基づく新たな手法を用いたアプローチが主流になりつつある。

グローバルサウスでは、何故こうした現象が頻繁に起こるのか。その帰結は何か。問題解決に向けた政策的含意は何か。本演習では、こうした一連の問いに実証的に取り組む力を養う。ゼミ生は、比較政治経済学の基本概念・理論と主要なリサーチ・メソッドを学んだ上で、各自の関心テーマについて実際にデータを用いた分析を行う。担当教員は米州地域を専門とするが、アジア・アフリカなど他地域に関心のある学生も歓迎する。

卒業論文の執筆に向けて、ゼミ生には、ラテンアメリカ、アジア、アフリカの国・地域の事例に焦点を当てながら、①「良い」リサーチ・クエスチョンを見つけ、②妥当な仮説を導き出し、③オリジナルのデータを収集し、④手堅い実証分析を行うことが期待される。単なる理論学習にとどまらず、現実の問題を分析する視角を養うことを重視し、課外学習や実務家による招聘講演を通じて、ゼミで学んだ知見を現実の問題理解や政策的課題の解決にどう活かせるかについても考察する。国際機関・政府機関・NGO等でのキャリアはもちろん、大学院に進学し研究者としてグローバルサウス研究を続けることを志す学生にとっても、実践的な分析力を培う機会となる。また、2025年度より、慶應義塾大学法学部・舩方周一郎先生担当のゼミと合同ゼミを開催し、他大学との研究交流を通じて視野を広げることも目指している。

This seminar focuses on emerging and developing countries commonly referred to as the "Global South," with the aim of conducting empirical analysis on major themes in comparative political economy. It is intended for highly motivated students with a strong interest in the political and economic dynamics of the Global South who wish to develop empirical research skills.

In recent years, global politics and economics have entered a period of major transformation. In Western countries that led the world after World War II, political polarization has intensified alongside the rise of populist politicians and movements advocating anti-immigration policies. This domestic political shift has coincided with a relative decline in these countries' global influence. Meanwhile, Global South countries in Asia, Africa, and Latin America—despite facing political and economic instability—have increasingly achieved strong outcomes in economic development, inequality reduction, poverty alleviation, and financial inclusion, thereby expanding their international

influence.

Comparative political economy has extensively examined phenomena characteristic of the Global South, including economic development; socioeconomic issues such as the informal economy, inequality, and poverty; political challenges such as clientelism, electoral fraud, and corruption; the prevalence of drug trafficking and violent crime; and the growing scale of migration and refugee movements. In recent years, approaches employing causal inference and data science methods have become increasingly prominent in this research.

Why do these phenomena occur so frequently in the Global South? What are their consequences? What are the policy implications for addressing them? This seminar is designed to develop students' capacity to address these questions empirically. Students will first learn the fundamental concepts, theories, and key research methods of comparative political economy, and will then apply this knowledge to conduct original analysis on topics of their own interest. While the instructor specializes in the Americas, students interested in other regions, including Asia and Africa, are also welcome.

In preparing their graduation theses, students are expected to focus on cases from countries or regions in Latin America, Asia, and Africa, and to (1) identify a strong research question, (2) develop a plausible hypothesis, (3) collect original data, and (4) conduct rigorous empirical analysis. Beyond theoretical learning, the seminar places strong emphasis on cultivating an analytical perspective for understanding real-world problems. Through field visits and guest lectures by practitioners, students will also consider how the knowledge and skills gained in this seminar can be applied to understanding real-world issues and addressing policy challenges. The seminar offers practical analytical training valuable not only for students pursuing careers in international organizations, government agencies, and NGOs, but also for those aspiring to continue their research on the Global South at the graduate level. Starting in the 2025 academic year, this seminar also holds joint sessions with the seminar led by Professor Shuichiro Masukata of the Faculty of Law, Keio University, with the aim of broadening students' perspectives through academic exchange with students from another university.

授業の到達目標 Objectives

本演習は、次の3点を到達目標としている。

1. 課題文献の輪読とゼミでの議論を通して、比較政治経済学における主要な議論とリサーチ・メソッドに習熟すること。
2. ゼミ生同士で活発な意見交換を行い、ディベートとプレゼンテーションのスキルに磨きをかけること。
3. 卒業論文の執筆を通して、現実社会における政治経済問題について専門知識にもとづく分析を行う能力を身に着けること。

The goal of this seminar is three-fold.

1. Through doing reading assignments and participating in discussion, students will get familiar with the major literature and research methods of comparative political economy.
2. Active interactions among seminar participants will help improve the debate and presentation skills.
3. An exercise of writing a thesis will make students well prepared to be a professional analyst engaging with political economic problems in the real world.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミ生は、基礎レベルの計量分析について既に学習済みであることが望まれる。①選択必修科目の「比較政治学」、②「計量分析（政治）」もしくは「計量経済学1・2」を履修済みであることが望ましい。ゼミ開始時点で未履修の場合は、3年次に履修することを推奨する。ゼミでも適宜、補足的な説明を行う。また、3年次には「グローバルサウスの比較政治」の履修を強く薦める。

Students are expected to have taken courses on comparative politics and intermediate quantitative methods before attending this seminar.

授業計画
Course Schedule

<国際政治経済学演習I/Advanced Seminar (International Political Economy) I>

*教科書 (Baker 2021) 等を中心に、新興国・途上国の比較政治経済学についての主要なテーマについて、基礎的な知識を身につける。

* 実際にデータを使って、新興国・途上国が直面する政治経済問題について、分析してみる。

* We will read through the textbook (e. g., Baker 2021) and get familiar to key issues in the field of comparative political economy.

* We will also try to analyze data on political-economic issues facing emerging and developing countries.

教科書
Textbooks

Baker, Andy. 2021. Shaping the Developing World: the West, the South, and the Natural World. 2nd edition. CQ Press/Sage Publications.

Barakso, Maryann, Daniel M. Sabet, and Prian Schaffner. 2014. Understanding Political Science Research Methods: The Challenge of Inference. New York: Routledge.

恒川恵市『新興国は世界を変えるのか 29か国の経済・民主化・軍事行動』中公新書、2023年。

Michael A. Bailey. 2021. Real Stats: Using Econometrics for Political Science and Public Policy, second edition. New York: Oxford University Press/マイケル・ベイリー (加藤言人・西川賢訳)『社会科学のための統計分析入門<上・下> リサーチにすぐ使える統計テクニック [原書第2版]』勁草書房、2026年。

Elena Llaudet and Kosuke Imai. 2023. Data Analysis for Social Science: A Friendly and Practical Introduction. Princeton: Princeton University Press/エレナ=ローデ・今井耕介 (原田勝孝訳)『新・社会科学のためのデータ分析入門 導入編』岩波書店、2025年。

参考文献
Reference Books

適宜、指定する。
TBA.

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	課題、議論への参加・貢献、プレゼンテーションにもとづき総合的に評価を行う。 Evaluation will be made based on students' performances in essays, contribution to class discussion, and presentation.
その他 Others	%	

1. 本ゼミは、EDPの学生にも公開となる。ゼミは基本的に日本語で実施するが、受講生の希望に応じて、英語でのプレゼンテーションやディスカッションのトレーニングも組み入れる。
2. 演習Iの開講前に、①選択必修科目の「比較政治学」、②「計量分析（政治）」の履修を推奨します。2026年度秋学期の履修が難しい場合は、2027年度に履修してください。演習では、これらの授業で扱う内容を扱う機会があります。未履修者が多数の場合は、適宜、補足的な説明を行います。また、3年次には「グローバルサウスの比較政治」の履修を強く薦めます。
3. 課題文献は、基本的に、英語となります。
4. 卒業論文では、定量的な実証分析を行ってもらいます。
5. ゼミではR/RStudioを使用して、データ分析の練習も行う予定です。

Students are expected to conduct quantitative analysis for their graduation thesis. You should have mastered basic statistics.

We will use R/RStudio for data analysis exercises.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
307	国際政治経済学演習 I (多湖淳)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	多湖 淳
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

戦争と平和の科学を楽しく学ぶゼミ

授業概要 Course Outline

国際政治学 (Scientific IR, Conflict and Cooperation) のゼミです。

- ・楽しく学ぶが大原則。高みを目指そう。
- ・アウトプットは英語で専門学術誌 (ジャーナル) に投稿して問題ないレベルを目指しましょう。

授業の到達目標 Objectives

- ・目標は、社会科学の総合力を身につける。
問題発見、問題設定力まずは先行研究を読み、つなげる、そして仮説をつくる。
データ入手・精製能力データこそ命 (実験、テキスト、Large N、ケース比較)。
データ分析・報告能力RStudioとRMarkdownの力、データの検定・検証能力。
コミュニケーション力データを面白く話す力、英語力 (TED)、相手と対話する力。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

特になし

授業計画 Course Schedule

通年のゼミの内容は以下の通り。

- ・前期は基礎訓練と問題発見、仮説作り (面白い問い、理論と仮説)、データ入手
- ・後期はデータ精製と分析、論文執筆

論文はできればRMarkdownを用いてPDFの形で作成

タイプライターとしての「ワード」もいいけども、アウトプットはPDFで。

※これは3年、4年共通で、4年生は3年生よりも素敵な研究をして、報告する。

【訓練内容 (方法部分)】

- ・メソッド: 分析道具がないと始まらない!

※方法論の概観 (因果、実験、回帰分析、ゲーム)

伊藤公一朗 (2017) 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』 光文社。

山岸俊男 (2008) 『日本の「安心」はなぜ、消えたのか』 集英社。

※クアルトリクス (実験プラットフォーム): 高等研のSongさんの教材も配布

<https://wasedapse.aul.qualtrics.com/>

※テキスト分析 (記述と関係の見える化): 高等研のWatanabeさんの教材

http://docs.quanteda.io/articles/pkgdown/examples/quickstart_ja.html

※RStudio (テキスト分析、回帰分析、実験データの仮説検証):

日本社会心理学会の方法論セミナー資料 (まずはこれ!)

https://kazutan.github.io/JSSP2018_spring/index.html

Wonderful RのRの基礎、RStudioについてのテキスト

<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320112414>

Wonderful RのRMarkdownのテキスト

<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320112438>

【訓練内容（国際政治をめぐる先行研究）】

・サブスタンス：科学的なIRを理解するための材料を読んでいます。

多湖淳（2011）「国際政治学における計量分析」『オペレーションズ・リサーチ』56(4)、215-220ページ。

多湖淳（2017）「拒否権行使と驚き」『政治分析方法のフロンティア（年報政治学）』2017-II、13-35ページ。

鈴木基史・岡田章編（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。

山影進（2012）『国際関係論講義』東京大学出版会。

ジャーナルは以下を参考に。APSR、AJPS、JOP、BJPS、IO、ISQ、IS、JCR、JPR、CMPS、II、AFS Google Scholar
で効率的に先行研究を見つけて読んでいく

★スケジュール・重要事項

多湖ゼミSlackで連絡をします。プレゼミから変わらない時間帯のコアタイム制です。

Slackの招待を多湖（tago@waseda.jp）から得てください。

ゼミのコアタイムは毎週水曜日の夕方になります（17:00-18:40）。

教科書
Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	60%	期末のプレゼンテーションをレポートとして評価する。
平常点評価 Class Participation	40%	ゼミへの参加の度合い（欠席がやむをえない場合、あらかじめメールで断りをいれるべきであり、無断欠席は2回でアウトカウントする）。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

本授業は、割り当てられた教室で開催します。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
308	国際政治経済学演習 I (唐亮)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	唐 亮
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代中国の政治経済と外交戦略

授業概要 Course Outline

1980年代以降、中国は改革開放路線の推進によって急速かつ持続的な発展を遂げ、世界第2の経済大国として浮上してきた。他方、キャッチアップ型近代化を実現していくには、内外の課題が多い。演習では、1) 中国モデルは欧米モデルと比べればどんな特徴を持つか、2) 産業の構造的な転換や貧富格差の克服に取り組んでいるか、3) エリートの選抜と権力競争は民主主義政治とはどこがどう違うか、4) 国民の政治意識と政治参加はどうなっているか、5) どんな立場で欧米主導の国際秩序に臨んでいるか、6) いかなる戦略でアメリカ主導の対中包囲網を克服しようとするか、7) 台湾統一戦略のポイントはどこにあるか等々をトピックとして取り上げ、中国の「実像」と「将来像」に迫る。

授業の到達目標 Objectives

現代中国の内政外交に関する幅広い基礎知識を有するほか、多文化の視点、複眼的な分析能力を身に付け、自主的な研究課題について豊かな構想力をもつことは理想である。また、学生の主体的参加と討論によってプレゼンテーションの能力を高める。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

春学期は教科書を毎週1章のペースで輪読するほか、ゼミ論の構想発表を行う。秋学期は引き続き教科書を毎週1章のペースで輪読するほか、ゼミ論の中間発表を行う

教科書 Textbooks

家近亮子ら編著『新版5分野から読み解く現代中国―歴史政治経済社会外交―』晃洋書房、2016年
唐亮『現代中国の政治』岩波新書、2012年
毛里和子『新版現代中国政治』第3版、名古屋大学出版会、2011年
毛里和子『日中関係―戦後から新時代へ』岩波書店、2006年
国分良成編著『中国は いま』岩波新書、2011年。
丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013
丸川知雄『チャイニーズ・ドリーム』ちくま新書、2013
中兼和津次『経済発展と体制移行』名古屋大学出版会
中兼和津次『開発経済学と現代中国』名古屋大学出版会、2012年
園田茂人『不平等国家 中国』中公新書、二〇〇八年。
木間正道ら編著『当代中国法入門』第五版、有斐閣、二〇〇九年
岩崎育夫『アジア政治を見る目』中公新書、2001年
武田康裕『民主化の比較政治―東アジア諸国の体制変動過程』ミネルヴァ書房、2001年

参考文献
Reference Books

随時指定する

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	実施しない
レポート Papers	70%	着眼点、先行研究の整理、論点を裏付けるデータ・根拠の提示、書式を重視する。
平常点評価 Class Participation	30%	出席・報告内容・議論への貢献度を重視する。
その他 Others	0%	なし

備考・関連URL
Note・URL

夏休みに自主参加の形で中国国内の大学などとの共同セミナー、庶民生活の体験および社会観察などの自主参加プログラムを実施する

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
309	国際政治経済学演習 I (遠矢浩規)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	遠矢 浩規
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

国際政治経済の理論と分析

授業概要 Course Outline

(1) 遠矢ゼミは、国際政治経済学 (IPE) の理論や概念を学び、それらを活用して多様な国際問題を自ら理解・分析する力を養うことを目指すゼミです。「国際政治経済学」を広義に捉え、国際政治学 (国際関係論) や国際経済学も学習の範囲に含めています。

(2) 扱うテーマは主に、「国際貿易」「国際金融・通貨」「海外直接投資」における、国際政治と国際経済の相互作用です。たとえば、ドルが基軸通貨であることでアメリカが国際関係において得るパワーとは何かといった論点や、半導体のグローバル・サプライチェーンにおいて台湾からの対米投資が増大することはどのようなパワー・シフトをもたらすのかといった論点を議論します。

(3) 上記(2)のようなテーマを自ら考察できるようになることを目指して、ゼミでは多様な理論や概念を学びます。たとえば、

- ・経済的相互依存の諸理論 (複合的相互依存、貿易期待理論、通商国家論、武器化する相互依存)
- ・国際貿易の諸理論 (比較優位、ヘクシャー・オリー・モデル)
- ・多国籍企業の諸理論 (プロダクト・サイクル論、メリッツ・モデル)
- ・オープン・エコノミー・ポリティックス (OEP)、統合論、国際レジーム、グローバル・ガバナンス、地球公共財、ロゴウスキーの逆第二イメージ論
- ・構造的権力、ソフト・パワー
- ・覇権安定論、パワー移行論、リベラル国際秩序 (LIO)
- ・ECLA構造主義、従属論、世界システム論
- ・ドルの「法外な特権」、流動性のジレンマ、国際金融のトリレンマ……など

(4) 春学期・秋学期の両学期とも、事前学習を前提とした「反転授業」の形式で行います (詳細は下記「授業計画」(A) 参照)。ゼミでは、教員が一方的に「教える」ことよりも、ゼミ生自身が「リサーチし」「考え」「議論する」ことを重視しています。一方で、各期に3～4回程度、教員によるレクチャーを中心に行う回もあります。この回では、最新の理論動向やリサーチ方法を学びます。この場合も、議論をしながら進めます。

(5) 夏休みにはゼミ合宿を実施します (詳細は下記「授業計画」(B) 参照)。これは正規の授業の一環として行うため、原則として全員参加です。欠席した場合は減点のうえ、別途課題が課されます。

(6) 4年生は3年生のゼミに参加してもらいます。グループ・ディスカッションにおいて3年生をリードするチューター的な役割が期待されています。

(7) 4年生向けの卒論指導は、通常のゼミとは別に個別で行います (詳細は下記「授業計画」(C) 参照)。

(8) プレ演習 (2年冬クォーター) は、通常ゼミと合同で実施します。回数は2～3回程度を予定しています。

授業の到達目標 Objectives

- ①国際政治経済学（国際政治学、国際経済学を含む）の理論・モデル・概念を使って国際問題を分析する能力を習得すること。
- ②上記①の分析に基づいてプレゼンテーションやディスカッションを行うスキルを習得すること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

下記「授業計画」を参照してください。

授業計画 Course Schedule

（A） 春学期・秋学期の通常ゼミの実施方法

①事前学習

・事前に、指定されたコンテンツ（オンデマンド動画、学術誌論文、専門書の章など）を学習します。そのうえで、与えられた課題（理論を当てはめて具体的事例を解釈するなど）について各自でリサーチを行い、コメントペーパー（A4 1～2枚程度）を作成・提出してもらいます。

・事前学習用のコンテンツ（動画URL、論文PDFなど）と課題は、ゼミのDiscord（場合によりSlackも使用、以下同）で事前に提示・共有されます。コメントペーパーもDiscordに提出してもらい、全員で共有します。ゼミの日常的な連絡や情報交換は、DiscordおよびLINEグループで行います。

②ゼミ当日（反転授業）

・授業は教室で対面で行いますが、同時に全員がZoomを利用します。

・あらかじめ決められた報告者（2名）が、当日のテーマとなっている理論・概念について、事前学習したコンテンツとは異なる内容や視点でプレゼンを行います（つまり、事前学習内容の単なる要約はプレゼンの目的ではありません）。※プレゼン資料はZoomで画面共有し、ハードコピーの配布は不要です。ゼミ終了後には、資料をDiscordにアップロードして全員で共有します。

・事前に提示された課題やプレゼンで挙げられた論点について、数名ずつのグループ・ディスカッションを行い、内容を深く掘り下げます（班分けは当日発表されます）。各グループでは、司会・書記・総括報告者を決めてもらいます。ゼミの時間の大半は、グループ・ディスカッションに充てられます。

・グループ・ディスカッション終了後、2つのグループで総括報告セッションを行い内容を共有します。総括セッションに続けて、適宜、教員（遠矢）による解説や、全体でのディスカッションを行います。

・グループ・ディスカッションと総括報告セッションを除く当日のゼミの様子は、Zoomで録画します。ディスカッションの内容については、班ごとに議事録を作成してもらいます。

・春学期・秋学期とも、教員（遠矢）が数回のレクチャーを行います。レクチャーでは、事前学習コンテンツ（動画、論文、専門書）で扱いきれない、より専門的な内容や最新の研究動向、リサーチの方法などを解説します。レクチャー回でも議論を交えながら進行し、場合によっては後半にグループ・ディスカッションを行うこともあります。

③事後の作業・学習

・ゼミの録画は、終了直後にYouTubeで限定公開され、DiscordでURLを共有します。欠席者は録画を視聴し、内容をキャッチアップすることが求められます。出席者も、理解を深めるための復習に利用できます。各班の議事録もDiscordにアップロードし、全員で共有します。

（B） ゼミ合宿（夏休み）

・合宿では共通テーマを設定し、事前に指定した論文を複数本読み、課題に取り組み、プレゼンの準備を行います。当日はグループに分かれてプレゼンとグループ・ディスカッションを行い、最後に全体討論で結論をまとめます。グループのメンバーはセッションごとに入れ替わります。

・過去の合宿テーマは、2025年度「グローバリゼーション再考」、2024年度「地球温暖化問題における国際協力」でした。いずれの年度も、事前に6本の学術論文を読んでもらいました。2026年度合宿（9月予定）のテーマは、このシラバスの作成時点で未定です。

(C) 卒論

・政経学部では制度上、いわゆる「卒論」は卒業要件ではありません。しかし、教員（遠矢）は卒論制作を強く推奨しています。

・卒論指導は、原則として個別コンサル形式で行います。対面・Zoom・LINEグループ・メールなどを用い、テーマ決定の相談からリサーチ途中の助言、ドラフトへのコメントまで、必要に応じて対応します。対面の場合は、主に4年生の時間割上のゼミ時限を利用しますが、時間や場所は柔軟に調整可能です。

・卒論のテーマは自由です。「国際政治経済」に関連する内容が望ましいものの、政治・経済・国際関係の分野でなくても構いません。自分が本気で取り組みたい、解明したいと思えるテーマであれば歓迎します。教員（遠矢）は、ゼミ生が「もっとも熱中し」「ワクワクできる」題材を徹底的に研究することを期待しています。

・卒論の形態については、複数人による共同制作なども含め、柔軟に認めています。

・ゼミ（「演習」）の成績評価は卒論とはリンクしていません。ゼミにおける出席・発表・課題・議論への参加などのパフォーマンスのみで評価されます。卒論の評価は、「演習論文」の単位内で別途行われます。

教科書 Textbooks

教科書はありませんが、毎回、指定されたコンテンツ（オンデマンド動画、論文、専門書等）を学習し、与えられた課題についてコメント・ペーパーを事前に作成・提出することが求められます。

【参考】実際に出された「課題」は例えば次のようなものです。

（例1）

2つの動画（「多国籍企業をめぐる国際政治経済学の諸視点」ほか）で学んだように、多国籍企業（MNC）と国家の関係には様々なパターンがあります。

たとえば、本国は先進国か途上国か、ホスト国は先進国か途上国か、FDIの目的は垂直的統合か水平的統合か資源へのアクセスか、FDIの方法はグリーン・フィールド投資かM&A投資か、といった違いから複数の組み合わせが考えられます。そして、それらの中から特定の組み合わせを前提として、MNCの功罪（国家への好影響・悪影響）を論じる様々な理論やモデルがこれまで提起されてきました。また、時代とともに主要な組み合わせパターンが変わったため、理論やモデルの有効性も時代とともに変わったと考えられます。

では、現代におけるMNCと国家の関係を考える場合、どのようなパターンを前提として、MNCのどのような影響について考えることが重要でしょうか。

- ・なるべく具体的に国・地域、企業・産業を挙げて問題提起してください。
- ・次のような視点が考えられます。
- ・政治的影響（規制回避、ロビー活動など）
- ・経済的影響（雇用、産業育成、技術流出など）
- ・社会・環境的影響（労働条件、環境破壊、CSRなど）
- ・長期的 vs 短期的影響

（例2）

ディスカッション・トピック：「ドルは基軸通貨であり続けるか？」

ドルが基軸通貨であり続けるには、アメリカが経常赤字を出し続け、世界にドルを供給しなければなりません。しかし、トランプ大統領は保護主義的な政策により、赤字を縮小しようとしています。これはドルの供給を制限し、基軸通貨としての土台を揺るがしかねませんが、同時にドルの信認を守ることにもつながる（かもしれない）というパラドックス（流動性のジレンマとは逆方向のジレンマ）をはらんでいます。

また、各国がドルの「法外な特権」を甘受してきた背景には、世界の安全保障やリベラル国際秩序（LIO）におけるアメリカの「公共財の供給者」としての役割への期待がありました。しかし、トランプ政権のMAGA的外交姿勢はこの期待を裏切りつつあり、一部の国では、外貨準備の多様化やドル建て資産の売却といった「脱ドル化」の動きも見られます。

こうした状況を踏まえて、以下の仮想シナリオの中から、最も現実的と思うものを1つ選び、なぜそのシナリオが最も現実的だと考えるのかを説明してください（必要に応じて、新しい第4のシナリオを提案しても構いません）。また、シナリオの中で第2期トランプ政権が果たす可能性のある影響についても触れてください。

1. ドル支配継続シナリオ
2. 多極化シナリオ（人民元・ユーロ・円など）
3. ドル凋落シナリオ

参考文献
Reference Books

毎回扱う理論・モデル・概念が異なるため、必要に応じて、その都度、紹介します。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	・成績評価は次の手順で行います。 ①デフォルトの評価はAです。マイナス査定、プラス査定を順に行い、プラマイ 0 か、わずかにプラス程度なら評価はAのままとします。トータルでマイナスならB、トータルで大きくプラスならAプラスとします。 ②マイナス査定（その1）：欠席は2回まで無減点とします。3回以上の欠席は回数に応じて減点され、無断欠席の場合は減点が倍になります。 ③マイナス査定（その2）：コメントペーパー提出回数が定められた回数に満たない場合は、減点します。 ④マイナス査定（その3）：重大なミス（プレゼンし忘れなど）は減点します。 ⑤プラス査定（その1）：プレゼンは以下の3段階で評価されます。 (a) 教員（遠矢）が授業で使いたくなるほど興味深い内容 → 加点 (b) (a)ほどではないが十分にリサーチされている → 総合評価の際、ボーダー上なら加点要素 (c) (b)にも及ばない → マイナス査定には使用されません ⑥プラス査定（その2）：コメントペーパーは次の3段階で評価されます。 (a) 非常に努力している → トータルで(a)の評価のペーパーが多い者に加点 (b) 普通 → トータルで(b)が多く、かつ定められた回数より多く提出した者は、ボーダー上なら加点要素 (c) 努力不足 → 原則不問。ただし程度によってはマイナス査定の対象となる可能性あり（なんでもいいから出せばいい、では困るので）。 ⑦プラス査定（その3）：グループ・ディスカッションにおける相互評価で高評価を得た上位者（3年生・4年生それぞれ数名ずつ）に加点します。※学期末に全員が相互評価票を提出します。 ⑧グループ・ディスカッションで司会・書記・総括報告者を担当した回数の合計が非常に多い者は、総合判断の際、ボーダーライン上であれば加点要素となります。

備考・関連URL
Note・URL

下記URLの遠矢ゼミ募集案内を必ず事前に参照してください。パソコン専用（スマホではレイアウトが最適化されません）。

<https://hirokitohya.wixsite.com/tohya/seminar-1>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
310	国際政治経済学演習 I (戸堂康之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	戸堂 康之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

開発経済・国際貿易・日本経済に関するデータ分析

授業概要 Course Outline

この演習では、国際経済学、開発経済学、計量経済学を主たるツールとして、日本・新興国・開発途上国における経済発展や経済の強靱性について学び、研究する。定量的な実証的研究に重点を置くため、理論的研究、定性的な実証研究を研究したい学生には受講を勧めない。

例えば、以下のようなテーマに興味を持つ学生に最適だと考えられる。

- グローバル・バリューチェーンの拡大は日本企業にどのような影響があるか
- 日本の産業政策は企業の成長にどのような効果があるのか
- 途上国における農村や零細企業の発展はどのようにして達成できるか
- 開発援助は途上国の人々の生活向上に効果があるのか

この演習は以下のようなスケジュールで進む。

I (3年春学期): データ分析手法の学習・演習

II (3年秋学期): データ分析に関する英語論文講読・同様の手法を使った演習

III・IV (4年): 卒論のテーマを決め、関連する既存研究を発表し、データを収集して分析する。いくつかのインゼミで発表した後、卒論を作成する。

3年次の年度末および卒業時には論文の提出を義務付け、最終的には質の高い卒業論文を書くことが最大の目標である。

詳細については、添付のPDFファイルを参照のこと。

授業の到達目標 Objectives

以上のような演習を通して、開発途上国・新興国・日本の経済発展に関する知識を高めるばかりでなく、

- (1) アイデアを創出する能力
- (2) 情報・データを収集する能力
- (3) データを基にして論理的な分析を行う能力
- (4) 分析結果を文章や口頭発表によって効果的に人に伝える能力
- (5) 英語力
- (6) リーダーシップ

を養成することがこの演習の目標である。

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画
Course Schedule

計量経済学、ネットワーク分析、GIS（地理情報システム）分析などのデータ分析手法を学習し、演習によって身につける。

教科書
Textbooks

適宜指示する。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	自身の発表、論文および他人の発表に対する質問・コメントを評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

担当教員のウェブサイト（<https://sites.google.com/view/yastodo>）と添付ファイルをよく読み、担当教員の研究内容、およびゼミ運営の方針を理解しておくこと。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
311	国際政治経済学演習 I (濱野正樹)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	濱野 正樹
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

国際マクロ経済学

授業概要 Course Outline

本演習では、社会科学全般、特に国際マクロ経済学、国際貿易論、国際金融論等におけるトピックスを様々な角度から実習を通じて学ぶ。前提としてマクロ経済学、国際金融論、国際貿易論等についての授業を履修していることが望ましいが、必須ではない。

授業の到達目標 Objectives

社会科学、経済学一般に関する知識と理解を深め、それぞれ学生諸君が内容を作成したスライドをもとに発表し、積極的に皆が議論できるようになる。また習得した知識をもとに批判的に情報を判断できるようになる。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜指示する。

授業計画 Course Schedule

履修者と相談の上決定する。

教 科 書 Textbooks

国際マクロ経済学
ステファニー・シュミット＝グローエ (著), マーティン・ウリベ (著), マイケル・ウッドフォード (著),
濱野 正樹 (翻訳)
東洋経済新報社

参考文献 Reference Books

TBA

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	レポート内容に関するプレゼンテーションも含む。
平常点評価 Class Participation	50%	出席・平常点
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

<https://sites.google.com/site/masashigehamano/masashige-hamano-lab>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
312	国際政治経済学演習 I (深川由起子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	深川 由起子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代東アジア政治経済研究：変容するグローバリズムと新興国の経済発展

授業概要 Course Outline

2010年代以降、新興国経済は①グローバリゼーションの変容、②技術パラダイムの変化、③開発の持続可能性などの点から、従前の開発モデルからの転換を余儀なくされている。とりわけ、東アジア（本演習では韓国や台湾などのNIEs、中国、ASEAN及びその周辺としてのインドまでを主として扱う）は貿易や直接投資によって急成長をみてきただけに、地政学リスクの高まりや自由貿易の後退など、①の変容から多大な影響を受けている。一方、人口知能（AI）技術の急速な発展・普及によってイノベーション能力の高さが問われるようになり、②は豊富な人材と巨大内需を抱える中国を筆頭に、インドなどいわゆるグローバル・サウスについてもイノベーション主導型の成長実現についての注目を集めるようになった。他方で温暖化など地球環境の変化は資源輸出国の多いグローバル・サウスや、逆に輸入国の多い東アジアそれぞれの交易条件を変化させており、持続的発展が改めて問われている。

本演習は政治と経済が現実に出会う場として、また日本経済が大きな利害を共有する東アジアを取り上げ、貿易と直接投資に依拠した「東アジアモデル」型成長の課題に焦点を当てる。東アジアの経済発展はこれまで、グローバリゼーションと不可分で現実が理論に先行しがちな点も少なくなかった。演習 I ではこれまでの東アジアモデルを理論と実証の接点から見直して基礎知識を得ると共に、分析のツールを身につけ、演習 II の応用分析への土台を準備するものとする。

授業の到達目標 Objectives

東アジアの開発体験をめぐる主要な論点について基礎的、理論的な知識とを深めると共に、与えられた問いに沿って自分の論理を構築できるようにすること。問題意識を持って同時代の諸問題を考えられるようになること。幅広い問題の中から自分が相対的に関心を持つ問題を発見し、社会科学に必要な分析ツール（計量手法や実験）を使って分析できるようになること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回、課される参考文献を読んで当該テーマについて調べ、発表を準備する。

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション（本演習の目的と概要）

プレゼミで学んだことを基礎に、演習の概要と具体的な運営方法を討議します。夏や冬に行われるゼミ合宿の計画も立てます。

第2回：東アジアの経済パフォーマンス：「奇跡」の経済発展と新たな発展モデルの模索

東アジアが今日の経済発展の基礎を築いた1986～1996年がどのように開発経済史に残る「奇跡」だったか、それは何故、可能となったのか考察します。

第3回：「輸入代替工業化」は何故なくならないのか

第2回で学んだ開発戦略の転換は何故、東アジアでのみ、可能となり、ラ米や南アジアとはどこが違うのか、を理論的実証的な議論を整理します。また近年の米国の変化を踏まえ、何故、依然として「関税による産業保護」の思想がなくならないのか、についても議論します。

第4回：グローバリゼーションの変容と「輸出主導型工業化」の持続性

輸入代替型工業化と輸出主導型といわれる体系の違いは何か、東アジアでは何故、輸出主導型に転換し得たのか、政治経済的な背景を分析すると共に世界の自由貿易体制が行き詰まった場合の限界についても議論し

ます。

第5回：直接投資と経済発展

直接投資を誘致するためには何が必要か、また受け入れた外国企業からどのような技術の移転やスピルオーバーが可能となるのか、現実の東アジアの事例を含めて考えます。

第6回：「産業政策」の再検討

工業化を推進する上で政府はどこまで、どのように介入することが望ましく、何がそうではないのか、1980年代から2020年代までを比較検討し、東アジアの事例がどういった議論を提供してきたのか、学びます。さらに2020年代に入って先進国が推進する「産業政策」が新興国に与える影響も論じます。

第7回：経済発展と金融の深化

実体経済と資本蓄積、金融の深化のバランスは何故、持続的発展に重要なのか、そのためにはどういった金融政策が望ましいのか、東アジアにとっては何故、このトピックが重要なのかを中心に学習します。

第8回：金融・資本の自由化

グローバリゼーションの特徴の一つは金融のグローバリゼーションの量的、質的变化です。新興経済はこれにどう付き合うべきか、東アジア通貨危機の要因となった金融・資本自由化のプロセスについて考察します。

第9回：為替管理の自由化と国際収支危機

グローバリゼーションの下では脆弱な新興経済は様々な経済危機に陥りがちです。東アジア通貨危機はその典型であり、流動性をめぐる構造調整を累積債務危機同様に進めたことにはIMFの処方箋をめぐっても多くの批判がありました。この回では金融のグローバリゼーションと新興国危機の原因や処方箋のあり方についてこれまでの議論を整理します。

第10回：グローバル化と社会政策

グローバル化は成長優先で社会政策が乏しく、財政にも金融市場にも限界のある新興国では階層間、民族間、地域間などに大きな格差を生み出しがちです。グローバル化の中で生じる様々な格差の中で社会的求心性をどうすれば維持できるのか、様々な事例を検討します。

第11回：「中進国の罠」

貿易や直接投資自由化の恩恵を享受した東アジアでもNIEsのように産業構造転換や高付加価値化が進まない一部の国では「中進国の罠」が取り沙汰されています。NIEsとそれ以外の東アジアにはどういう違いがあるのか、イノベーションによって「中進国の罠」を振り切ろうとする中国の試みは成功しつつあるのか、技術パラダイムの激しい変化を念頭に議論します。

第12回：新興国のイノベーション

急速に進むデジタル技術は新興国にとってはイノベーションの大きな起爆剤となっており、多くの中進国にとってはイノベーションを加速できるかどうか、先進国入りを左右します。技術の外部性や研究開発体制を検討し、イノベーションの実効性について議論します。

第13回：サプライチェーンの変容と新興国の参加

パンデミックの経験や地政学リスクの浮上、経済安保をめぐる介入や協力（フレンドショアリング）の進展などにより、近年のサプライチェーンは大きく変化しています。新興国がこれに加わり、安定した地位を獲得するために必要なものは何か？通商環境の変化や経済統合の進展を踏まえて議論します。

第14回：

教科書 Textbooks

特になし。授業時に配布の回毎のシラバス、リーディング・リストによる。

参考文献 Reference Books

同上。

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験形式では成績評価は実施しない。
レポート Papers	70%	毎週、課されるレポートの内容評価を平均して算出する
平常点評価 Class Participation	25%	プレゼンテーションや議論の水準、ディスカッションへの参加程度など。
その他 Others	5%	現地視察やゼミの運営、とりまとめへの貢献など。

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

ジャーナリズム・メディア演習 I

2027

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
401	ジャーナリズム・メディア演習 I (田中幹人)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	田 中 幹 人
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

ハイブリッド・メディア時代のメディア研究

授業概要 Course Outline

マスメディアとソーシャルメディアが複雑に絡み合った「ハイブリッド・メディア」の時代になって15年以上が経ちました。近年では生成AIの発達も著しく、誤／偽情報の問題や、知識の意味そのものが問われています。こうしたメディアの変化は、私たちの生活、ひいては社会のあり方に影響を与えています。当ゼミでは、このようなハイブリッドメディアの時代におけるメディアの機能、生成AIのような先端科学技術の社会影響、さらにはそこで求められるジャーナリズム規範についての研究を行っています。

この「ジャーナリズム・メディア研究I」では、研究に必要な、基礎的な方法論の修得を目指します。

より具体的には、1) ゼミ形式で先輩たちの発表を聴きつつ、自身の研究計画を考える 2) ゼミで提供するオンライン講座や、先輩、担当教員による講義などを利用し、自身の研究計画を立てると共に必要な方法論を習得することを目指します。

授業の到達目標 Objectives

- ・個別課題やチーム課題の実施を通じ、研究のうえで求められる基礎的方法論を修得する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

- ・文献の蒐獵と熟読。
- ・課題分析の実施。

授業計画 Course Schedule

第1回：今学期の学習内容について
オリエンテーションを行います。

第2回：内容分析の基礎1
メディア研究手法の基礎である「内容分析」について学びます。

第3回：内容分析の基礎2
メディア研究手法の基礎である「内容分析」について学びます。

第4回：内容分析の基礎3
メディア研究手法の基礎である「内容分析」について学びます。

第5回：質的テキスト分析の基礎1
メディア研究手法の基礎である「質的テキスト分析」について学びます。

第6回：質的テキスト分析の基礎2
メディア研究手法の基礎である「質的テキスト分析」について学びます。

第7回：質的テキスト分析の基礎3
メディア研究手法の基礎である「質的テキスト分析」について学びます。

第8回：量的テキスト分析の基礎1
メディア研究手法の基礎である「量的テキスト分析」について学びます。

第9回：量的テキスト分析の基礎2
メディア研究手法の基礎である「量的テキスト分析」について学びます。

第10回：量的テキスト分析の基礎3

メディア研究手法の基礎である「量的テキスト分析」について学びます。

第11回：チーム課題分析1：内容分析

5名程度のチーム単位に分かれ、指定されたデータについてこれまで学んだことを用いて分析します。

第12回：チーム課題分析2：質的テキスト分析

5名程度のチーム単位に分かれ、指定されたデータについてこれまで学んだことを用いて分析します。

第13回：チーム課題分析3：量的テキスト分析

5名程度のチーム単位に分かれ、指定されたデータについてこれまで学んだことを用いて分析します。

第14回：課題発表プレゼンテーション

チームで分析を行った結果を発表します。

教科書 Textbooks

- ・課題内容に応じて適宜指定します。

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	課題の実施・提出状況に応じて評価します。

備考・関連URL Note・URL

履修者の傾向に応じて、課題内容を変更する可能性があります。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

ジャーナリズム・メディア演習 I

2027

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
402	ジャーナリズム・メディア演習 I (土屋礼子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	土屋 礼子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

近現代史におけるメディアとプロパガンダ、およびジャーナリズム

授業概要 Course Outline

近現代の日本および欧米におけるメディアとジャーナリズムの発達の経緯を理解し、検閲制度をはじめとする政府との関係、政治家や政府機関などとジャーナリズムおよびメディアとの関係、世論を動かすためのプロパガンダという思想がどのように展開してきたかを、実証的に学び議論する。また、実際にメディアやジャーナリズムに関係した人々にインタビュー調査や資料探索を行ない、メディアの歴史や、メディアに対するアプローチのしかた、メディアの分析のしかたに関する知見を深め、年度末には各自が卒論テーマを見いだせるよう研究をすすめる。なお、2027年度は、政治部の記者、ジャーナリストの0Bにインタビュー調査する予定である。

授業の到達目標 Objectives

メディアとジャーナリズムに関する基本的知識を学ぶだけでなく、それを活用し、自分で資料を探索し読み解き、思考する能力を養う。また実際にインタビュー調査を行う力量を育成する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション
第2回～第7回：英語文献講読
第8回～第13回：日本語文献講読
第14回：インタビュー調査の目的及び計画の説明と準備

教科書 Textbooks

初回の授業には、藤竹暁編著『図説 日本のメディア』(NHKブックス、2018年)を読んだ上で、持参すること。
その次からは、開講時に配布する英文テキストを読む。
以降は授業中に指示する。

参考文献
Reference Books

関連文献については、随時紹介する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	二回ほどレポートを指示する。
平常点評価 Class Participation	70%	英語文献及び日本語文献の講読の際に行う報告、発言、議論を評価対象とする。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

基本的に教室での対面講義を行う。積極的な質疑応答、議論を評価します。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

ジャーナリズム・メディア演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
403	ジャーナリズム・メディア演習 I (中村理)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	中村 理
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

内容分析を中心に用いたメディア・メッセージの実証研究（演習I：ヒューマン・コーディング／演習II：コンピュータ・コーディング）

授業概要 Course Outline

本演習は、内容分析という手法を使ってメディアの送り出す情報を実証的に分析することを目標にしています。3年次のこの演習では、そのための技法を習得します。

あなたはメディアを通じて得る情報に疑問を持ったことはないでしょうか。たとえば、原発報道はどういった経緯を経て今にいたっているのか、経済問題に報道は一貫した姿勢で対処してきたのか、CMやドラマにあらわれるジェンダー観は時代とともにどう変わってきたのか、SNSはニュースにどう反応するのか、などです。こうした疑問のもととなる情報（メッセージ）は、日々、新聞やテレビ、インターネット、映画や文芸作品などから大量に発信されています。そこにはどういった特徴や傾向があり、その背後には発信者のどういった情報選択があるのでしょうか。

本演習では、こうしたあなたの興味を分析していきます。分析の主題は政治でもジェンダーでも文化でも構いません。また、対象は報道でも映画でもコマーシャルでもSNSでも構いません。マス・コミュニケーション上あるいはジャーナリズム上の興味をもって、メディアに流れる情報をぜひ実証的に・科学的に分析してみましょう！

そのために、本演習では内容分析という手法を学びます。内容分析とは、単に内容を分析するという抽象的なものを指すものではありません。どういう手順で何をすることが決まっている、ある科学的な分析手法の名称なのです。この内容分析では、メッセージの内容をコード（記号）化して分析します。たとえば、選挙の争点を「経済」や「安保」といったコードに分類したり、登場人物を「政治家」や「専門家」といったコードに分類したり、論調を「ポジティブ」や「ネガティブ」といったコードに分類したり、です。そして、それらコードが何回あらわれるかを数えるなどし、発信される情報を量にして、情報の特徴をとらえていきます。こうすることで、流れる情報を客観的に扱えるようにします。

コード化には主に2つの技法があります。当演習では（1）学部3年次前半（春学期）にヒューマン・コーディングという技法を、（2）後半（秋学期）にコンピュータ・コーディングという技法を学び、4年次に卒業研究に取りくみます。内容分析は、マス・コミュニケーションやジャーナリズム研究によく使われるほか、企業が顧客のクチコミを分析してマーケティングに役立てることに利用されています。この手法を使って、ジャーナリズム、マス・コミュニケーション、あるいはメディア上の課題やあなたの疑問に挑みましょう。あなたの興味とやる気を、ぜひ具体的な形にしてみてください！

この演習では、一つの主題や目標を複数の受講者が共有し、チームで議論をしながら協調的に作業を進める活動を主体にしています。これにより、専門性を深めるだけでなく、チームの中で目標を共有し、困難に面したときに助け合ったり責任を分担したりして解決する経験をつんでみましょう。この経験は、将来、あなたが専門課程で研究を行ったり、職場で同僚と協調的に仕事をしたりする際に必ず役に立ちます。そして、簡単なようでなかなかそうではない実証的な調査・研究というものをぜひ経験してください！これは大学にいればこそできるものです。

授業の到達目標 Objectives

受講者は

- ・実証的な調査の流れ（問題意識～仮説～調査計画～実施～結果の整理～分析～考察～結論）を経験し、その要領を学びます。
- ・メディアの分析法を習得します。（演習Iはヒューマン・コーディング、演習IIはコンピュータ・コーディング）
- ・分析力および科学的に考える力を高めます。
- ・マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、メディア上のなんらかの課題に建設的に言及します。
- ・チーム内でコミュニケーションをとりながら協調的に作業をし、課題を解決します。
- ・以上を通じ、特定の専門知識だけでなく、社会に出た際の汎用的なスキルを身につけます。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

当演習は反転授業を取り入れています。授業後は次の授業に向けた準備を各自がおこない、教室では時間と場所をチームのメンバーと共有するメリットを活かして協調学習やチームワークに取りくみます。たとえば、論文を読む際には事前に読んだり演習問題に取り組んだりし、当日に教室で発表と議論をします。チームワークではその日までの進捗に応じて次までの目標をチームが自ら立て、それをもちよって次の授業をすすめます。

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション

第2回：内容分析とは？ I：研究論文を読む（プレ演習の論文読解の続き）／内容分析のデザインと実践 1a：調査主題を提案する・決める

第3回：手法を学ぶ1：内容分析の歴史／内容分析のデザインと実践 1b（チームワーク）：チームの調査目的と方法を検討する

第4回：内容分析のデザインと実践2（チームワーク）：問いをたてる・対象をきめる・変数とカテゴリを設定する

第5回：手法を学ぶ2：内容分析の設計

第6回：内容分析のデザインと実践3（チームワーク）：テスト・コーディングを始める

第7回：手法を学ぶ3：サンプリング

第8回：内容分析のデザインと実践4（チームワーク）：テスト・コーディングをもとに計画を再検討する

第9回：手法を学ぶ4：ヒューマン・コーディング

第10回：内容分析のデザインと実践 5a（チームワーク）：コーディング・マニュアルを完成させる I.

第11回：内容分析のデザインと実践 5b（チームワーク）：コーディング・マニュアルを完成させる II.

第12回：手法を学ぶ5：信頼性を検定する

第13回：内容分析のデザインと実践6（チームワーク）：コーディング結果を集計するI／コーダへ依頼する

第14回：内容分析のデザインと実践7（チームワーク）：コーディング結果を集計するII／レポートにまとめる

学期末：成果を発表する：レポートの提出と発表（15週目にゼミ発表会）

教科書 Textbooks

必要に応じて授業内で提示。

参考文献 Reference Books

必要に応じて授業内で提示。以下、参考まで：

有馬明恵『内容分析の方法』（ナカニシヤ出版、2007年）

クラウド・クリッペンドルフ『メッセージ分析の技法-「内容分析」への招待』（勁草書房、1989年）

ダニエル・リフ他『内容分析の進め方』（勁草書房、2018年）

樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析』（ナカニシヤ出版、2020第2版）

田崎篤郎・児島和人『マス・コミュニケーション効果研究の展開（改訂版）』（2003、北樹出版）

竹下俊郎『メディアの議題設定機能—マスコミ効果研究における理論と実証（増補版）』（2008、学文社）

佐渡島沙織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』（2008、ひつじ書房）

戸田山和久『最新版 論文の教室』（2022、日本放送出版協会）

評価方法 Evaluation		
	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行いません。レポートを実施しない場合にのみ代替として検討します。
レポート Papers	20%	15--25%。半期ごとにまとめをおこないます。最終的に調査・分析の結果あるいはその進捗状況をレポートおよび発表資料にまとめたうえで発表します。その際の提出物、発表内容、貢献度で評価します。チームでレポートを執筆する場合は、授業への参加態度にもとづいた個人の貢献を勘案します。
平常点評価 Class Participation	65%	60--70%。授業への参加態度、課題・分析への取り組み、チームへの貢献をもとに評価します。各自が目的を持ち、主体的・協動的に作業することを重視します。
その他 Others	15%	10--20%。ゼミの実施に関する活動に協動的にかかわることを評価します。また、上記以外で特筆すべき事項、推奨履修科目の学習状況等も、ここに計上します。

備考・関連URL
Note・URL

<https://semi.on-w.com/>

https://x.com/nakamura_semi

研究は主に、学生であるみなさん自身が次までの課題を決めて宿題を持ちより、メンバーと議論をしながらチームで協動的に作業をすることによって進めます。理科でいえば「実験」のようなもので、机上で考えるだけでなく、ポジティブなコミュニケーションで人と協働しながら手を動かし、自分なりのデータを分析してみたいという方に向いています。これまでの主題例は最新のものも含めて関連URL記載のサイトから見るができます。

あなたはPCやプログラミングに習熟している必要はありません。苦手な方でもできる内容をこころがけてデザインしています。逆に、RやPythonでプログラミングをしたい方にはサブゼミ・卒論で個別に指導することも可能です。

ゼミ全体の流れは次の通りです。(1) まず、内容分析を使ってどういった研究ができるのかをプレ演習から演習Iにかけて学びます。同時に、プレ演習では内容分析の体験をします。(2) 演習Iではヒューマン・コーディングの手法を学びながら、それをを用いた調査プロジェクトをチームごとに実演します。(3) 同様に、演習IIではコンピュータ・コーディングの手法を学びながら、それをを用いた調査プロジェクトをチームごとに実演します。(4) 演習III～IVでは、卒業論文の作成を前提に進めます。ここではチーム内で主題を共有しながら、そのもとで一人ひとりが独立したプロジェクトに取り組みます。たとえば原発報道というチーム主題のもとで、ある学生は新聞に取り組む、ある学生はTVに取り組む、などです。それらの結果を卒業論文にまとめ、年度末に報告します。(5) 演習I～IVにかけては、並行して前後いずれかの時間にサブゼミを実施します。その中では、チームワークの補填をしたり、マス・コミュニケーション理論とジャーナリズム史、R、論文執筆法、エクセルの使い方、コンピュータ・コーディングの詳細、データ分析法といった基礎スキルを学んだりします。(6) また、各学期に2度ほど、サブゼミの時間にメディア・職業人ワークショップをおこないます。なお、プレ演習から演習IにおいてもKH Coderというソフトウェアを補助的に用い、コーディングの視野を広げます。

春学期、秋学期演習とも、第15週に発表をおこないます。

演習I以降には、プレ演習の単位を得ることで進むことができます(ただし、留学帰りなどでプレ演習の履修機会がない方はプレ演習は不要となります)。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

学際領域演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
501	学際領域演習 I (生駒美喜)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	生駒 美喜
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

話しことばと現代社会 (1)

授業概要 Course Outline

私たちは現代社会のあらゆる場面で、話しことばの音声を聞いたり発したりして生活しています。

たとえば、授業中の先生の話、講演会、友人や家族との様々な場所・場面での会話、電話やオンラインツールを用いた会話、駅や電車のアナウンス、店員との会話、政治家のスピーチや討論、選挙演説、ニュース音声、オリンピックなどのスポーツ解説、スポーツ選手のコメント、テレビ番組や映画での会話、漫才の対話、アニメの声、詩の朗読、様々な方言、外国語の音声など。また、話しことばに近いものとしては、SNSでのチャットやスタンプ、絵文字などがあります。

話しことばの音声は、言語的な情報を伝達するだけでなく、話し手の感情やニュアンスや発話意図なども伝達します。

話しことばの音声は、皆さんの専門分野である政治学や経済学をはじめ、様々な学問領域とも密接に結びついています。

この演習では、以上挙げたような現代社会における話しことばに着目した研究を行います。

話しことばを科学的に研究する学問は音声学と言われます。

母音や子音などの個々の音のみならず、発話全体に関わるイントネーション、アクセント、リズム、話速、ポーズ（休止）といった事柄も扱われます。

この演習では、参加者の関心に沿った研究テーマを設定するにあたり、まずはじめに音声学的な基礎を身に付け、話しことばの音声を科学的に分析する手法を学びます。

さらに、グループで一つの研究テーマを見つけ、音声分析を行います。その分析結果を基にグループでのプレゼンテーションを行い、討論した内容もふまえて、グループで一つの研究レポートを作成します。

授業の到達目標 Objectives

学際領域演習全体を通じた到達目標は以下の通りです：

1. 話しことばを科学的・客観的に捉えるための基礎となる音声学の基礎知識、またそれと同時に音声を科学的に分析するための手法を身に着ける。
2. 身近で無意識に用いている話しことばを現代社会とのつながりの中で客観的に捉え、現代社会において話しことばがどのような役割を果たしているのか、演習において話しことばに関する様々な文献を読み参加者同士と教員との討論を行いながら熟考する。
3. 話しことばと現代社会に関連する自身の研究テーマを見つけ、先行研究を調べ、先行研究を基に研究の問いを見つけてレポートを執筆する。
4. 参加者同士や教員との議論を基に、自身のテーマにおける研究の問いを具体化し、研究論文を執筆する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

1. 音声学に関連する文献を読む。
2. 音声分析ソフトPraatを用いて、音声分析を行う。
3. 授業での討論やコメントを基に、グループでレポートを執筆する準備を行う。
4. 予備調査として、関心ある研究テーマに沿った音声資料の分析を行う。

授業計画 Course Schedule

授業初回はオリエンテーションおよび教材資料の説明を行います。
2回目以降は、話しことばにおける音声の知識を深めるための文献を輪読します。各自が担当箇所をあらかじめハンドアウトにまとめ、発表し、その発表を基に討論を行います。

輪読の発表・討論と同時並行して、音声分析ソフトP r a a tを用いた音声資料の分析手法を引き続き学びます。

各自が興味ある音声資料を持ち寄り、授業内に分析を行い、その結果を随時発表します。

さらに、参加者の関心あるテーマに沿ってグループで音声分析を行います。

学期末には、教科書の輪読で得た基礎知識と音声分析の手法を基に、グループ研究の結果・考察に基づいてレポートを執筆します。

教科書 Textbooks

プレ学際領域演習においては音声学の入門書を読みました。

春学期の演習では、Praat（音声分析ソフト）の分析手法について書かれている入門書を扱う予定です。

この他、受講生自身の関心のあるテーマに沿って先行研究の論文を探して読みます。

参考文献 Reference Books

初回授業で紹介します。

下記、備考・関連URLを参照してください。

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	50% : 演習における口頭発表、討論への参加度 50% : グループ共同作業で執筆する学期末のレポート

備考・関連URL Note・URL

<https://saitoyoshio.jimdofree.com/%E9%9F%B3%E5%A3%B0%E5%AD%A6/>

（齋藤純男先生のホームページ。音声学に関する情報や文献が紹介されています）

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

学際領域演習 I

2027

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
502	学際領域演習 I (岡本暁子)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	岡本 暁子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

行動生態学と隣接諸科学I

授業概要 Course Outline

ヒトを含む地球上の生き物は、何千万年何億年という時間をかけて変化し、まわりの環境に適応してきた。行動生態学は、生物の行動と生態の進化に関わるさまざまな問題を扱う分野である。本演習では、行動生態学の基本的な知見を習得し、特定の生物もしくはトピックについての研究をする準備をすすめる。同時に、履修者の興味関心にあわせて、行動生態学の隣接諸科学についての知識も深めていく。

授業の到達目標 Objectives

行動生態学の基本的な知見を習得し、特定の生物もしくはトピックについての研究をする準備をする。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

指定されたテキストの予習復習をする。

授業計画 Course Schedule

第1回は演習のガイダンスを実施する。その後の回は、演習参加者による報告と討論、資料を参照しながらの討論などをおこなう。

教 科 書 Textbooks

第1回目の演習時に提示する。

参考文献 Reference Books

演習中に適宜紹介する。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末の発表とそのまとめを評価する。
平常点評価 Class Participation	50%	演習への出席、課題の達成度、討論への取り組みなどを、総合的に評価する。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

授業実施方法については適宜連絡する。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

学際領域演習 I

2027

整理番号 No.	科 目 名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
503	学際領域演習 I (マルチ・オロバル ベルナット)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	マルチ・オロバル ベルナット
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

近世・近代における宗教思想

History of Religious Thought in Modern and Contemporary Times

授業概要 Course Outline

@font-face {font-family:"Cambria Math"; panose-1:2 4 5 3 5 4 6 3 2 4; mso-
font-charset:0; mso-generic-font-family:roman; mso-font-pitch:variable; mso-
font-signature:-536870145 1107305727 0 0 415 0;}@font-face {font-family:游明朝;
panose-1:2 2 4 0 0 0 0 0 0 0; mso-font-charset:128; mso-generic-font-
family:roman; mso-font-pitch:variable; mso-font-signature:-2147482905 717749503 18
0 131231 0;}@font-face {font-family:"¥@游明朝"; mso-font-charset:128;
mso-generic-font-family:roman; mso-font-pitch:variable; mso-font-signature:-
2147482905 717749503 18 0 131231 0;}p.MsoNormal, li.MsoNormal, div.MsoNormal {mso-style-unhide:no;
mso-style-qformat:yes; mso-style-parent:""; margin-top: 0mm;
margin-right:0mm; margin-bottom:8.0pt; margin-left: 0mm;
text-align:justify; text-justify:inter-ideograph; line-height:107%; mso-
pagination:none; font-size:11.0pt; font-family:"游明朝", serif; mso-ascii-font-family:
游明朝; mso-ascii-theme-font:minor-latin; mso-fareast-font-family:游明朝; mso-
fareast-theme-font:minor-fareast; mso-hansi-font-family:游明朝; mso-hansi-theme-font:
minor-latin; mso-bidi-font-family:Arial; mso-bidi-theme-font: minor-bidi;}.
MsoChpDefault {mso-style-type:export-only; mso-default-props: yes;
font-size:11.0pt; mso-ansi-font-size:11.0pt; mso-bidi-font-size: 11.
0pt; font-family:"游明朝", serif; mso-bidi-font-family:Arial; mso-
bidi-theme-font:minor-bidi; mso-font-kerning:0pt; mso-ligatures: none;}.
MsoPapDefault {mso-style-type:export-only; margin-bottom: 8.0pt;
line-height:107%;}div.WordSection1 {page:WordSection1;}このゼミでは、近世から現代に至る宗教史お
よび宗教思想史を研究します。特に、思想史学・宗教社会学という視座より、西洋・日本における宗教史に対
する理解を深め、宗教と社会、宗教と政治、宗教と道徳との関係について考えていきたい。

This seminar is dedicated to studying the history of religion and religious thought from the early modern period to the present. We will pay particular attention to the West and Japan from the perspectives of intellectual history and the sociology of religion. We will examine the relationships between religion and society, religion and politics, and religion and morality.

授業の到達目標 Objectives

ゼミの主な目的を以下の要点にまとめる

- ・宗教思想史・宗教社会学の基礎知識を身につける。
- ・思想史・宗教思想史の観点から、西洋人・キリスト教信者のものの見方自体、そして彼らがどのように異文化・異宗教を理解したのかを分析する。
- ・日本の伝統的宗教について学び、その独自の変容、または西洋の影響による変容を理解する。
- ・宗教思想史・宗教社会学から現代世界や現代日本の宗教動向を学ぶ。

The main purposes of the seminar are summarized in the following points:

- ・Acquire basic knowledge of the history of religious thought and sociology of religion.
- ・Analyze the Westerner's (Christians) understanding of themselves, and how they viewed different cultures and religions from the perspective of the history of religious thought.
- ・Learn about traditional Japanese religions and understand their transformations, and also how they were influenced by Western thought and religion.
- ・Learn about the religious trends of modernity from the perspective of the history of religious thought and sociology of religion.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

教科書は特になく、事前に、文献リスト、課題となる論文等を配布する。基本的には日本語で著された文献（学生の能力・ニーズに応じて外国語で書かれた著作も使用する）を読解、分析し、その内容について皆で自由に討論する。また、卒論を書きたい学生は自分自身で問いを立て、自分にとって最も面白い研究主題を絞り、卒業論文を完成させる。宗教に関するものであれば、研究テーマの選択は完全に自由である。卒業論文の執筆で使用する可能な言語は日本語、スペイン語、英語、フランス語またはカタルーニャ語である。

We will not use any textbooks. I will distribute the reading materials (academic papers or book chapters) in advance. Students must read and analyze documents in Japanese (also use works written in foreign languages depending on students' abilities and needs) and discuss the contents freely with everyone. However, if members of the EDP join the seminar, I will try to provide materials in English. Students who want to write a graduation thesis must narrow down the research topics that are most interesting to them and complete their graduation thesis. As far as the research topic is related to religion, students have complete freedom to choose. Possible languages for writing the thesis are Japanese, English, Spanish, French, or Catalan.

授業計画 Course Schedule

- 第1回：
導入Introduction
- 第2回：
中世ヨーロッパの世界観。中世ヨーロッパにおける宗教と社会、宗教と政治 I
Worldview of medieval Europe. Religion and Society, Religion and Politics in Medieval Europe I
- 第3回：
中世ヨーロッパの世界観。中世ヨーロッパにおける宗教と社会、宗教と政治 II
Worldview of medieval Europe. Religion and Society, Religion and Politics in Medieval Europe II
- 第4回：
中世ヨーロッパに誕生した「宣教」の意義
The meaning of "mission" in medieval Europe
- 第5回：
大航海時代におけるキリスト教宣教活動（アメリカ・アジア）I
Christian missionaries during the Age of Discovery (their activities in America and Asia) I
- 第6回：
大航海時代におけるキリスト教宣教活動（アメリカ・アジア）II
Christian missionaries during the Age of Discovery (their activities in America and Asia) II
- 第7回：
ルネサンス文化と宗教改革
Renaissance Culture and Reformation
- 第8回：
宗教改革と近世国家 I

Reformation and the Modern State I

第9回：

宗教改革と近世国家 II

Reformation and the Modern State II

第10回：

絶対君主制と宗教

Absolute monarchy and religion

第11回：

西洋の植民地主義とキリスト教宣教師活動との関係 I

Relationship between Western colonialism and the Christian missionary I

第12回：

西洋の植民地主義とキリスト教宣教師活動との関係 II

Relationship between Western colonialism and the Christian missionary II

第13回：

啓蒙主義と宗教。政教分離の芽生えについて

Enlightenment and religion. On the origin of the separation of Church and State

第14回：

総合討論

General discussion

教科書
Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	期末レポート
平常点評価 Class Participation	50%	演習への出席、課題の達成度、討論への取り組みなどを、総合的に評価する
その他 Others	20%	課題

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

学際領域演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
504	学際領域演習 I (室井禎之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	室井 禎之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

コミュニケーションとことば

授業概要 Course Outline

私たちの社会を作り上げているものはそのメンバーの間のコミュニケーションです。もちろんコミュニケーションにはさまざまな種類のものがありますが、ここで取り上げるのは、ことばによるコミュニケーションです。しかしこれらとの関連で、異なるタイプのコミュニケーション（たとえばノンヴァーバルコミュニケーション）について考えることもできます。

参加者は自分の問題意識に従って研究テーマを設定することができます。たとえば、さまざまなタイプのコミュニケーションにおけることばの働き、言語のヴァリエーション（地域的変種、社会的変種など）、社会とことば、言語政策、対人関係のことば、異文化コミュニケーション、などが考えられます。授業では、それぞれの問題意識に沿って、どのようなアプローチがありうるのか、先行研究には何があるのかなどを案内しながら、考えます。演習ですから、学生の発表とディスカッションを中心に進めて行きます。

あらゆるコミュニケーション形態の基礎となっているのは個人の間のコミュニケーションです。そこにおけることばの働きについては、語用論 (Pragmatics) と呼ばれる言語学の一分野での研究を知ることが不可欠です。授業ではその主要な理論や分析方法についての導入も行います。また必要に応じてことばの働きそのものについての紹介もします。

授業の到達目標 Objectives

1. コミュニケーションとことばについて自覚的になり、自らのコミュニケーションを反省的に見、改善につなげる試みが行えるようにすること。
2. コミュニケーションに関わるファクターと、それらの働きについて知ること、他者のコミュニケーションを理解する能力を高めること。

以上2点が本演習の I から IV を通して学修することによって到達する目標です。最初の段階である I ではコミュニケーションとことばについて考えるための基礎を得ることに重点を置きます。具体的には、参加者の問題意識に対応するテーマの基本的な文献を選び、その理解を通じてコミュニケーションに対する感覚を養い、分析のための手法を得ます。また次の段階への展望を開きます。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

自分のテーマについての文献を探し、読み、発表を準備すること。ディスカッションにもとづき振り返りを行い、追加調査を行うこと。上記の作業を踏まえてレポートを執筆すること。教科書を読み、その内容について考察すること。授業後に振り返りを行うこと。

授業計画
Course Schedule

第1回の前半は簡単なオリエンテーションを行います。輪読・発表の順番は3月中旬に調整します。

2回目以降は教科書の輪読および発表と討論を行います。

輪読：教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

発表と討論：参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

教科書
Textbooks

今井邦彦『語用論への招待』（大修館）

参考文献
Reference Books

D. スペルベル/D. ウィルソン『関連性理論』（研究社）

P. グライス『論理と会話』（勁草書房）

安井稔『言外の意味』（研究社）

J. サール『言語行為』（勁草書房）

他に、各自のテーマに応じた参考文献

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	学期中の成果と次の段階への展望をまとめたレポートを学期末に提出
平常点評価 Class Participation	50%	授業時の口頭発表、およびその振り返り、ディスカッションへの参加状況
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

学際領域演習 I

2027

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
505	学際領域演習 I (ロペスアルフレド)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	ロペス アルフレド
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

西洋文学論

授業概要 Course Outline

文学はどう定義すればいいのか？その本質は何であるのか？読者は本を読むということから何が得られるのか？人間にとってフィクションが必要なのか？ヨーロッパではこのような質問に答えようとする人が、西洋文化が形成され始めるや否や次々に現れてきました。ギリシャ・ローマ時代からアリストテレス、ホラチウスを中心に文学についての考察は一つの欠かせない要因となっているのは間違いのないことです。18, 19世紀のロマン主義を経て、とくに20世紀以降では人文科学の目覚ましい発展の中で文学論がなくてはならない学問として認められるようになりました。

この講義では西洋で文学について考えられたことを紹介しながら本を読むことはどこまで有意義で楽しいことなのかを確認して、様々な意味での文学の重要性を強調し、抽象的な考え方を発展させ西洋文化の理解を深めることを目指します。

授業の到達目標 Objectives

文学の理解を深める。これにより西洋文化をより分かりやすくする。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

各授業の前にその日を読む予定のテキストを確認して、その後も一度理解度を確認する。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：
本講義の目的と概要について説明します。
- 第2回：
文学とは何か(1)
- 第3回：
文学とは何か(2)
- 第4回：
文学とは何か(3)
- 第5回：
アリストテレスの「詩学」(1)
- 第6回：
アリストテレスの「詩学」(2)
- 第7回：
アリストテレスの「詩学」(3)
- 第8回：
アリストテレスの「詩学」(4)
- 第9回：
アリストテレスの「詩学」(5)
- 第10回：
アリストテレスの「詩学」(6)
- 第11回：

アリストテレスの「詩学」(7)
 第12回：
 アリストテレスの「詩学」(8)
 第13回：
 アリストテレスの「詩学」(9)
 第14回：
 学生の発表

教科書 Textbooks

アリストテレス・ホラティウス 「私学・詩論」 岩波文庫
 プレ演習のほうで
 内多毅 「現代文学理論入門」 創元社を使用する。

参考文献 Reference Books

T. イーグルトン 「文学とは何か」 岩波書店

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席や授業に取り込んだこと、発表を評価する

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>